

昭和63年度 神戸市埋蔵文化財年報



1994

神戸市教育委員会

昭和63年度 神戸市埋蔵文化財年報

1994

神戸市教育委員会

序

昭和63年度の埋蔵文化財調査は、都市再開発事業や、交通網の整備などの開発事業等、民間の共同住宅建設事業等の増加につれ発掘調査件数が大幅に増加しました。

この間、発掘調査体制の充実にも努力しました結果、住吉東古墳の発見をはじめ、垂水・日向遺跡での縄文時代早期の足跡の発見など大きな成果が得られました。

ところで、本市の文化財専門委員を永くつとめて頂き、多くのご指導・ご助言をいただいております小林行雄先生が亡くなられたのもこの年度でありました。考古学界の発展に大きく寄与され、多くの功績を残された先生のご冥福をお祈りいたしたいと思います。

本書は、昭和63年度に実施した発掘調査の概要を記したもので、市内で発見された「祖先の遺産」の記録です。市内の遺跡や、その出土遺物を通じて、神戸市の歴史を知っていただければ幸いです。

最後になりましたが、事業の実施にあたり、御協力を賜りました関係各位に対し、深く感謝をいたします。

平成6年3月

神戸市教育委員会

例 言

1. 本書は、神戸市教育委員会が昭和63年度に実施した埋蔵文化財事業の概要である。事業に関わる発掘調査は、神戸市文化財専門委員の指導を得て下記の調査組織によって行った。

調査関係者組織表

神戸市文化財専門委員（埋蔵文化財部会委員）

(故) 小林 行雄 榎上 重光 宮本長二郎	京都大学 名誉教授 神戸新聞社監査役 神戸市立博物館副館長 奈良国立文化財研究所
-----------------------------	--

教育委員会事務局

(財)神戸市スポーツ教育公社

教育長 緒方 学 社会教育部長 岡村 二郎 文化財課長 西川 知佑 埋蔵文化財係長 奥田 哲通 文化財課主査 中村 善則 事務担当学芸員 渡辺 伸行・西岡 巧次 調査担当学芸員 丸山 潔 ♪ 丹治 康明 ♪ 千種 浩 (保存処理担当) ♪ 西岡 誠司 ♪ 山本 雅和 ♪ 安田 滋 ♪ 前田 佳久 ♪ 須藤 宏 ♪ 佐伯 二郎 ♪ 山口 英正 ♪ 東 喜代秀 ♪ 松林 宏典 嘱託職員 内藤 俊哉 ♪ 橋詰 清孝 ♪ 中村 健二	理事長 宮岡 寿雄 副理事長 緒方 学 専務理事 垂井 圭司 専務理事 畑岡 瑞夫 常務理事 白石 仁志 総務部長 藤井 浩 総務課長 静観 士一 文化財調査係長 中村 善則 (文化財課主査兼務) 調査担当学芸員 菅本 宏明 ♪ 口野 博史 ♪ 黒田 恭正 ♪ 谷 正俊 ♪ 斎木 巖 ♪ 水島 正稔 ♪ 池田 毅
--	--

2. 本書に掲載した位置図は、神戸市立中学校教育研究社会科研究部編集（神戸市スポーツ教育公社発行）の5万分の1神戸市全図の一部を、また各遺跡の位置図は、神戸市発行2500分の1地形図の一部を使用した。
3. 本書は、埋蔵文化財発掘調査一覧表に示した各調査担当者が執筆して作成し、山本雅和・東畑幸子の協力を得て丹治康明が編集を行った。
4. 表紙写真は、住吉東古墳出土の馬形埴輪（表表紙）、同古墳出土の家形埴輪（裏表紙）である。（撮影：楠華堂 楠本貞紀子氏）

目 次

序

例 言

I. 昭和63年度事業概要	1
昭和63年度埋蔵文化財発掘調査・覧表	5
昭和63年度神戸市埋蔵文化財調査地位置図	9
II. 発掘調査の概要	17
1. 神出・東遺跡	17
2. 鍋谷池遺跡	29
3. 西盛南遺跡	35
4. 堅田遺跡	43
5. 大畑遺跡	55
6. 印路遺跡	61
7. 居住遺跡 第8次調査	69
8. 出合遺跡 第26次調査	83
9. 吉田南遺跡 第17次調査	87
10. 上池遺跡	104
11. 長谷遺跡	107
12. 舞子・東石ヶ谷遺跡	117
13. 垂水・日向遺跡 第1次調査	121
14. 権現町遺跡	131
15. 戎町遺跡 第3次調査	135
16. 三番町遺跡 第2次調査	151
17. 三番町遺跡 第3次調査	159
18. 中宮黄金塚古墳	163
19. 郡家遺跡御影中町地区 第2次調査	167
20. 郡家遺跡御影中町地区 第3次調査	173
21. 住吉宮町遺跡 第9次調査	181
22. 住吉宮町遺跡 第11次調査	199
23. 淡河中村遺跡	205
24. 上小名田遺跡	215
25. ショブ谷遺跡・稻荷神社裏山古墳群	227
26. 宅原遺跡豊浦・宮ノ元・西豊浦地区	235
27. 宅原遺跡岡地区	271
III. 昭和63年度の保存科学処理	279

挿 図 目 次

fig. 1	調査地位位置図	17	fig. 41	S B02平面図	37
fig. 2	第1地点遺構分布図	18	fig. 42	S B02(南から)【写真】	38
fig. 3	S X02上層 罎と土器出土状況(北から) 【写真】	18	fig. 43	S B01・02(東から)【写真】	38
fig. 4	S X03検出状況(東から)【写真】	19	fig. 44	掘立柱建物とS T01平面図	39
fig. 5	第2地点粘土探掘坑平面図	19	fig. 45	S P05-08・S T01(西から)【写真】	39
fig. 6	第2地点粘土探掘坑群(西から)【写真】	20	fig. 46	S T01実測図	39
fig. 7	第4地点4トレンチ配置図	20	fig. 47	S T01(北東から)【写真】	40
fig. 8	第6地点出土瓦折影	21	fig. 48	S K01実測図	40
fig. 9	第6地点トレンチ2遺構平面図	22	fig. 49	S K01(西から)【写真】	40
fig. 10	S P02遺物出土状況図	22	fig. 50	掘立柱建物実測図	41
fig. 11	S P02遺物出土状況(南から)【写真】	22	fig. 51	出土遺物実測図	42
fig. 12	S P02出土軒平瓦	22	fig. 52	調査地位位置図	43
fig. 13	トレンチ4北半遺構平面図	23	fig. 53	調査地遠景(東から)【写真】	43
fig. 14	粘土探掘坑平面図	24	fig. 54	自然流路(西から)【写真】	44
fig. 15	粘土探掘坑S D01(東から)【写真】	24	fig. 55	石器実測図	45
fig. 16	粘土探掘坑出土遺物実測図	24	fig. 56	縄文・弥生土器実測図	45
fig. 17	粘土探掘坑出土遺物実測図	25	fig. 57	S X01(北から)【写真】	46
fig. 18	S D01遺物出土状況(東から)【写真】	25	fig. 58	S X01平面図	46
fig. 19	S D01遺物出土状況平面図	26	fig. 59	S X01出土遺物実測図	47
fig. 20	S D01遺物出土状況(西から)【写真】	26	fig. 60	S B01・02(西から)【写真】	48
fig. 21	S D01遺物出土状況(東から)【写真】	26	fig. 61	S B03(東から)【写真】	48
fig. 22	S D01出土遺物実測図	27	fig. 62	B～E区遺構平面図	49
fig. 23	S K04遺物出土状況(東から)【写真】	28	fig. 63	S D01平面図	50
fig. 24	S K04・11出土遺物実測図	28	fig. 64	S D01下層土器出土状況(東から)【写真】	50
fig. 25	調査地位位置図	29	fig. 65	F・G区遺構平面図	50
fig. 26	遺跡全景(北から)【写真】	29	fig. 66	出土遺物実測図	51
fig. 27	調査地平面図	30	fig. 67	B区出土遺物実測図	53
fig. 28	S B01平面・断面図	31	fig. 68	C区全景(東から)【写真】	54
fig. 29	S B01完掘状況(北から)【写真】	31	fig. 69	調査地位位置図	55
fig. 30	S B01炭化材検出状況(北から)【写真】	31	fig. 70	調査地全景(東から)【写真】	56
fig. 31	S T01平面・断面図	32	fig. 71	トレンチ全景(南から)【写真】	56
fig. 32	S T01実測図	32	fig. 72	1トレンチ遺物出土状況(南から)【写真】	56
fig. 33	S T01(西から)【写真】	32			56
fig. 34	調査地全景(南から)【写真】	33	fig. 73	2トレンチ遺物出土状況(北から)【写真】	57
fig. 35	S X04(南から)【写真】	34			57
fig. 36	調査地位位置図	35	fig. 74	遺物実測図1)	58
fig. 37	調査区全景(北から)【写真】	35	fig. 75	遺物実測図2)	59
fig. 38	1トレンチ遺構平面図	36	fig. 76	遺物実測図3)	60
fig. 39	S B01実測図	37	fig. 77	調査地位位置図	61
fig. 40	S B01(東から)【写真】	37			

fig. 78	1トレンチSB01・02全景(南西から) 〔写真〕	62	fig. 112	第3遺構面遺構配置図	81
fig. 79	1トレンチ遺構配置図	62	fig. 113	弥生時代前期の遺物拓影	81
fig. 80	1トレンチSD03遺物出土状況 (南東から)〔写真〕	63	fig. 114	弥生時代前期の遺物実測図	81
fig. 81	3トレンチ全景(西から)〔写真〕	63	fig. 115	調査地位置図	83
fig. 82	出土遺物実測図	64	fig. 116	上坑検出状況(南から)〔写真〕	84
fig. 83	8トレンチSX01遺物出土状況	65	fig. 117	水田遺構検出状況(北から)〔写真〕	84
fig. 84	8トレンチSX01全景(東から)〔写真〕	65	fig. 118	出土遺物実測図	86
fig. 85	8トレンチSX01弥生土器出土状況 (北東から)〔写真〕	65	fig. 119	調査地位置図	87
fig. 86	8トレンチSX01出土遺物実測図	66	fig. 120	北地区第1遺構面平面図	88
fig. 87	8トレンチSX01出土遺物拓影	67	fig. 121	北地区第1遺構面全景(南から)〔写真〕	89
fig. 88	14トレンチ全景(北から)〔写真〕	68	fig. 122	SB01全景(西から)〔写真〕	89
fig. 89	14トレンチ平面・断面図	68	fig. 123	SB03全景(西から)〔写真〕	90
fig. 90	調査地位置図	69	fig. 124	北地区第2遺構面平面図	91
fig. 91	調査地区設定図	69	fig. 125	北地区SB14遺構実測図	92
fig. 92	第1遺構面遺構配置図	70	fig. 126	SB14炭化材検出状況(北から)〔写真〕	92
fig. 93	3トレンチ第1遺構面全景(東から) 〔写真〕	70	fig. 127	SB14~18検出状況(西から)〔写真〕	93
fig. 94	3トレンチSD03実測図	71	fig. 128	北地区第2遺構面全景(西から)〔写真〕	94
fig. 95	3トレンチSD03全景(北西から)〔写真〕	71	fig. 129	北地区第3遺構面平面図	95
fig. 96	3トレンチSD01遺物出土状況(東から) 〔写真〕	72	fig. 130	第2遺構面遺構全体図	96
fig. 97	出土遺物実測図	72	fig. 131	西地区第2遺構面平面図	97
fig. 98	SD03出土木製品実測図	73	fig. 132	SB07出土異形土器実測図	98
fig. 99	SD03出土木製品実測図	74	fig. 133	西地区第2遺構面下層全景(北から) 〔写真〕	98
fig. 100	4トレンチ全景(西から)〔写真〕	75	fig. 134	西地区SB07遺構平面図	99
fig. 101	4トレンチSD16遺物出土状況実測図	76	fig. 135	第3遺構面遺構全体図	100
fig. 102	4トレンチSD16西厨須臾器・土師器 検出状況(東から)〔写真〕	76	fig. 136	第1遺構面遺構全体図	101
fig. 103	5トレンチSD17平面図	76	fig. 137	北地区第1遺構面全景(北から)〔写真〕	103
fig. 104	SD17出土遺物実測図	76	fig. 138	北地区第2遺構面全景(西から)〔写真〕	103
fig. 105	C-3区SB01実測図	77	fig. 139	北地区第3遺構面全景(西から)〔写真〕	103
fig. 106	A・B・C-1・2・3区第1遺構面 全景(北から)〔写真〕	77	fig. 140	調査地位置図	104
fig. 107	C-3区拡散区(南東から)〔写真〕	77	fig. 141	調査地全景(南から)〔写真〕	105
fig. 108	C-4区全景(SX08上層)(東から) 〔写真〕	78	fig. 142	調査区平面図	105
fig. 109	C-4区(SX08下層)遺物検出状況 (南から)〔写真〕	78	fig. 143	遺物実測図	106
fig. 110	SX08出土遺物実測図	79	fig. 144	調査地位置図	107
fig. 111	第2遺構面遺構配置図	80	fig. 145	第1遺構面全景(南から)〔写真〕	108
			fig. 146	第2遺構面全景(北から)〔写真〕	108
			fig. 147	Aトレンチ第1・2遺構面平面図	108
			fig. 148	Bトレンチ第1・2遺構面平面図	109
			fig. 149	Bトレンチ第2遺構面全景(東から) 〔写真〕	110
			fig. 150	Cトレンチ第1遺構面5区・6区	110
			fig. 151	Cトレンチ第1遺構面1区・2区	110
			fig. 152	C-B区第1遺構面全景(西から)〔写真〕	111

fig. 153	Cトレンチ第1・2遺構面3区・4区	111	fig. 188	第1遺構面SX01生物内産産の土器出土 状況(南から)〔写真〕	139
fig. 154	C-1区SK01遺物出土状況〔写真〕	112	fig. 189	第2遺構面平面図	140
fig. 155	SK01平面・断面図	112	fig. 190	第2遺構面全景(南東から)〔写真〕	141
fig. 156	SK01遺物実測図	113	fig. 191	第2遺構面出土遺物実測図	142
fig. 157	SK01鋤型実測図	113	fig. 192	第2遺構面SB01全景(南東から)〔写真〕	143
fig. 158	C-3区SD08検出状況(東から)〔写真〕	114	fig. 193	第2遺構面SB02全景(南東から)〔写真〕	143
fig. 159	C-3区SD08土器出土状況(東から) 〔写真〕	114	fig. 194	第3遺構面平面図	144
fig. 160	遺物実測図	115	fig. 195	第3遺構面全景(南東から)〔写真〕	145
fig. 161	調査地位置図	117	fig. 196	第3遺構面SB03全景(南東から)〔写真〕	145
fig. 162	調査区平面図	118	fig. 197	弥生時代中期の遺物実測図	146
fig. 163	SB05平面・断面図	119	fig. 198	第4遺構面平面図	147
fig. 164	調査地位置図	121	fig. 199	SK23近景(北東から)〔写真〕	148
fig. 165	C地区東半部耕作痕(南から)〔写真〕	122	fig. 200	SK24・28近景(西から)〔写真〕	148
fig. 166	平安～鎌倉時代遺構配置図	123	fig. 201	B-5区土層断面	149
fig. 167	A地区独立柱建物配置図	124	fig. 202	縄文時代晩期の遺物実測図	149
fig. 168	平安～鎌倉時代の遺構(俯瞰)〔写真〕	125	fig. 203	調査地全景(南から)〔写真〕	151
fig. 169	B地区独立柱建物配置図	125	fig. 204	調査地位置図	151
fig. 170	A地区湿地状地形(南から)〔写真〕	126	fig. 205	遺物実測図(中世遺物包含層)	152
fig. 171	A地区自然堤防付近足跡検出状況 (西から)〔写真〕	126	fig. 206	第1遺構面調査区平面図	153
fig. 172	A地区SK05遺物出土状況(南から) 〔写真〕	127	fig. 207	SD01～08検出状況〔写真〕	153
fig. 173	A地区自然流路内遺物出土状況(西から) 〔写真〕	127	fig. 208	畦畔及び足跡検出状況〔写真〕	153
fig. 174	A地区木材化石出土状況(東から)〔写真〕	128	fig. 209	第2遺構面調査区平面図	154
fig. 175	B地区人間の足跡検出状況(南東から) 〔写真〕	128	fig. 210	遺物実測図(第2遺構面)	154
fig. 176	足跡検出状況平面図	129	fig. 211	第3遺構面調査区平面図	155
fig. 177	A地区木材化石発見状況(南から)〔写真〕	130	fig. 212	流路検出状況(南から)〔写真〕	156
fig. 178	調査地位置図	131	fig. 213	遺物実測図(第3遺構面)	157
fig. 179	調査区平面図	132	fig. 214	第4遺構面調査区平面図	157
fig. 180	第10トレンチ(西から)〔写真〕	133	fig. 215	調査地全景(東から)〔写真〕	158
fig. 181	第3トレンチ(南から)〔写真〕	133	fig. 216	調査地位置図	159
fig. 182	遺物実測図	134	fig. 217	中世遺構平面図	160
fig. 183	調査地位置図	135	fig. 218	SB01・03(南から)〔写真〕	160
fig. 184	第1遺構面SX01平面図	136	fig. 219	遺物実測図	161
fig. 185	SX01出土遺物実測図(1)	137	fig. 220	古墳時代遺構検出状況(南から)〔写真〕	162
fig. 186	SX01出土遺物実測図(2)	138	fig. 221	SB02・03(西から)〔写真〕	162
fig. 187	第1遺構面SX01全景(南東から)〔写真〕	139	fig. 222	古墳時代遺構平面図	162
			fig. 223	調査地位置図	163
			fig. 224	トレンチ平面図	164
			fig. 225	Iトレンチ全景(南から)〔写真〕	165
			fig. 226	玄門部(南東から)〔写真〕	165
			fig. 227	羨道床面遺物出土状況	166

fig. 228	出土遺物実測図	166	fig. 267	堅穴住居群遺構平面図	195
fig. 229	遺物出土状況〔写真〕	166	fig. 268	Ⅱトレンチ平安時代掘立柱建物(南から) 〔写真〕	196
fig. 230	調査地位位置図	167	fig. 269	Ⅱトレンチ全景(南から)〔写真〕	197
fig. 231	第1~2遺構面西平部(東から)〔写真〕	168	fig. 270	調査地位位置図	199
fig. 232	第1~2遺構面東平部(西から)〔写真〕	168	fig. 271	第2遺構面S B01-1(東から)〔写真〕	200
fig. 233	第1~2遺構面平面図	169	fig. 272	第3遺構面S B03(東から)〔写真〕	201
fig. 234	第2遺構面S X06(北から)〔写真〕	169	fig. 273	第3遺構面地鎮遺構S X01(北から) 〔写真〕	201
fig. 235	出土遺物実測図	170	fig. 274	第4遺構面S B06-1・2(北から) 〔写真〕	202
fig. 236	第2遺構面S X05(西から)〔写真〕	170	fig. 275	第5遺構面全景(南から)〔写真〕	203
fig. 237	第2遺構面S X05遺物出土状況〔写真〕	170	fig. 276	第5遺構面S B07(東から)〔写真〕	203
fig. 238	S X05出土滑石製品	171	fig. 277	第5遺構面S B10(北から)〔写真〕	203
fig. 239	S X05実測図	171	fig. 278	映砂遺構断面・平面(北から)〔写真〕	204
fig. 240	第3遺構面東平部(西から)〔写真〕	172	fig. 279	調査地位位置図	205
fig. 241	第4遺構面平面図	172	fig. 280	S E01・02(東から)〔写真〕	206
fig. 242	調査地位位置図	173	fig. 281	S E01埋没状況(東から)〔写真〕	207
fig. 243	第1遺構面遺構配置図	174	fig. 282	S E01・02実測図	208
fig. 244	稲株痕検出状況(東から)〔写真〕	175	fig. 283	S E02遺物出土状況(西から)〔写真〕	209
fig. 245	第1遺構面水田畦畔検出状況(南から) 〔写真〕	175	fig. 284	井戸内出土木製品実測図	209
fig. 246	第3遺構面全景(西から)〔写真〕	177	fig. 285	遺物実測図	210
fig. 247	第5遺構面遺構配置図	178	fig. 286	S B02全景(東から)〔写真〕	211
fig. 248	押型文土器拓影	179	fig. 287	A・B地区遺構図	211
fig. 249	第5遺構面全景(南から)〔写真〕	179	fig. 288	S E01・02近景(南から)〔写真〕	211
fig. 250	調査地位位置図	181	fig. 289	S B01・02実測図	212
fig. 251	奈良時代遺構平面図	182	fig. 290	S B02全景(北から)〔写真〕	213
fig. 252	奈良時代掘立柱建物(南から)〔写真〕	183	fig. 291	S B01・02全景(東から)〔写真〕	213
fig. 253	住吉東古墳全景(南西から)〔写真〕	183	fig. 292	調査地位位置図	215
fig. 254	住吉東古墳平面図	194	fig. 293	Ⅵ区遺構面平面図	216
fig. 255	埴輪出土状況(南側斜面)(南から) 〔写真〕	185	fig. 294	Ⅵ区全景(西から)〔空中写真〕	217
fig. 256	埴輪配置状況(復元)(南東から)〔写真〕	185	fig. 295	Ⅵ区主要遺構配置図	218
fig. 257	喪屋遺構平面図	186	fig. 296	Ⅵ区中央部(北から)〔写真〕	219
fig. 258	喪屋遺構と地割溝(上空クレーンから) 〔写真〕	187	fig. 297	S B16・17・18(南から)〔写真〕	219
fig. 259	地割溝遺物出土状況(東から)〔写真〕	188	fig. 298	S K607平面・立面図	220
fig. 260	住吉東古墳出土遺物実測図	189	fig. 299	S K617土器出土状況(南から)〔写真〕	221
fig. 261	住吉東古墳出土の埴輪実測図	190	fig. 300	S K617平面・立面図	221
fig. 262	2号墳全景(南から)〔写真〕	191	fig. 301	S K636全景(北から)〔写真〕	222
fig. 263	2号墳周溝内須恵器実測図	191	fig. 302	S K636平面・立面図	222
fig. 264	調査区全景(南から)〔写真〕	192	fig. 303	S K625近景(東から)〔写真〕	223
fig. 265	古墳時代遺構平面図	193	fig. 304	S K625平面・立面図	223
fig. 266	2号墳と上層の堅穴住居群(北から) 〔写真〕	194	fig. 305	S K601(西平)(東から)〔写真〕	224
			fig. 306	Ⅸ区S B14(南から)〔写真〕	224
			fig. 307	Ⅸ区S T01蓋板除去後(西から)〔写真〕	225

fig. 308	S T01平面・立面図	225	fig. 346	2トレンチ中世末期遺構内遺物実測図	249
fig. 309	遺物包含層出土遺物実測図	226	fig. 347	2トレンチS K101礎出土状況	249
fig. 310	調査地位位置図	227	fig. 348	2～4トレンチ遺物包含層出土遺物 実測図	249
fig. 311	1号墳(東から)〔写真〕	228	fig. 349	3・4トレンチ遺構配置図	250
fig. 312	6トレンチ古墳時代集石(東から)〔写真〕	229	fig. 350	3・4トレンチ遺物包含層出土遺物 拓影	250
fig. 313	2トレンチD区中世集石群〔写真〕	230	fig. 351	6トレンチS D02出土遺物実測図	251
fig. 314	遺構測量図	231	fig. 352	6トレンチS D02出土皮袋形提鞆	251
fig. 315	調査地位位置図	232	fig. 353	10トレンチS T01平面・立面図	251
fig. 316	第2地点測量図	233	fig. 354	S T01出土遺物実測図	251
fig. 317	宅原遺跡群位置図	235	fig. 355	9トレンチ遺構平面図	252
fig. 318	宮ノ元地区トレンチ配置図	236	fig. 356	9トレンチS X01遺物出土状況図	253
fig. 319	1トレンチS X05出土遺物実測図	236	fig. 357	S X01出土遺物実測図	253
fig. 320	1トレンチ遺構配置図	236	fig. 358	S B05平面・断面図	254
fig. 321	1トレンチS X05出土遺物実測図	237	fig. 359	S B06平面・断面図	254
fig. 322	トレンチ全景(東から)〔写真〕	237	fig. 360	12トレンチ遺構配置図	255
fig. 323	1トレンチS X01出土遺物実測図	238	fig. 361	S B07平面・断面図	256
fig. 324	1トレンチS K01・04出土遺物実測図	238	fig. 362	12トレンチS B05・06・07(北から) 〔写真〕	256
fig. 325	1トレンチ中世遺構出土遺物実測図	239	fig. 363	S B08平面・断面図	256
fig. 326	1トレンチ西半遺構群(東から)〔写真〕	239	fig. 364	S B04平面・断面図	257
fig. 327	豊福地区トレンチ配置図	240	fig. 365	12トレンチS D03～06(西から)〔写真〕	257
fig. 328	1トレンチ遺構配置図	241	fig. 366	S B02平面・断面図	258
fig. 329	1トレンチ全景(東から)〔写真〕	241	fig. 367	S B01平面・断面図	259
fig. 330	1トレンチS B01焼失状況図	242	fig. 368	西暮浦地区トレンチ配置図	260
fig. 331	1トレンチS B01焼失状況(南東から) 〔写真〕	242	fig. 369	2トレンチS K01出土遺物実測図	261
fig. 332	1トレンチS B01完損状況(南東から) 〔写真〕	242	fig. 370	2トレンチS K01平面・断面図	261
fig. 333	1トレンチS B02・03平面図	243	fig. 371	5・6トレンチ第4遺構面平面図	262
fig. 334	1トレンチS T01平面・立面図	243	fig. 372	6トレンチA区第1・2・4遺構面遺構 配置図	263
fig. 335	S T01近景(西から)〔写真〕	243	fig. 373	5・6トレンチS D01出土遺物実測図	264
fig. 336	S T01出土遺物実測図	243	fig. 374	6トレンチS D01杭列(北西から) 〔写真〕	265
fig. 337	2トレンチ古墳時代・中世前半期遺構 配置図	244	fig. 375	6トレンチ自然流路2出土遺物実測図	266
fig. 338	1・2トレンチ全景(南西から)〔写真〕	244	fig. 376	6トレンチ自然流路1出土遺物実測図	266
fig. 339	2トレンチS B301平面図	245	fig. 377	6トレンチS P13遺物出土状況	267
fig. 340	2トレンチS B301出土遺物実測図	245	fig. 378	調査地位位置図	271
fig. 341	2トレンチS B301遺構出土状況 (北から)〔写真〕	246	fig. 379	遺構検出状況(北から)〔写真〕	271
fig. 342	2トレンチS X301～303出土遺物 実測図	246	fig. 380	出土遺構平面図	272
fig. 343	2トレンチ中世末期遺構配置図	247	fig. 381	S D03・04検出状況(南から)〔写真〕	273
fig. 344	2トレンチS B101平面図	248	fig. 382	遺物包含層出土遺物実測図	274
fig. 345	2トレンチS B102～104平面図	248			

fig. 383	溝出土遺物実測図	275
fig. 384	遺構出土遺物実測図(1)	276
fig. 385	遺構出土遺物実測図(2)	277
fig. 386	填砂断面一括転写(住吉宮町遺跡) [写真]	280
fig. 387	木棺が乾かないようにPEG水溶液を 塗る(上小名出遺跡)	280
fig. 388	左半分が剥がし取った木棺の痕跡 (上小名田遺跡)	280
fig. 389	足跡平面転写を巻き取って剥がし取る (垂水・日向遺跡)	280
fig. 390	足跡平面型取り 右半分が型取り部分 (垂水・日向遺跡)	280
fig. 391	切り取る範囲以外を掘り下げる(西神 第55地点2号墳)	281
fig. 392	発泡ウレタンと鋼材で全体を梱包する (西神第55地点2号墳)	281
fig. 393	クレーン車で吊り上げる重さ約13 ^t (西神第55地点2号墳)	281
fig. 394	トレーラーに積込東方約200mの移設 地へ向かう(西神第55地点2号墳)	281
fig. 395	移設地に穴を掘り、元の方位に合わせ て据えつけ、コンクリートで固める。 発泡ウレタンの表面にFRP(合成樹 脂とガラス繊維)を吹きつける(西神 第55地点2号墳)	282
fig. 396	埋め込んだ本体の上に土を盛り、新た に墳丘をつくる。頂部に木棺の復元模 型を置く(西神第55地点2号墳)	282
fig. 397	本物の型をもとに墓壇を復元し、棺の 痕跡から合成樹脂で棺を復元し、遺物 も合成樹脂で復元している(西神第55 地点2号墳)	282
fig. 398	墳丘には一か所に階段を設け、その横 には説明板を置いている(西神第55地 点2号墳)	282
fig. 399	保存処理前の状態(住吉東古墳出土鉄 鏃群)	284
fig. 400	X線透過写真 110KV-5mA-3min(住 吉東古墳出土鉄鏃群)	284

I. 昭和 63 年度 事業 概要

1. 普及啓発 事業 史跡五色塚古墳の公開

史跡五色塚古墳（垂水区五色山4丁目）は、復元整備された前方後円墳として、年間を通じ、無料公開している。昭和63年度は小学校等団体23,786名、個人28,153名、計51,939名の見学者があった。

文化財保護強調月間の催し

大歳山遺跡公園（垂水区西舞子4丁目）では、11月1日から11月7日までの期間、復元竪穴住居の内部の公開とともに、古代人の生活の一部を実際に体験できるよう、火おこし・脱穀等を行った。

「地下に眠る神戸の歴史展Ⅶー古墳時代の造形ー」

例年、11月1日から30日までは、市立旧考古館において、最近の発掘調査で発見された資料を、いち早く知っていただくために、特別展示「地下に眠る神戸の歴史展」を開催している。本年は、特に古墳時代の埴輪や土器など、古代人の造形品に焦点を当てるとともに、近年の発掘調査の成果を広く公開した。

五色塚古墳展示室「住吉東古墳の埴輪たち」の開催

昭和63年度の住吉宮町遺跡の発掘調査で、円筒埴輪や人物・馬形等の形象埴輪が出土した、住吉東古墳が発見された。

市内での大きな発見であったため、これらの出土品を展示した。

地域活動への参加

市内各地の公民館、学校では、様々な地域・文化活動が行われているが、各地域の歴史を地元の方々に知っていただくために、周辺の遺跡の出土遺物や写真パネルの展示会を開催している。今年度は以下の場所で行った。

開催場所

展示会名

- | | | |
|---------|----------|--|
| (1) 西 区 | 玉津町南公民館 | 「西神ニュータウンの今・昔」
西神ニュータウンの開発に伴う調査で出土した遺物の展示 |
| (2) 北 区 | 長尾町公民館 | 「長尾昔物語展」
長尾地区での顧場整備に伴う調査で出土した遺物の展示 |
| (3) 中央区 | 弁合公民館 | 「雲井遺跡展」
雲井遺跡の発掘調査で出土した縄文土器や弥生土器の展示 |
| (4) 中央区 | サンバル内 | 「住吉東古墳展」
住吉東古墳の馬形埴輪や円筒埴輪を中心に展示 |
| (5) 須磨区 | 須磨区民センター | 「古からのメッセージ」
須磨区内の遺跡から出土した土器等を集めて展示 |

現地説明会の開催

発掘調査の状況や成果を市民の方々に知っていただくために、下記のとおり現地説明会を開催し、多くの見学者の参加を得た。

番号	遺跡名	開催年月日	参加者数
1.	住吉宮町遺跡	昭和63年5月29日	約1,300名
2.	垂水・日向遺跡	昭和63年6月26日	約1,500名
3.	住吉宮町遺跡	昭和63年8月7日	約750名
4.	上小名田遺跡	昭和63年8月14日	約120名
5.	郡家遺跡	昭和63年9月4日	約600名
6.	宅原遺跡	昭和63年9月11日	約80名
7.	舞子・東石ヶ谷遺跡	昭和63年11月27日	約350名
8.	大開遺跡	昭和63年12月18日	約400名

刊行物

昭和63年度の埋蔵文化財関係の刊行物は以下の5点である。

1.	昭和61年度 埋蔵文化財年報	頒価 2,000円
2.	昭和61年度 現地説明会資料	頒価 300円
3.	日暮遺跡発掘調査報告書	頒価 1,300円
4.	戎町遺跡第1次発掘調査概報	頒価 1,500円
5.	地下に眠る神戸の歴史展Ⅵ	頒価 100円

2. 文化財調査 事業

平成2年度埋蔵文化財試掘調査および緊急発掘調査状況

	試掘調査件数	緊急発掘調査件数	緊急発掘調査面積
東灘区	56	9	約7,300㎡
灘区	22	2	600㎡
中央区	11	1	30㎡
兵庫区	11	2	2,200㎡
長田区	23	5	2,200㎡
須磨区	12	2	500㎡
垂水区	18	5	7,500㎡
西区	51	21	19,170㎡
北区	20	14	16,500㎡
合計	224件	61件	約56,000㎡

当市における今年度の埋蔵文化財発掘調査件数は94件となり、昨年より9件の増加である。このうち、当教育委員会及び神戸市スポーツ教育公社では61件の埋蔵文化財調査事業を行った。昭和63年度の埋蔵文化財発掘調査に要した経費は7億5千8百万円、調査面積は約56,000㎡であった。

また、開発計画の際に提出される遺跡分布調査依頼件数は296件（開発行為の事前審査、ゴルフ場開発、土地利用目的審査を含む）と前年度より164件の減少であるが、それに基づく試掘調査件数は224件（前年度比33件増）と急激に増加した。これは、開発の計画の段階から、実施の段階に移り変わった為に生じたものと理解される。バブル景気と称された土地に対する投資機動的な関心がピークを迎えようとする時期であった。

これらの調査を地域別に見ると、発掘調査は宅地造成と圃場整備事業が重なって実施された西・北区で半数以上を占めた。旧市街地での発掘調査原因の多くは、再開発事業やマンション建設事業に伴うものであった。

試掘調査の半数以上は、旧市街地でのもので、特に阪神間に位置する東灘・灘の2区で集中する傾向が認められ、今後の発掘調査の増加を予見させる。

また、科学的保存業務によって、遺物の保存および遺構の切り取り等の作業をさらに押し進めた。

市内の調査では、年々縄文時代の遺構・遺物の発見が増加しつつある。今年度は垂水・日向遺跡で、アカホヤ火山灰の下の湿地に残された縄文人の足跡が発見された。我が国最古の足跡の発見である。また、縄文時代後期頃の流路が検出され、土器片のほか大量の自然木が発見された。当時の植生等の自然環境を知るための貴重な資料といえる。

また、郡家遺跡御影中町地区の調査では、高山寺式の押形文土器が土坑から発見され、堅田遺跡では自然流路の中から宮滝式の土器が発見された。付近に当時の集落の発見が予想される。

弥生時代でも重要な発見があった。大開遺跡では、近畿地方最古の環濠集落が発見された。土器も一括資料としては畿内で現在知られる、最も古い段階のものと考えられる。縄文系の突帯文土器も出土しており、遠賀川式土器の伝播の時期や、当時の社会変化を考える上に貴重な資料となろう。

戎町遺跡では、弥生時代前期後半の遺構が今年も発見された。周辺一帯に当時の集落が広がるようである。また、中期以降は引き続き居住地域となるようで、上層では堅穴住居等も発見された。その後、古墳時代まで遺跡は継続しており、堅穴住居などが発見された。

東石ヶ谷遺跡では、中期から後期にかけての高地性集落が発見された。遺跡は明石海峡を望む見晴らしの良い場所に立地している。また、堅穴住居・

遺構遺物の科学的保存業務
3. 市内の遺跡の発掘調査の概要
縄文時代

弥生時代

掘立柱建物の双方が存在し、建物の用途と形態について考えるための重要な資料の提供である。

古墳時代

吉田南遺跡では弥生時代後期から古墳時代にかけての竪穴住居 22 棟・古墳時代前期の掘立柱建物 1 棟が発見された。小規模な調査であったが、複数の遺構面で複雑に切り合って発見された竪穴住居群は、人口密度の高さを物語っている。異形土器など出土遺物にも注目されるものも多い。

淡河中村遺跡では、古墳時代中期の竪穴住居 2 棟が発見された。山間部の小盆地に位置する地域でこのような遺構が発見されたことは、未だ確認されていない遺跡の発見が、今後も増加することを予見させる。

住吉宮町遺跡（第 9 次）では、また洪水に埋もれた古墳が発見された。4 基の古墳の内、1 基は全長 24 m の帆立貝式古墳で、住吉東古墳と故小林行雄博士によって命名された。墳丘の断ち割り調査の段階で発見された掘立柱建物は葬送儀礼と密接に関連する遺構と考えられる。また、古墳の周辺には多くの同時期の竪穴住居が発見されている。多くの遺構・遺物は古墳時代後期の研究の上で多くの問題点を提供した。

中宮黄金塚古墳は、大正時代の発掘調査で豊富な副葬品が出土した古墳であったが、市街化の際に消滅したものと考えられていた。今回の調査では石室の保存状態がよく、石室の規模や築造の時期をしる手掛かりが得られた。

歴史時代

上小名田遺跡の調査では、今年度も多くの掘立柱建物が発見された。平安時代中頃の四面廂の建物や平安時代後期の大規模な建物の存在は、一般の集落と異なった様相を示している。また、緑釉の香炉や石帯などの出土遺物からも、この建物群が有力者の居館であった可能性は高いと考えられる。

垂水・日向遺跡では、平安時代後期から鎌倉時代にかけての、15 棟の掘立柱建物が発見された。建物は同一軸の方向性で、南北 2 群に分かれる。その間の部分には、遺構の分布の希薄な空間が認められた。各々が塀などで囲まれた屋敷地を想定させるものである。また、立地や出土遺物から漁労と密接に関係する遺跡と考えられる。

長谷遺跡では、中世の鑄造遺構が発見され、石製の鑄型が出土した。鑄型は破損し小片であるため、何をつくる鑄型かは不明である。

昭和63年度埋蔵文化財発掘調査一覧表(1)

番号	事業名	遺跡名	所在地	調査主体	調査面積	調査期間	調査内容	調査担当者
1	神戶地区臨海整備事業	神出遺跡	西又神出町	神戸市教育委員会	2,130㎡	63.10.11～01.02.23	鎌倉時代の土器・漆器・奈良・平安朝の遺物	坂野 宏
					1,600㎡	63.06.20～63.07.16	試掘、簡易区、中世遺物	
2	小・小幡地区園地整備工事	足清跡	西又神出町	神戸市教育委員会	100㎡	63.05.09～63.05.10	弥生時代、遺物なし、少量の遺物	坂野 宏
					24㎡	63.07.11	試掘調査、少量の遺物、発掘不可	
3	神戶地区臨海整備事業	神西遺跡	西又神出町	神戸市教育委員会	60㎡	63.08.03	弥生時代、土土中世遺物	富山直人
					23㎡	63.07.16	試掘調査、中世ピット	
4	西宮南地区園地整備工事	西宮南遺跡	西又神出町	神戸市教育委員会	64㎡	63.06.16～63.06.18	試掘調査	富山直人
					34㎡	63.11.30～63.12.01	内陸時代中期、中世の遺物包含層、山積時代後期の移住住居	
5	西神奈川地区園地整備工事	西神奈川遺跡	西又神出町	神戸市教育委員会	200㎡	63.11.17～63.11.29	古墳時代後期の居住住居	山本雅和
					1,609㎡	63.04.11～63.06.30	弥生時代中期後半の土坑・土器	
6	西神奈川地区園地整備工事	西神奈川遺跡	西又神出町	神戸市教育委員会	3,000㎡	63.07.01～63.08.25	弥生時代中期後半の土坑・土器	山本雅和
					100㎡	01.01.18～01.01.25	試掘調査	
7	西神奈川地区園地整備工事	西神奈川遺跡	西又神出町	神戸市教育委員会	4,000㎡	63.06.01～01.01.28	縄文・弥生・古墳時代の遺物、弥生時代の移住住居、土坑、土器、鎌倉時代の居住建物	山口英正 中野 隆
					180㎡	01.01.17～01.01.31	弥生時代、中世	
8	東田地区園地整備事業	東田遺跡	西又神出町	神戸市教育委員会	90㎡	63.10.06～63.12.13	中世の土坑・ピット	富山直人
					150㎡	63.12.06～63.12.17	試掘調査、中世の遺物包含層	
9	宮富地区臨海整備事業	大畑遺跡	西又神出町	神戸市教育委員会	300㎡	63.04.27～63.05.17	弥生時代後期～中世の遺物	富山直人
					150㎡	63.08.18～63.08.19	弥生時代後期～中世の遺物・ピット	
10	白粉地区臨海整備事業	白粉遺跡	西又神出町	神戸市教育委員会	316㎡	63.05.09～63.05.17	弥生時代、古墳時代、12～13世紀の遺物包含層	山本雅和 中野 隆
					754㎡	63.05.23～63.07.02	弥生時代中期後半の土坑、古墳時代後期の居住住居、中世遺物包含層	
11	泉山遺跡	第6次調査	西又神出町	神戸市教育委員会	140㎡	63.12.05～01.03.15	弥生時代の遺物、弥生時代の移住住居、平安朝後半～鎌倉時代の遺物	山本雅和 富山直人 中野 隆
					840㎡	01.01.23～01.03.31	中世以前の土坑・中世以降の土坑	
12	日根地区園地整備事業	日根遺跡	西又神出町	神戸市教育委員会	60㎡	01.01.06～01.01.17	14～15世紀の城跡、土坑・ピット	富山直人
					852㎡	63.09.19～63.12.15	弥生時代後期～古墳時代後期の土坑・土器、彌生時代の遺物	
13	神戶地区臨海整備事業	神西遺跡	西又神出町	神戸市教育委員会	250㎡	01.01.17～01.03.10	平安時代後期の河原、奈良時代後期～平安時代末期の遺物包含層	西宮 薫 富山直人 中野 隆
					420㎡	63.07.11～63.09.14	平安時代後期～鎌倉時代前半の遺物包含層	
14	水谷地区園地整備事業	水谷遺跡	西又神出町	神戸市教育委員会	60㎡	01.01.12～01.01.14	弥生時代～中世の遺物包含層	山本雅和 東野代秀
					28㎡	01.01.11	試掘調査、ピット2基	
15	三ヶ丘地区園地整備事業	三ヶ丘遺跡	西又神出町	神戸市教育委員会	60㎡	01.01.05～01.01.11	試掘調査、中世遺物包含層	山本雅和 東野代秀
					60㎡	01.01.17～01.01.26	弥生時代の落ち込み状遺物	
16	神戶地区臨海整備事業	神西遺跡	西又神出町	神戸市教育委員会	170㎡	01.01.24～01.02.03	弥生時代の落ち込み状遺物	山本雅和 中野 隆
					130㎡	63.04.14～63.04.21	試掘調査、弥生・中世包含層	
17	神戶地区臨海整備事業	神西遺跡	西又神出町	神戸市教育委員会	122㎡	63.07.16～63.07.26	弥生時代の遺物、落ち込み、中世のピット	山本雅和 中野 隆
					290㎡	63.07.26～63.07.30	中世のピット群・土坑・銅器片、弥生時代中期～後期の遺物	
18	神戶地区臨海整備事業	神西遺跡	西又神出町	神戸市教育委員会	639㎡	63.04.06～63.04.26	試掘調査	山本雅和 東野代秀
					354㎡	01.03.32～01.03.31	中世の遺物、弥生時代の土坑・ピット	
19	神戶地区臨海整備事業	神西遺跡	西又神出町	神戸市教育委員会	80㎡	63.12.20～01.01.15	古墳6基の周溝確認	山本雅和 東野代秀
					2,600㎡	63.08.29～63.11.28	弥生時代の移住住居4棟、弥生時代の移住住居4棟、弥生・後期の居住建物	
20	五色塚遺跡	五色塚遺跡	西又神出町	神戸市教育委員会	100㎡	01.01.26～01.02.02	五色塚古墳の調査	山本雅和

昭和63年度埋蔵文化財発掘調査一覧表(2)

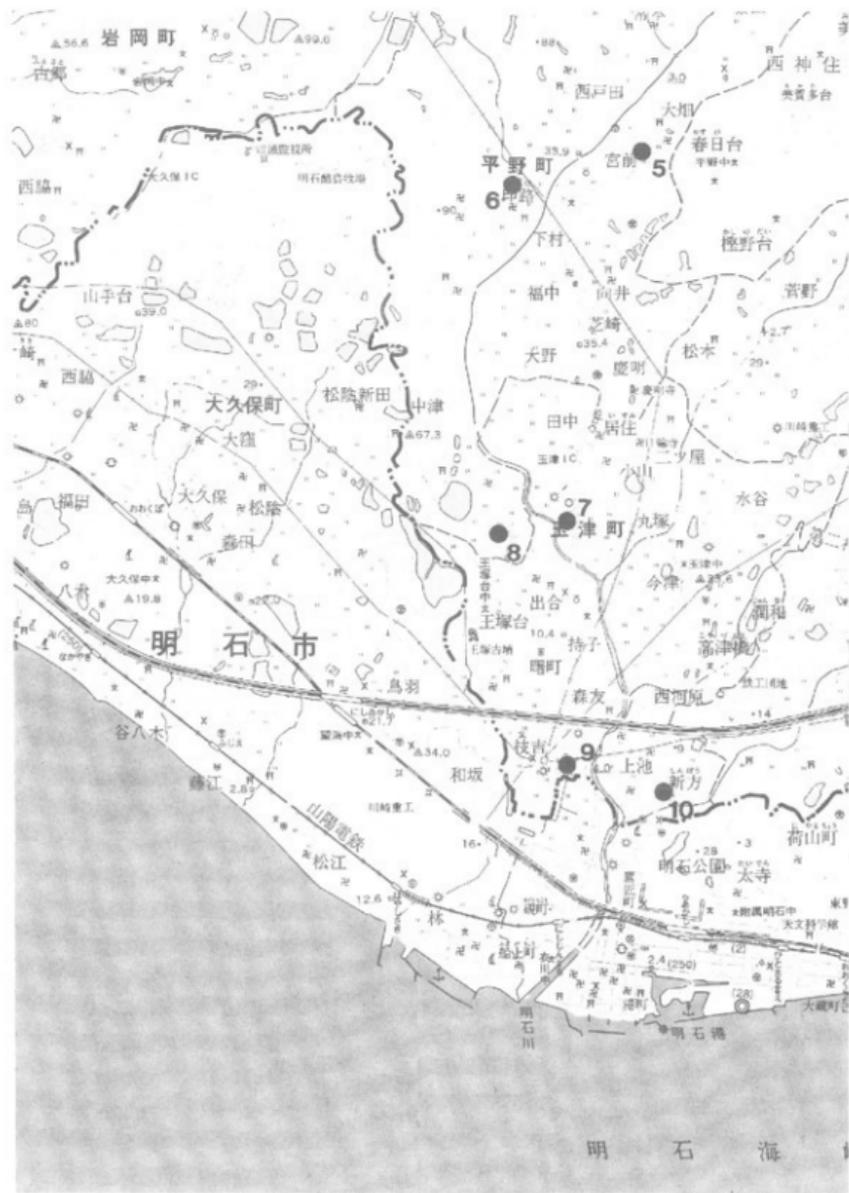
番号	事業名	通称名	所在地	調査主体	調査面積	調査期間	調査内容	調査担当者
36	遠東町東地区 第一中学校跡 埋蔵文化財調査事業	遠水・H内調査 第1次調査	遠水入口町1丁目	神戸ロイヤルスポーツ教育公社	3,700㎡	63.04.01-01.02.20	縄文土・瓦片、発土・大塚自然瓦、土管・磁器類など。中世・近世の遺物も発見された。	佐野 正俊 高木 敏
37	マンション建設	権現川遺跡	東区権現川3丁目	神戸市教育委員会	150㎡	63.06.21-63.07.11	奈良～中世の遺物多数層・ピット	濱田 佳久
38	近郊商業住宅建設	成町遺跡 第3次調査	須磨区又成町3丁目	神戸市教育委員会	37㎡	63.04.06-63.06.30	縄文時代後期の遺物多数層、中世・近世の遺物も発見された。中世・近世の遺物も発見された。	山本 雄利
					263㎡	63.04.06-63.06.30	古墳時代前期の古瓦片	
39	平瀬町宿館ビル建設	神楽遺跡 第3次調査	長田区神楽町2丁目	神戸市教育委員会	100㎡	63.04.06-63.04.12	平安時代の遺物多数層	濱田 佳久
30	長田町西側1丁目 商業住宅建設 埋蔵文化財調査事業	長田村林儀遺跡	長田区大塚町1丁目	神戸ロイヤルスポーツ教育公社	110㎡	63.09.30-63.11.02	縄文時代の遺物多数層、古墳時代の遺物・ピット	岸 止俊
					900㎡	01.03.20-1次年度に継続	土上掘削のみ	
31	市営二番町住宅建設	二番町遺跡 第2次調査	長田区二番町3丁目	神戸ロイヤルスポーツ教育公社	600㎡	63.05.09-63.07.06	弥生前期の遺、古墳時代の遺跡・溝、中世の土管(2層)	門野博史 水崎 正彦
32	住宅地区改良事業	二番町遺跡 第3次調査	長田区二番町3丁目	神戸市教育委員会	435㎡	63.09.05-63.11.11	5世紀前半の遺、14世紀代の掘立建物・土管	堤出 功二
33	市立寺前通教育センター	三沢遺跡	長田区六軒町1丁目	神戸市教育委員会	140㎡	01.03.13-1次年度に継続	縄文時代後期の土坑、古墳時代後期の土管	西岡 成司
34	市立長瀬・大塚小学校新築	長瀬遺跡	長田区大塚町4丁目	神戸市教育委員会	1,600㎡	63.05.03-1次年度に継続	弥生前期前半の縄文遺物、中世の遺・土坑	宮本 宏樹 林本 貴史
35	マンション建設	八尾遺跡	東灘区永沢町1丁目	神戸市教育委員会	700㎡	63.11.01-63.12.19	土坑、土坑状遺構、柱穴遺構	村松 康司
36	遺跡保存・埋蔵文化財調査事業	宇宮黄金塚遺跡	中央区山本浜5丁目	神戸ロイヤルスポーツ教育公社	30㎡	01.03.07-01.03.15	江戸百石堀穴式冢の遺構	宮本 宏樹 林本 貴史
37	区立小学校改築工事	大石東遺跡	東区大石東町6丁目	神戸市教育委員会	350㎡	63.08.11-63.09.30	鎌倉時代の土坑・柱穴・溝	西岡 成司 中村 賢二
38	民間住宅建設 埋蔵文化財調査事業	藤原遺跡	東区藤原町2丁目	神戸市教育委員会	36㎡	01.03.23-01.03.31	弥生時代中期の土坑・溝	富山 哲人
39	個人住宅建設 埋蔵文化財調査事業	新築地跡 城の南側区東部2次調査	東灘区新築町城の南側	神戸市教育委員会	38㎡	63.07.20-63.07.26	弥生時代後期の掘立建物、古墳時代中期の竪穴式瓦葺	濱田 佳久
40	マンション建設	東区新築町中東地区第2次	東区新築町中東2丁目	神戸市教育委員会	200㎡	63.04.27-63.06.21	弥生前期の遺物多数層、古墳時代の竪穴式瓦葺	濱田 佳久
41	市立御影中学校 校舎附属文化財調査事業	御影遺跡 御影中東地区第3次調査	東区御影中東3丁目	北神戸市スポーツ教育公社	1,000㎡	63.08.08-63.12.03	縄文早期の土坑、弥生・古墳時代の土坑	口野博史 水崎 正彦
42	遺跡保存・埋蔵文化財調査事業	住吉町遺跡 第9次調査	東灘区住吉町東5丁目	神戸市教育委員会	3,200㎡	63.04.01-63.10.08	古墳時代後期の掘立建物・方坑・竪穴式瓦葺、弥生時代中期の瓦葺、奈良時代の掘立建物	丹治 孝 須藤 信雄
43	土坑式竪穴に伴う事業跡	住吉町遺跡 第11次調査	東灘区住吉町東6丁目	神戸市教育委員会	1,300㎡	63.05.23-63.08.12	9～11世紀の掘立建物多数、弥生・古墳時代の竪穴式瓦葺	丸山 望 松本 貴史 林本 貴史
44	マンション建設	本心遺跡	東灘区本山町南4丁目	神戸市教育委員会	170㎡	63.05.13-63.05.27	弥生・中世遺物多数層・柱穴・土坑	染島 空
45	マンション建設	本山遺跡	東灘区本山町南1丁目	神戸市教育委員会	60㎡	63.12.16-63.12.23	弥生時代・鎌倉時代の遺物多数層	西岡 成司
46	マンション建設	丹波川遺跡	東灘区本山町東1丁目	神戸市教育委員会	200㎡	63.04.27-63.05.26	古墳時代の土坑・溝、弥生・平安時代の遺物多数層	山口 誠司
47	マンション建設	森北町遺跡	東灘区森北町4丁目	神戸市教育委員会	160㎡	63.10.17-63.10.19	銅器時代	富山 哲人
48	六甲市立科学館2期増築工事	上小名田遺跡	北区八多町上小名田	神戸市スポーツ教育公社	3,910㎡	63.04.15-63.11.01	平安時代中期・鎌倉時代前期の掘立建物13棟・土坑・溝・瓦葺	宮本 宏樹 池田 水樹
49	橋通工事・一田川埋蔵文化財調査事業	上小名田遺跡	北区八多町上小名田	神戸市スポーツ教育公社	300㎡	63.09.19-63.10.22	平安時代中期の河堤	宮本 宏樹 池田 水樹
50	御影ポンプ小屋建設	上小名田遺跡	北区八多町上小名田	神戸市教育委員会	41㎡	63.11.19-63.11.24	12世紀代の柱穴	宮本 宏樹 池田 水樹
51	豊洲神戶・三木町工業団地(仮称)建設 埋蔵文化財調査事業	二上遺跡	北区野町二丁目	神戸市教育委員会	140㎡	63.12.08-63.12.19	鎌倉時代の遺、ピット	安住 謙
52	豊洲神戶・三木町工業団地(仮称)建設 埋蔵文化財調査事業	ショップ遺跡・稲荷神社	北区成島町生野・下田	神戸市教育委員会	470㎡ 180㎡	01.01.13-01.02.01 01.01.31-01.02.21	弥生期、ピット 1次調査、古墳時代後期の瓦葺・奈良時代の掘立建物	宮本 宏樹 池田 水樹
53	北神ノ・丁内遺跡	北区长尾町南東	神戸市教育委員会	1,010㎡	63.04.01-63.06.22	弥生時代の掘立建物・土坑・溝	宮岡 誠司	
54	北神ノ中央緑地建設 埋蔵文化財調査事業	北区长尾町南東	神戸市教育委員会	1,030㎡	63.04.07-63.04.30	鎌倉時代の掘立建物2棟	丸山 望 松本 貴史	
55	北神ノ中央緑地建設 埋蔵文化財調査事業	北区长尾町南東	神戸市教育委員会	180㎡	63.07.20-63.07.29	文化財なし	宮岡 誠司	
56	長田地区西側埋蔵文化財調査事業	北区长尾町南東	神戸市教育委員会	3,080㎡	63.05.20-63.08.21	弥生・古墳時代の掘立建物、奈良時代のピット、平安時代・室町時代の掘立建物	宮岡 誠司 池田 水樹	
					2,980㎡	63.04.04-63.05.11	古墳前期の遺・用水路、成島町跡、弥生・平安・江戸の掘立建物	宮岡 誠司 池田 水樹
					80㎡	63.09.01-63.12.12	鎌倉時代の遺	

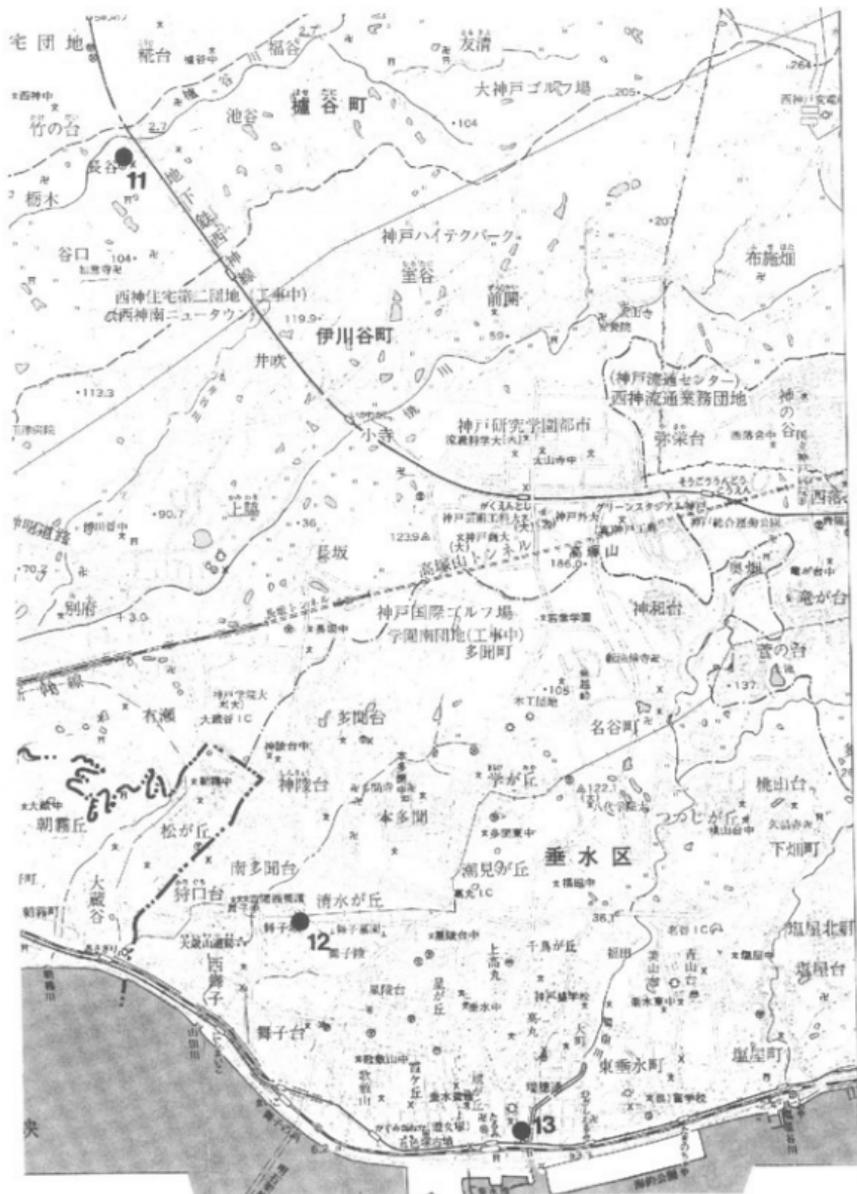
昭和63年度埋蔵文化財発掘調査一覧表(3)

番号	発掘名	遺跡名	所在地	調査主体	調査面積	調査期間	調査内容	調査担当者
57	水真尋法調査	毛原遺跡 河下遺跡	北伏見区町宅原	神戸市教育委員会	35㎡	63.11.07～63.11.28	弥生時代後期・飛鳥・中世・近世の溝、溝跡	中村健二
58	扇山岡・三印塚発掘工事	上土川遺跡	北又長町町上土川	神戸市教育委員会	60㎡	63.12.22～63.12.27	鎌倉時代のピット	安田 滋
59	ゴルフ場建設工事	谷川町遺跡	北区长久保町小名原・肥後	神戸市教育委員会	600㎡	63.08.22～63.07.19	縄縄遺跡、明確な遺構なし	西沢誠司
60	ゴルフ場建設	六甲国際ゴルフ場内遺跡	北伏見山田町南原	神戸市教育委員会	500㎡	63.07.15～63.07.29	縄文時代～中世の遺物(土器、石器、鉄器遺物、土坑)	高田英人
61	河川中干地区跡地整備工事	河川中干遺跡	北区长河町中村	神戸市教育委員会	81㎡	63.05.16～63.05.18	縄縄遺跡、8～9世紀・11～13世紀代のピット、忍倉遺跡、鎌倉時代の柱穴、鎌倉時代の溝、柱穴、井戸、古墳時代の礎石柱	安田 滋
					100㎡	63.07.01～63.07.05		藤山直人
					440㎡	63.12.19～62.12.27		丸山 謙
					930㎡	63.11.01～63.12.18 01.01.05～01.02.03		丸山 謙 松村安夫
62	ホテル建設	甲田遺跡	中央区下山手通2丁目	神戸市教育委員会			古墳時代中・後葉の遺物埋没作業	丸山 謙
63	東海道6丁目地区広場北側開発	赤井遺跡	中央区東海道6丁目	神戸市教育委員会			鎌倉前期・後期、弥生前期・中期の遺物埋没作業	元田肇明
64	マンション建設	都賀遺跡	東灘区都賀町野原	神戸市教育委員会			弥生後葉・古墳前期遺物埋没作業	丸山 謙
65	土地区画整理事業	玉守白川遺跡	西区玉守町白川	兵庫県教育委員会	9,134㎡	63.10.17～01.03.30	縄文時代後期の土坑、弥生時代の墓・水田、古墳時代の礎石柱・埋没柱建物・水田、中世の柱礎建物	大平 啓 中川 裕 藤田 祥 中塚昭九 後藤 豊 栗田茂子
66	団地造成	下野遺跡	西区下野町甲野	兵庫県教育委員会	58㎡	63.12.10～01.01.12	弥生遺物を埋没、遺物なし	山下史郎 山崎清樹
67	福祉センター改修	三津院町古跡	西区三津院	兵庫県教育委員会	40㎡	63.07.27～63.08.12	平安・中世の溝ら込み	村上孝生
68	本区区立給水	高木川遺跡	東水区東岡町	兵庫県教育委員会	48㎡	63.03.08～63.09.09	縄縄遺跡、遺物なし	中塚 秀 高橋 隆
69	河川改修	長日町南遺跡	神戸区御影	兵庫県教育委員会		63.12.01	縄縄遺跡	中川 裕 村上幸樹
					140㎡	63.04.28	古墳調査?	渡辺 昇
					60㎡	63.08.09～63.05.25	古墳時代後期の溝 中世のピット	渡辺 昇 村上幸樹
					70㎡	62.09.27～63.10.08	古墳調査	村上幸樹
70	新文通システム	信宮岡遺跡(坊ヶ家遺跡)	東灘区信宮岡4丁目	兵庫県教育委員会	50㎡	63.10.21～63.10.22	弥生時代後期の遺跡(墓・水田)	渡川上男 西川正介
					35㎡	63.11.21～63.12.17	古墳遺跡、奈良時代の溝・水田	久保弘幸
					267㎡	63.10.27～63.11.11	中世の伊波・後葉7～10世紀の遺物	香川正介 久保弘幸
72	遊池造替	深江北町遺跡	東灘区深江北町5丁目	兵庫県教育委員会	620㎡	01.03.23～01.03.30	古墳時代のピット 中世の大溝	青田 孝 野村博志
73	障子保護	木心町遺跡	東区木心町2丁目	兵庫県教育委員会	250㎡	63.04.25～63.04.26	縄縄遺跡、遺物なし	吉田 美 木村 一夫
74	牛車庫改修	北原遺跡	北区长久保町上土川	兵庫県教育委員会	480㎡	63.11.11～63.11.30	奈良～平安時代後葉の欄干柱建物、溝	山下史郎 山崎清樹
75	中国館貫通	般若古墳	北区长野町三丁目	兵庫県教育委員会	150㎡	63.10.24～63.11.30	7世紀前半の竪穴式石室、高さ3mの構式式石室	山下史郎 山崎清樹
76	神戸児童北沢校	五上町古跡(段原町古跡) 定塚古跡	北又長町町東原	兵庫県教育委員会	160㎡	01.03.06～01.03.29	縄縄遺跡 遺構、溝跡なし	中川 裕 中塚昭九
77	総合教育センター建設	東川崎遺跡	中央区東川崎町1丁目	西野 啓	400㎡	63.07.08～63.07.28	近代の柱建物	真野 修
78	マンション建設	清水女塚古墳	灘区松原3丁目	神戸大学研究部	670㎡	63.07.25～63.08.29	遺構、遺物なし	鎌木義典
79	マンション建設	神戸区北野地内遺跡	清水又五色川3丁目	西野 啓	690㎡	63.07.05～63.10.15	近世遺跡	真野 修
80	マンション建設	西園本遺跡	東灘区西園本6丁目	神戸市教育委員会	1,961㎡	63.10.01～01.03.27	弥生時代後期の墓所	鎌木 久
81	マンション建設	長尾又御崎本丸	長尾又御崎本丸1丁目	藤井 真正	1,200㎡	63.04.11～63.11.17		藤井真正
82	マンション建設	石水町遺跡	東区石水町水町6丁目	阿部 隆治	87㎡	63.11.01～62.12.10		阿部隆治
83	マンション建設	森北町遺跡	東灘区森北町3丁目	川口 公隆	400㎡	63.03.15～63.03.31	古墳時代前期～後期の墓所	川口公隆

昭和63年度埋蔵文化財発掘調査一覧表(4)

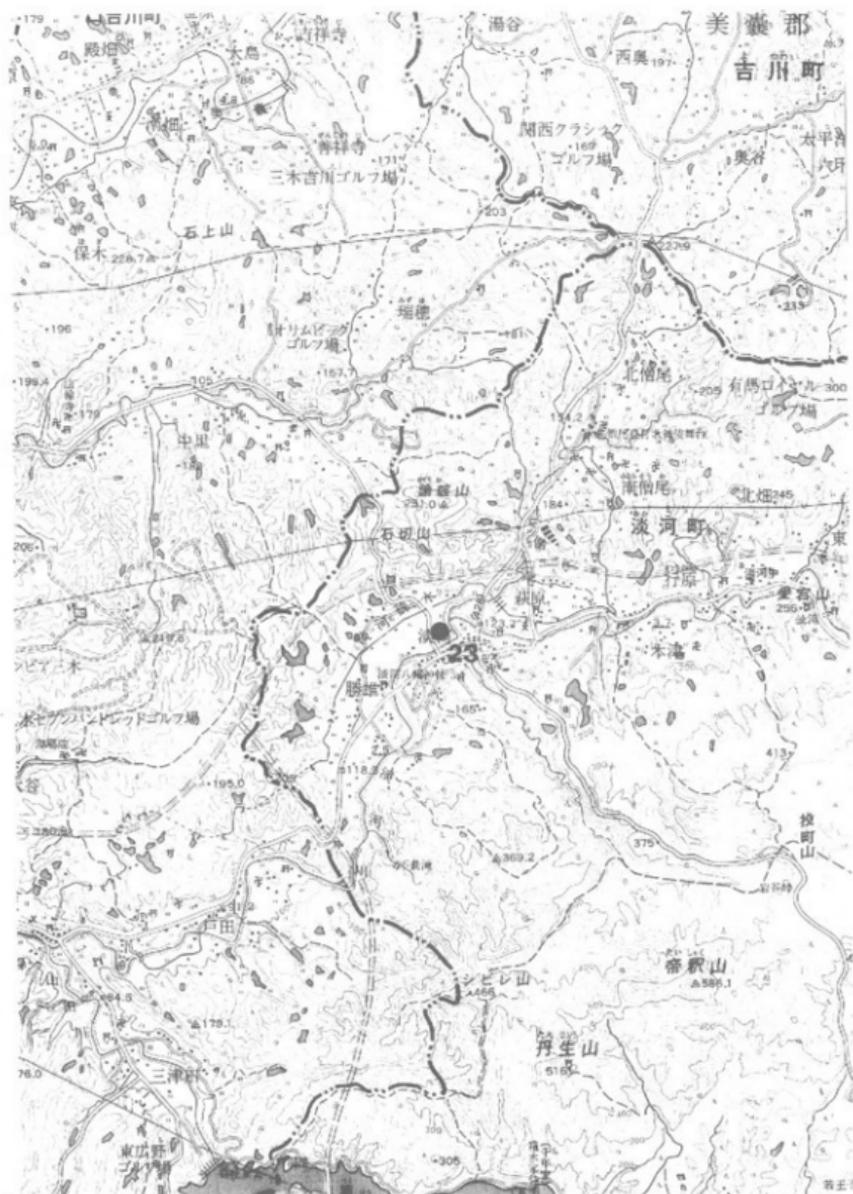
番号	事業名	遺跡名	所在地	調査主体	調査面積	調査期間	調査内容	調査担当者
84	市営住宅建設	三番町遺跡	新田区三番町4丁目	妙見山麓遺跡調査会	447㎡	63.10.20～01.03.25	古墳時代の大溝・段穴住居	熊田幸雄
85	マンション建設	獅子供養所地内遺跡	香水区五色山3丁目	高野 修	2,100㎡	63.11.20～01.03.31	近世墓域	高野 修
86	興隆整備	宅原遺跡	北区長尾町宅原	妙見山麓遺跡調査会	2,000㎡	63.11.20～01.03.25	古墳時代～中世の集落	熊田幸雄
87	マンション建設	魚崎遺跡	東灘区魚崎中町	田代 克己	392㎡	63.12.16～01.01.19		田代克己
88	マンション建設	根野東町遺跡	須磨区東町4丁目	森井 真正	300㎡	63.12.14～01.02.08		森井真正
89	マンション建設	神室遺跡	浜田区神室町6丁目	妙見山麓遺跡調査会	566㎡	01.02.01～01.03.31		熊田幸雄
90	マンション建設	一栗町遺跡	長田区久保町6丁目	神戸女子大学遺跡調査会	421㎡	01.05.01～01.08.31	平安時代後期の集落	藤井利孝
91	マンション建設	橋・荒田遺跡	中央区鶴町6丁目	河本 健介	170㎡	01.02.06～01.02.24	中世の人遺	河本健介
92	マンション建設	徳井町遺跡	灘区徳井町2丁目	妙見山麓遺跡調査会	417㎡	01.03.01～01.03.31	平安時代の集落	熊田幸雄
93	レジャー施設	沢住遺跡	西区玉津町小山平入出	阿部 嗣治	1,167㎡	01.03.01～01.03.31	平安時代の土坑・弥生時代の溝	阿部嗣治
94	興隆整備	特出遺跡	西区特出町東	妙見山麓遺跡調査会	2,600㎡	63.04.20～01.03.31	人遺時代後期の様式石室 平安時代後期の築地	山岸 基











II. 昭和 63 年度の発掘調査

1. 神出・東遺跡

1. はじめに 神戸市西区神出町は、印南野台地の北東部に位置する。神出遺跡は標高 249.5m の独立丘陵雌岡山周辺の隆起扇状地上に存在し、大字では東・南・北・田井・老ノ口などに所在する。神出遺跡は、平安時代後期（11 世紀後半）から鎌倉時代初期（13 世紀前半）にかけての瓦や須恵器の生産遺跡として有名であるが、古墳時代後期（6～7 世紀）の古墳群が存在するとともに、先土器時代から縄文時代の石器の散布も知られる。

神出遺跡に対する組織だった調査は、昭和 40 年代に神戸古代史研究会によって窯址の分布調査が行われたのを嚆矢とする。昭和 51 年に東地区（茶山支群）において平安時代の窯址が発掘調査され、その後、昭和 53 年から土地改良事業に伴う発掘調査が神戸市教育委員会と妙見山麓遺跡調査会によって継続的に行われている。



fig. 1 調査地位位置図 1 : 6000

2. 調査の概要

第1地点

今回の調査は、昭和63年度東地区の土地改良事業に伴う発掘調査である。遺構の磁気探査を行い、その成果をもとに幅1mのトレンチ11本（延長713m）を設定し、調査を行った。

すべてのトレンチで遺物包含層が確認され、トレンチ4でSX01、トレンチ5でSX02、トレンチ9・11でSX03、トレンチ6・7でSX04の遺構が検出されている。

SX01 深さ約20cm、幅4m以上の広く浅い落ち込みで、その北端部分のみを検出した。出土遺物から13世紀前半の遺構と推定される。

SX02 南北に延びる幅約1.7mの溝状の遺構である。深さ約30cmで、溝の中央はさらに15cmほど深い。覆土上層からは礫とともに須恵器片が出土している。出土遺物から13世紀前半の遺構と推定される。



fig. 2 第1地点遺構分布図



fig. 3 SX02上層 礫と土器の出土状況（北から）

SX 03 弧状に巡る幅 60 cm、深さ 20 cm の溝状遺構である。北西部ではその幅が大きく広がる。遺構内には多量の礫が詰め込まれている。礫の間からは土師器・須恵器片が出土している。出土遺物から13世紀前半の遺構と推定される。

SX 04 SX 02 の東にある集石遺構である。南北 8 m 以上、東西 5 m 以上の範囲に礫が集中して



fig. 4 SX 03 検出状況 (東から)

いる。礫の間からは土師器・須恵器片が出土している。出土遺物から13世紀前半の遺構と推定される。

第2地点

幅 1 m、延長 180 m のトレンチと 1 × 1 m の試掘坑 3 箇所を設定して調査を行った。34 基の粘土採掘坑が 36 m の範囲にわたり、相接し、あるいは切り合った状態で確認された。粘土採掘坑は長径が 0.5 ~ 2.0 m の不整形円形である。拍子ヶ池の造池など後世の攪乱によってその上部が削平されており、深さは 10 ~ 30 cm である。粘土採掘坑内からの遺物の出土はなかった。周辺から出土した須恵器は 13 世紀前半のものである。

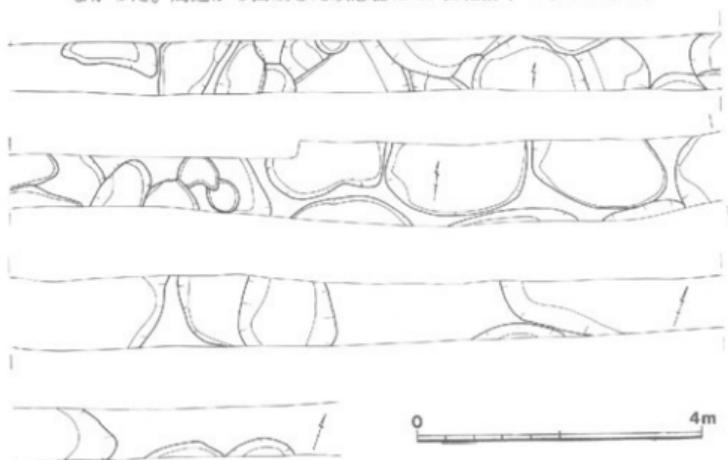


fig. 5
第2地点
粘土採掘
坑平面図

第3地点 幅1m・延長38mのトレンチを設定して調査を行った。遺構・遺物ともに確認されなかった。

第4地点 拍子ヶ池の底にあたる部分に約127㎡の調査区(A区)と拍子ヶ池の堤に幅1.2m・延長8mのトレンチ(B区)を設定して調査を行った。

- A区 A区付近には一面に須恵器・瓦が堆積しており、その東には窠体も露出している。A区部分で採集した須恵器・瓦は28ℓ入りのコンテナに約80杯である。13世紀前半のものである。しかし、調査の結果、この部分は過去の工事によって破壊され、遺構が残存せず、須恵器・瓦は二次的に移動されたものであることが判った。
- B区 灰原の一部が確認され、原位置を保つ須恵器・瓦が28ℓ入りのコンテナに2杯出土した。このほか二次的に移動された須恵器・瓦が28ℓ入りのコンテナに32杯出土した。ともに13世紀前半のものである。

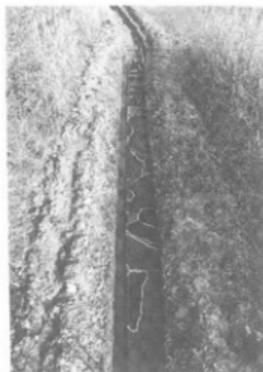


fig. 6 第2地点粘土探掘坑群
(西から)

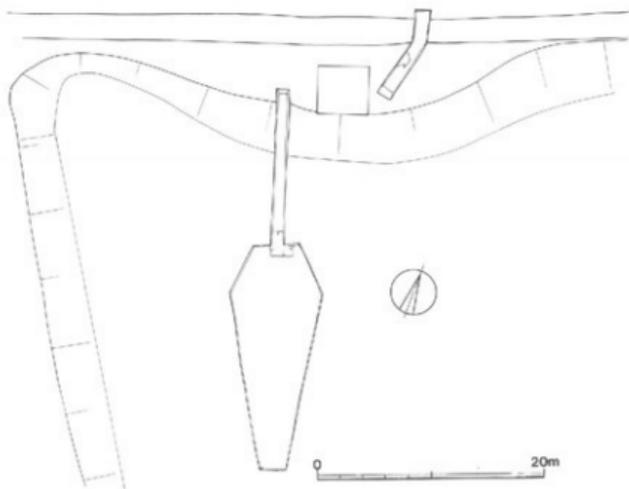


fig. 7 第4地点トレンチ配置図

第5地点 2×2mの試掘坑を6箇所設定して調査を行った。遺構・遺物ともに確認されなかった。

第6地点 幅1.2mのトレンチ2本(トレンチ1・2)、幅1.5mのトレンチ2本(トレンチ3・4)、幅1mのトレンチ2本(トレンチ5・6)、1.2mのトレンチ2本(トレンチ1・2)を設定し(延長523m)、調査を行った。

トレンチ1 長さ30mのトレンチである。幅7mほどの浅い落ち込みが確認され、
灰原1 焼土・灰とともに須恵器・瓦が出土している。灰原と考えられ(灰原1)、この北に竈址の存在することが推定される。また、遺物包含層から出土した須恵器・瓦のなかに梵字の瓦頭文様をもつ軒丸瓦があり注目される。

トレンチ2 長さ102mのトレンチである。

トレンチの北半で柱穴2(SP01・02)と溝1(SD06)が、南半で落ち込み1(SX01)と溝3(SD02・03・04)が検出された。

SP01 径35cm・深さ26cmの柱穴である。須恵器大甕割部の大型破片が出土している。

SP02 径35cm・深さ23cmの柱穴である。破砕された軒平瓦、SP01のものと同一体と思われる須恵器の破片などが出土している。SP01とSP02は同一の掘立柱建物の柱穴であると考えられるが、他の柱穴が調査区外にあるため、建物の形状・規模などについては明らかにしがたい。SP02出土の軒平瓦から12世紀代のものと考えられる。



fig. 8 第6地点出土瓦拓影(S=1/2)

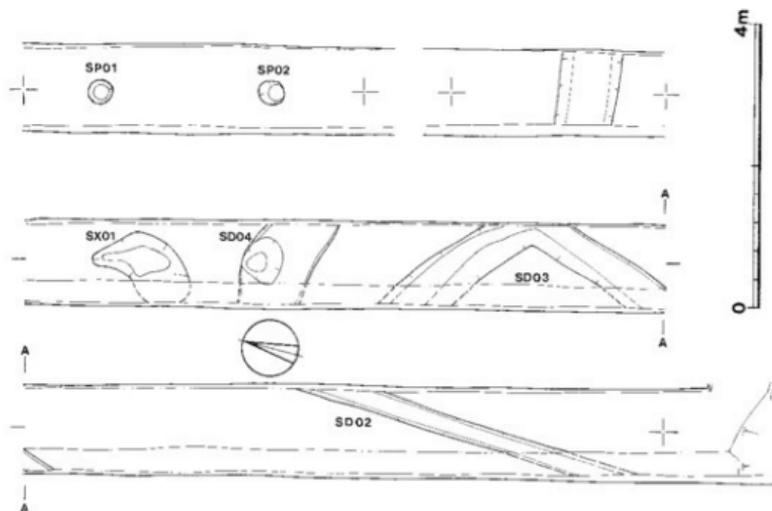


fig. 9 第6地点トレンチ2遺構平面図

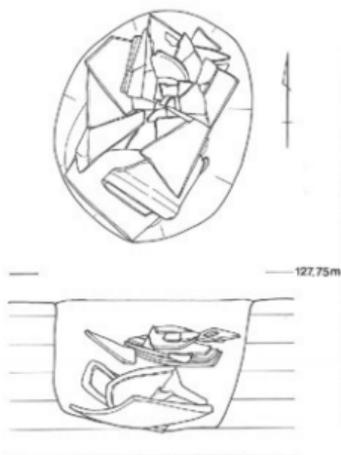


fig. 10 SP 02 遺物出土状況図 (S=1/10)

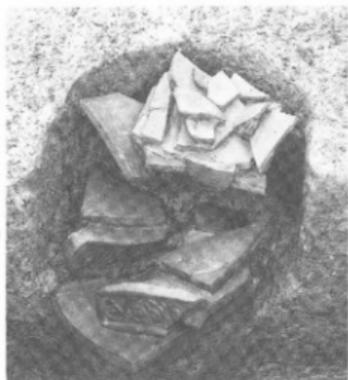


fig. 11 SP 02 遺物出土状況 (南から)



fig. 12 SP 02 出土軒平瓦 (S=1/6)

- SD 06 東西方向に延びる幅 80 cm、深さ 15 cm の溝である。遺物の出土は見られなかった。
- SX 01 1.2 × 1.0 m、深さ 20 cm の不整形の落ち込みである。焼けた扁平な碟とともに須恵器の小片が出土した。12 ~ 13 世紀代のものと考えられる。
- SD 04 東西方向に延びる幅 90 cm、深さ 4 ~ 5 cm の浅い溝である。溝の一部が 80 × 60 cm の楕円形で 40 cm ほど凹み、ここから 13 世紀前半の須恵器鉢が出土している。
- SD 03 西から東へ延び、南へ屈曲する幅 60 cm、深さ約 10 cm の溝である。須恵器の小片が出土した。12 ~ 13 世紀代のものと考えられる。
- SD 02 南北方向に延びる幅 30 cm、深さ 20 cm の溝である。須恵器の小片が出土している。12 ~ 13 世紀代のものと考えられる。
- トレンチ 3 長さ 76 m のトレンチである。柱穴 1 (SP 03) と井戸 1 (SE 02) が検出された。

- SP 03 径 20 cm、深さ 10 cm の柱穴である。出土遺物はない。
- SE 02 径 90 cm、深さ 4 m 以上の素掘りの井戸である。出土遺物はない。崩落の可能性があるので、地表面下 3.7 m で掘削を中止した。
- トレンチ 4 長さ 104 m のトレンチである。トレンチ 6 にまたがって広がる粘土採掘坑 (SK 11・16 ~ 49 他) 50 基以上、溝 4 条 (SD 01・07・08・09)、土坑 2 基 (SK 02・04)、柱穴 7 基 (SP 09 ~ 15) が検出された。
- SK 11 検出面では幅 9 m 以上の遺構であると認められたが、遺構を掘り下げていく段階で 6 基以上の粘土採掘坑の切り合った状態が確認された。それぞれの大きさは 3 m 程度で不整楕円形である。それぞれの粘土採掘坑が一定の深さまで埋められ、あるいは埋没したのち、その上を褐色粘土質シルトが覆ったものと考えられる。粘土採掘坑の切り合った状態を確認した面の高さが工事影響範囲の高さを下回ったため、この遺構の調査はこの時点で中止した。上層出土の須恵器は 12 世紀後半のものである。

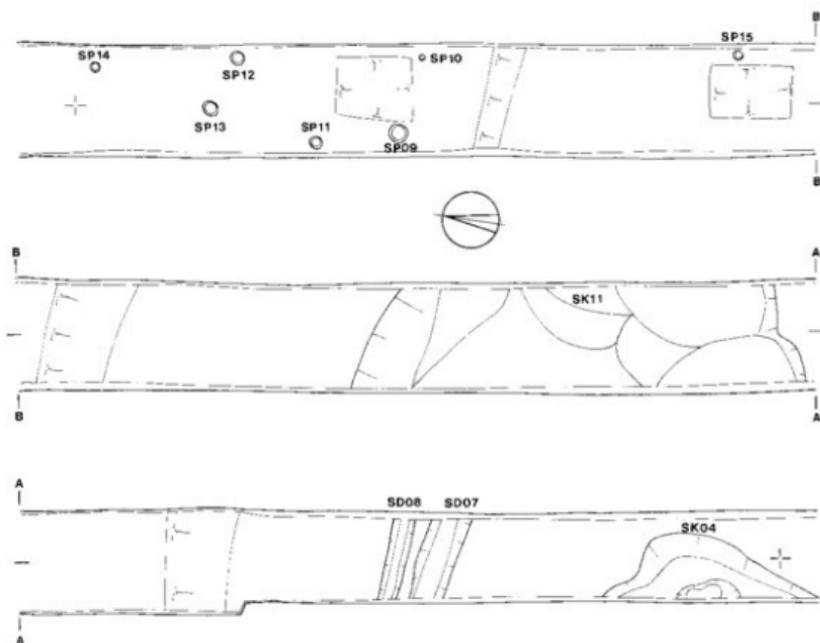


fig. 13 トレンチ 4 北半遺構平面図

fig. 14 粘土採掘坑
平面図



SK 10～40他 トレンチ4とトレンチ6に

またがってひろがる粘土採掘坑群である。南北42 m以上、東西68 mにわたって広がる。それぞれの規模・形状は径3～4 mの楕円形であり、深さは80～150 cmである。トレンチ4とトレンチ6にかかるもので50以上を数える。粘土採掘坑の切り合い関係は、東西では方向性を確認できなかったが、南北では南のものが古く、北が新しいという傾向を確認することができた。

多くの土坑からはずんだり、ひびのはいった製品として使えない須恵器が出土した。その年代は12世紀として考えられる。

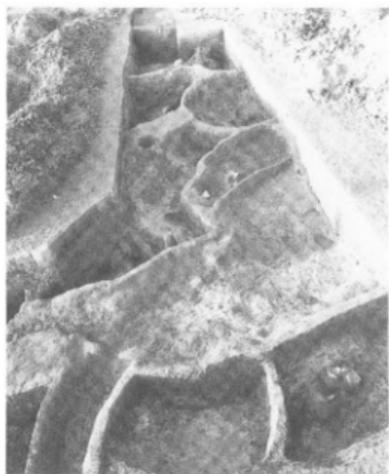


fig. 15 粘土採掘坑 SD 01 (東から)

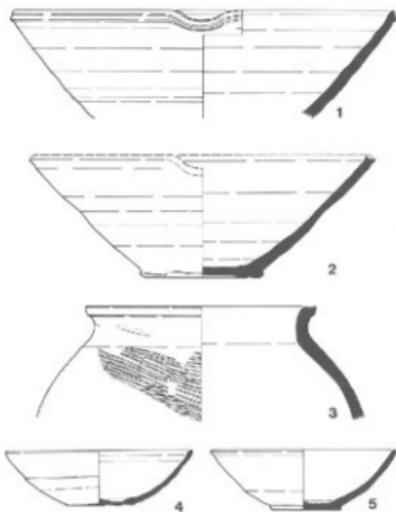


fig. 16 粘土採掘坑出土遺物実測図 (S=1/5)
1 SK35 2 SK33 3 SK34 4・5 SK22

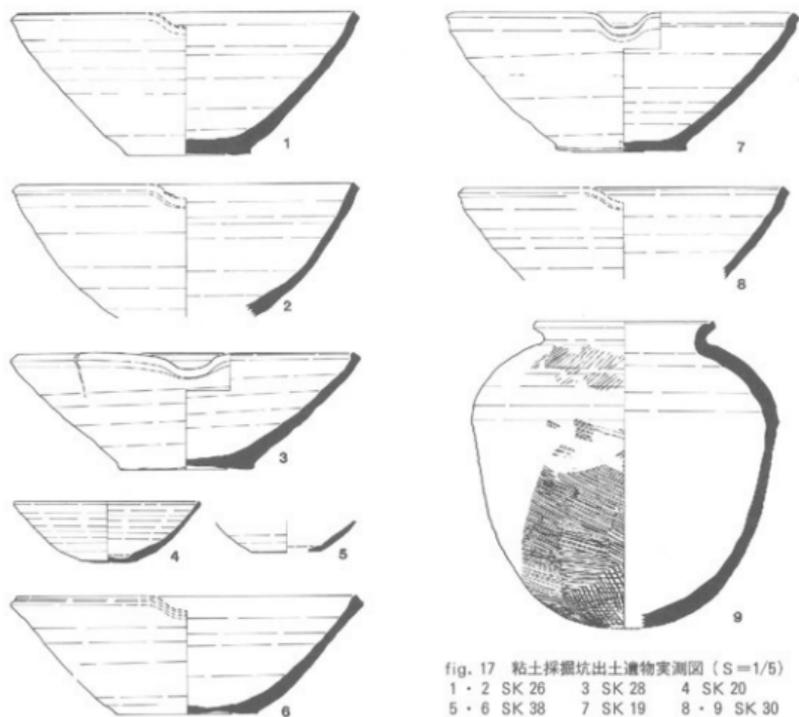


fig. 17 粘土探掘坑出土遺物実測図 (S=1/5)
 1・2 SK 26 3 SK 28 4 SK 20
 5・6 SK 38 7 SK 19 8・9 SK 30



fig. 18 SD 01 遺物出土状況 (東から)

SD 01 粘土採掘坑群の埋没後、掘削された溝である。南西から延びる幅 100 cm と幅 70 cm の 2 条の溝が合流し、幅・深さを広げ、たまりのようになる。調査区内での最大幅は 4.6 m、深さは 1 m である。

溝内には多量の土器が投棄されている。須恵器・土師器・瓦器・瓦・青磁・白磁などがある。融着した須恵器などはわずかで、煤の付着した須恵器・土師器・瓦器などが多く、これらの遺物が生活において用いられたものであること、すなわちこの近辺に須恵器工人の居住域があることを示している。これらの遺物のなかには燧台があり、須恵器工人の生活の一端を示すものとして注目される。遺物の年代は 13 世紀前半である。

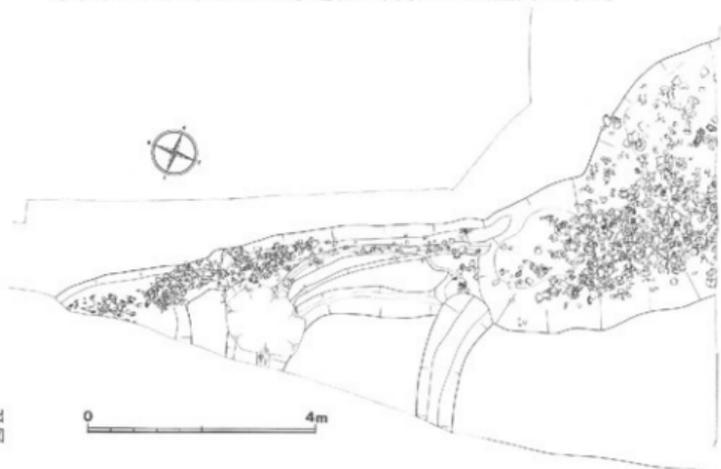


fig. 19
SD 01 遺物出土状況平面図



fig. 20 SD 01 遺物出土状況 (西から)

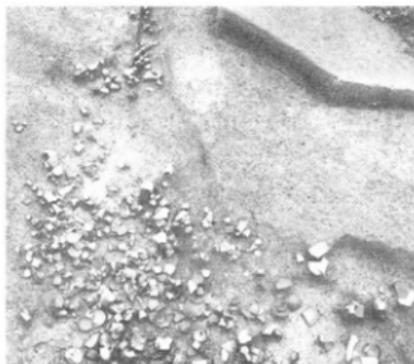


fig. 21 SD 01 遺物出土状況 (東から)

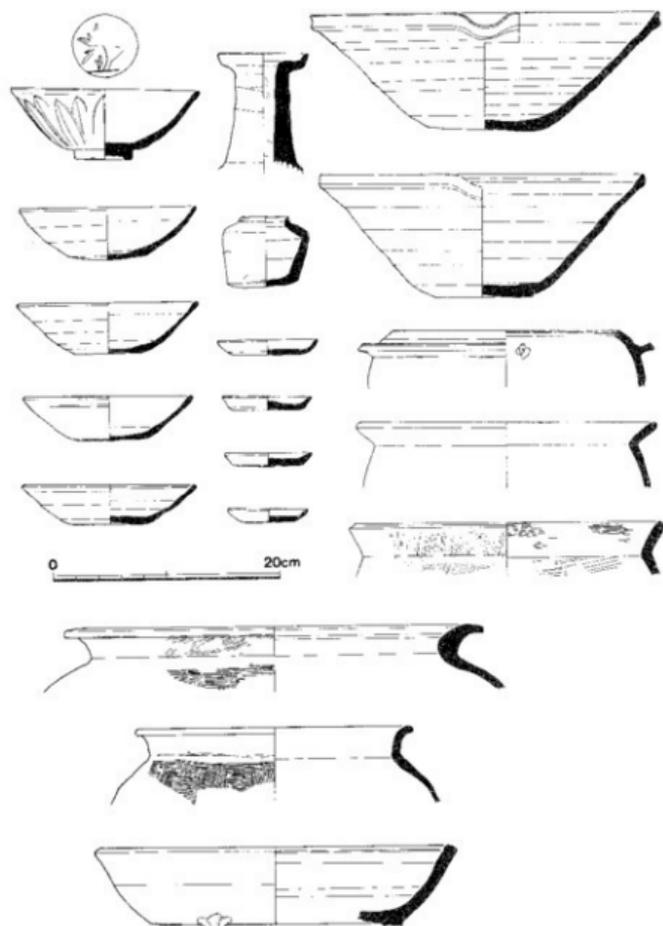


fig. 22 SD 01 出土遺物実測図 (S=1/8)

- SD 09 粘土探掘坑群の埋没後、掘削された幅 70 cm、深さ 20 cm の溝であり、SD 01 に切られる。遺物の出土はなかった。
- SK 02 SD 01 の埋没後、掘削された土坑である。76 × 58 cm の楕円形である。底面上で 52 × 38 cm、厚さ 5 ~ 10 mm の方形板が出土した。覆土中からは 13 世紀代の須忠器が出土している。

- SK 04 粘土採掘坑群の埋没後、掘削された土坑である。6.8×1.3 m以上の規模があり、深さは1.1 m以上ある。焼土・炭とともに赤い生焼けの須恵器が多量に投棄されている。焼け損じた須恵器の投棄土坑であろう。須恵器の年代は13世紀前半である。



fig. 23 SK 04
遺物出土状況(東から)

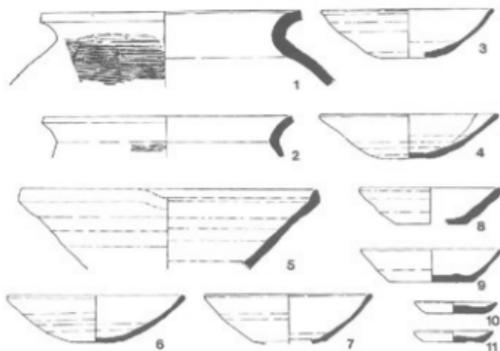


fig. 24 SK 04・11 出土遺物実測図
(S=1/6) 1~4 SK 11
5~11 SK 04

- SD 07・08 SK 04の北にあり、粘土採掘坑群の埋没後、掘削された平行して東西に延びる2条の溝である。遺物の出土はなかった。
- SP 09~15 SK 11の北に柱穴7基が集中して検出されている。径10~38 cmで深さは20 cmである。遺物の出土はほとんどない。
- トレンチ5 長さ84 mのトレンチである。遺物包含層からは須恵器片が出土している。トレンチの東半で柱穴5基(SP 04~08)が検出された。径約20 cmで、深さは約20 cmである。遺物の出土はない。
- トレンチ6 長さ84 mのトレンチである。遺物包含層からは須恵器片が、攪乱土層からは須恵器片などのほか、18世紀後半・19世紀前半の染付けが出土している。遺構は粘土採掘坑のみである。

なべたにいけ 2. 鍋谷池遺跡

1. はじめに

当遺跡は、昭和52年度の分布調査で古墳または経塚の可能性のある隆起が確認されたことにより周知されるようになった。今回、西神墓園造成計画がおこったため、昭和61年8月～10月に、試掘調査を行い、鍋谷池と待池とはさまれる丘陵部で弥生時代の土坑、古墳、平安時代の土坑等が確認された。

昭和62年11月～12月の調査では、地山整形遺構や土坑等を検出した。

当遺跡は、明石川右岸の北から南へ延びる多くの丘陵の一つに立地している。最高所は、標高約113mで、明石川沖積地との比高差は約50mである。



fig. 25
調査地位置図
1:5000



fig. 26
遺跡全景（北から）

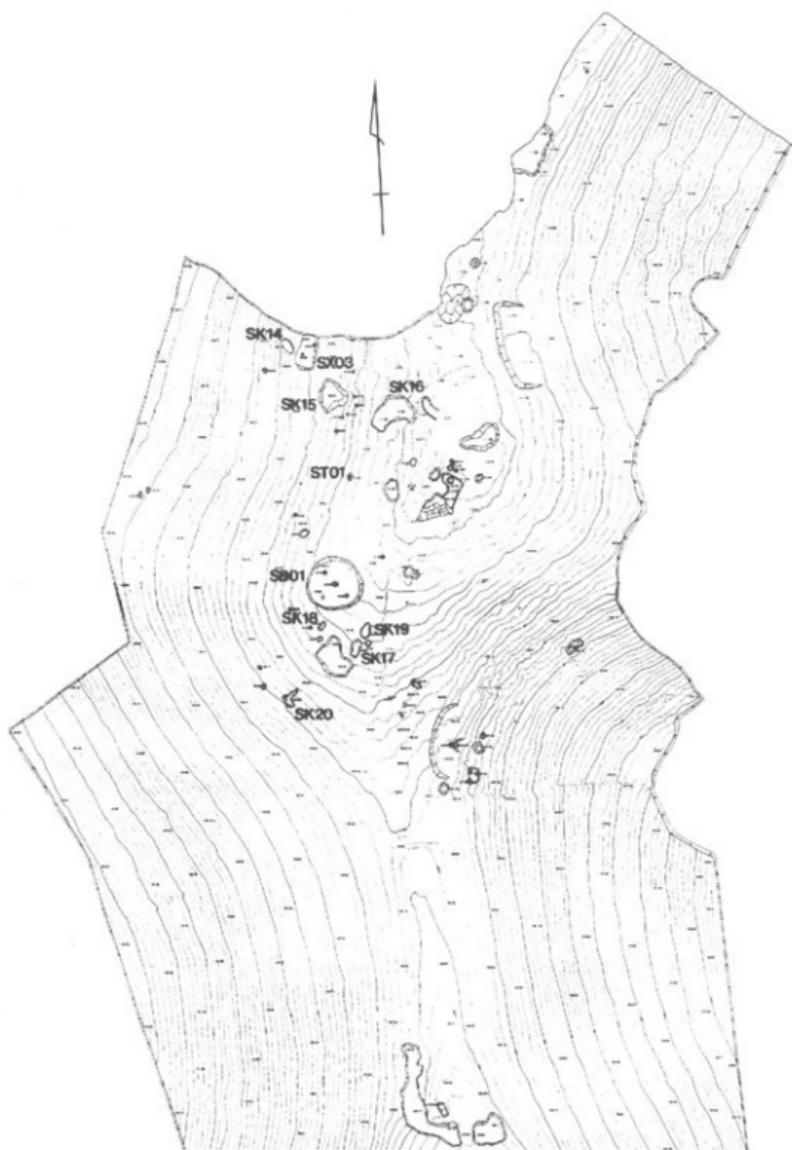


fig. 27 調査地平面図 (S=1/500)

2. 調査の概要 発掘調査は、昭和62年度に調査した丘陵の西半部約800㎡と、これより南方に延びる丘陵部約3,800㎡について実施した。

その結果、円形竪穴住居、堯棺、土坑、L字状溝、ピット、焼土坑等が検出された。

SB 01 南北4.8m、東西5mの円形竪穴住居で、深さは東で30cm、西で10cm残存する。主柱穴は3ヶ所確認されたが、本来4本と考えられる。中央

に長径50cm、短径30cmの土坑が存在する。中央土坑内は、炭を含む暗褐色砂礫土が堆積するが、土坑壁は焼けていない。東壁添いに長さ2m、幅20cm、高さ10cmの階段状の施設を作り出しており、住居の入口部とも考えられる。遺物は小片でかつ量的にも少なく、弥生時代中期の土器片、砥石の他、サヌカイトのチップが数点出土したに留まる。なお、住居埋土および床面上から、ややまとまった量の炭化物が検出されており、焼失したものと考えられる。

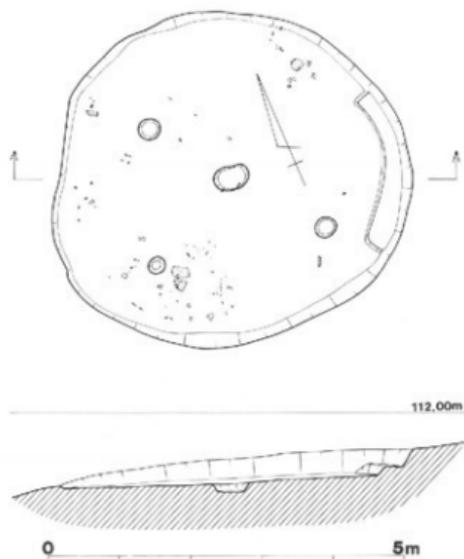


fig. 28 SB 01 平面・断面図



fig. 29 SB 01 完掘状況(北から)

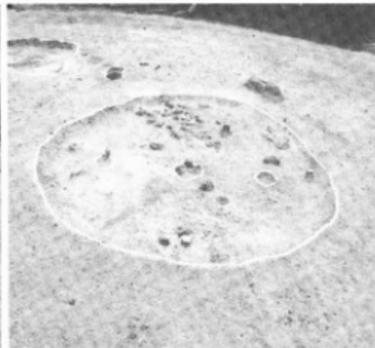
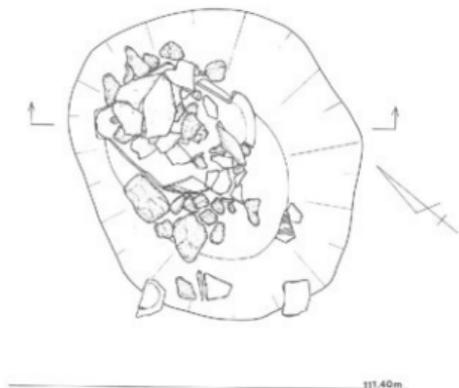


fig. 30 SB 01 炭化材検出状況(北から)

ST 01 SB 01の北、約6mで検出された。南北60cm、東西50cm、深さ10cmの不整形円形の土坑内に口縁部を東に置いた甕形土器が据えられていた。

甕の周囲には磔が置かれ、土器の安定を保っていた。土坑内からはこの他、

壺形土器の破片が出土しており、壺によって蓋がされていたことも考えられるが、破片数があまりに少なく、断定はできない。甕は器高28.3cm、口径14.5cmである。



111.40m



0 50cm 0 20cm

fig. 31 ST 01 平面・断面図

fig. 32 ST 01 甕実測図



fig. 33 ST 01 (西から)

- SK 14 長径 1.4 m、短径 70 cm の楕円形土坑で北端に粘土塊がある。土坑上面からはサヌカイト製刃器が 1 点出土した。
- SK 15 東西約 3 m、南北約 2.6 m の不整形土坑で、深さ 80 cm である。底部近くに炭や粘土塊が検出され、埋土中から弥生土器の小片が出土した。
- SK 16 東西約 4 m、南北約 2.4 m の不整形土坑で、東半が一段深くなっている。東半の深さは 60 cm である。土坑東壁上部に若干の炭の集中箇所がみられる。
- SK 17 長径 60 cm、短径 40 cm、深さ 20 cm の小土坑である。内部には多量の炭が詰まっていた。
- SK 18 長径 80 cm、短径 30 cm、深さ 10 cm の長楕円形土坑で、内部には赤褐色焼土塊と炭が詰まっていた。
- SK 19 長径 1.4 m、短径 1 m、深さ 20 cm の不整楕円形土坑で、内部から若干の炭が検出された。
- SK 20 住居の南西約 7 m で検出した土坑である。長辺 1.3 m、短辺 60 cm の隅円長方形の一部から長さ 1 m、幅 40 cm の溝が延びる。内部には焼土塊、炭等が見られ、壁面も赤褐色にやけて変色している。出土土器はない。
- SX 03 北端部が崩壊しているが、長さ 3 m、幅 1.6 m、深さ 20 cm の地山整形遺構で、床面からピットが 2 基検出された。
- SX 04 短辺 6.5 m、長辺 8 m、幅 2 m、深さ 10 cm の L 字状の溝で、短辺の中央部がとぎれている。コーナー部分の内側から長さ 1.2 m、幅 0.7 m、深さ 20 cm の長方形土坑が検出された。遺物は長方形土坑から炭が出土した以外全くなく、時期決定の資料に欠ける。
- ピット群 丘陵頂部で検出したピット群である。径 25 ~ 60 cm で、いずれも炭を埋土中に含む。時期等は明確ではない。



fig. 34 調査地全景
(南から)

SK 21 長さ1.4 m、幅0.6 m、深さ40 cmの長楕円形土坑で、内部から炭と焼土塊が検出された。土坑壁面の一部は焼けて赤色を呈している。土器等は出土していない。

SK 22 長径約3 m、深さ80 cmの不整円形の土坑で、南よりの部分で焼土塊、炭等が検出された。炭は焼土上面にも若干あるが、焼土塊を取り除いた段階でも多量に検出された。壁面は焼けていない。土器等の出土はない。

SK 23 長さ2 m、幅90 cm、深さ40 cmの不整楕円形土坑である。壁面は焼けた痕跡はないが、南半部から炭、焼土が検出された。その他の遺物はない。

3. まとめ

今回の調査では、1棟の円形住居とほぼ同時期と考えられる壘棺、そして焼土坑が検出された。

低地の集落遺跡で住居と土器棺が近接する例はあるが、今回の調査で高地性集落でも同じようなことが確認された。

住居等の遺構内から出土した土器類は、昭和62年度分とあわせても多くなく、この集落が一時的なものだったことが推定できる。

また、SX 04を除く他の遺構については、住居等の埋土と色調、土質ともに似通ったところが多く、これらも弥生時代中期のものと考えられる。

また丘陵頂部や斜面から出土した遺物もすべて弥生時代中期であることも、遺構の時期を同期とする考えの補助とはなろう。



fig. 35 SX 04
(南から)

にしもりみなみ 3. 西盛南遺跡

1. はじめに 西盛南遺跡は、明石川上流域の両岸に発達した河岸段丘に立地する遺跡である。昭和60～61年度にかけて発掘調査が実施され、字垣内地区では、平安時代後半～鎌倉時代前半の溝状遺構が確認されている。

今年度は字向井の明石川右岸の試掘調査を実施し、段丘上面で古墳時代後期初めの遺物包含層が確認されている。今回の調査は、この試掘調査の成果にもとづいて、設計変更を行ってもなお保存が図れない排水路部分のうち、L字形に延びる幅3m×長さ70mについて発掘調査を実施した。

2. 調査の概要 今回の調査地区は、南北方向に延びる排水路敷にあたる。1トレンチと呼称し、南から順に10m間隔で便宜的に地区を設定して、調査を実施した。

層序は、耕土・床土がそれぞれ3枚ずつ確認でき、このうちの最下層の耕土には、古墳時代後期および平安時代～鎌倉時代の土器が含まれている。そして、この直下の暗褐色粘質土が古墳時代後期の遺物包含層で、この下層は黄色粘土の基盤層となる。

検出できた遺構には、古墳時代後期初頭の竪穴住居2棟、掘立柱建物を構成するピット3個のほかピット26個、木棺墓1基、溝状遺構2条、落ち込みなどがある。また、平安時代後期では掘立柱建物を構成するピット4個や落ち込み・ピットなどがある。これらの遺構は、黄色粘土層を基盤としており、一部を除いてすべて同一面で検出している。



fig. 36 調査地位置図 1 : 5000

古墳時代 古墳時代後期の遺構は、南端の0区を除いてトレンチのはほぼ全域に分布しているが、北半の4～5区に遺構が集中する傾向がある。

SB 01 SB 01は5～6区で検出した方形の竪穴住居で、全容は調査地区外で明らかにできていない。一辺の長さは、最大4.5mで、壁高は20cm前後である。床面にピット及び落ち込みが確認されたが、柱穴と考えられるピットは確認できなかった。また、南東隅に長さ1.9m、最大幅40cm、高さ約10cmの造り付けのベッド状遺構がある。ベッド状遺構の西辺には直径10cm前後のピットを7個確認した。これがベッド状遺構の崩壊を防ぐための杭列であったと考えられる。

出土遺物には、床面よりやや浮いた状態で検出した須恵器壺があり、その他には須恵器・土師器・製塩土器の小片がある。



fig. 37 調査区全景 (北から)

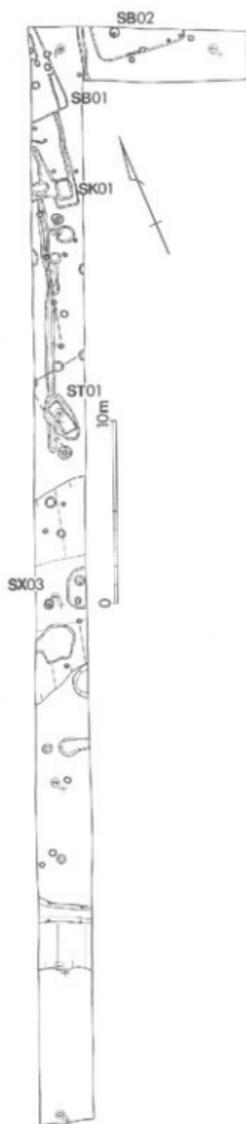


fig. 38 1トレンチ遺構平面図



fig. 39 SB 01 実測図

1. 淡黄灰色シルト混じり細砂～中砂（旧粘土）
2. 灰色シルト混じり細砂～Gran.
3. 黄色粘土（Fe. 多し）
4. 地乳褐色シルト質極細砂～中砂（遺物包含層）
5. 淡灰褐色シルト混じり極細砂
6. 灰色シルトのブロックを含む黄白色粘土
7. 灰色シルトのブロックを含む黄色粘土
8. 9. 淡灰色シルト質極細砂

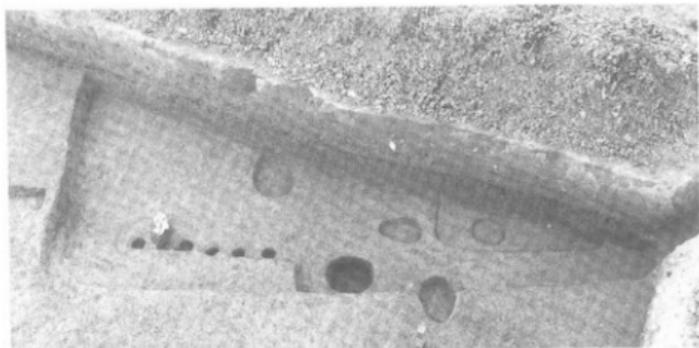
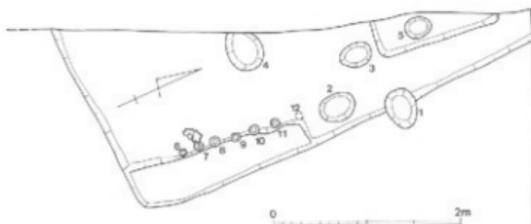


fig. 40 SB 01 (東から)

SB 02 SB 02 は 6 区で検出した方形の堅穴住居で、調査地区外に広がっているため、全容は明らかにできていない。一辺の長さは、最大 4.9 m で、壁高は 10 cm 前後である。床面にピット及びび落ち込みが確認されており、主柱穴と考えられるピット 1 は、直径 55 cm、深さ 50 cm で、その中心よりやや西南に偏して直径 15 cm 程度の柱痕が確認された。

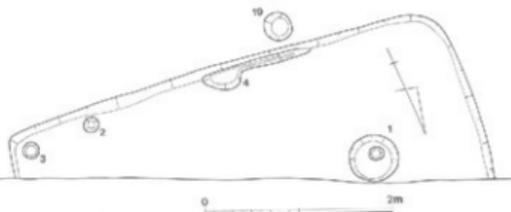


fig. 41 SB 02 平面図

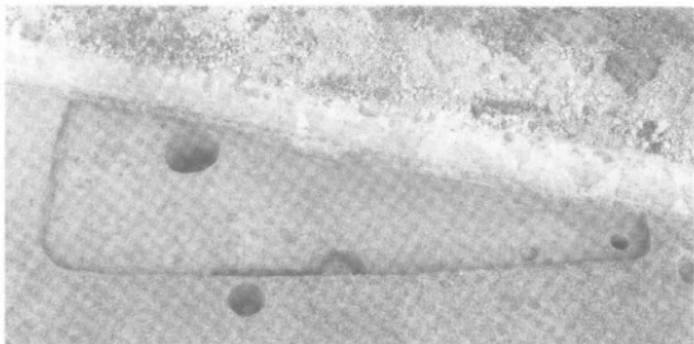


fig. 42 SB 02 (南から)

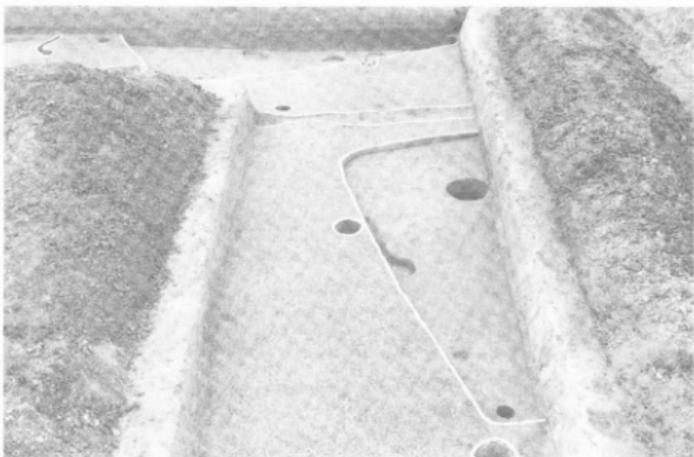


fig. 43 SB 01・02 (東から)

SP 05～08 これらのピットは、4～5区に集中して確認されたもので、直径50 cm前後、深さ35 cm前後の掘形である。それぞれの位置関係は、SP 06～08が東西方向に柱間1.5 mでほぼ一直線に並んでおり、これに直交して、SP 06の南側に柱間4.3 mでSP 05がある。このうち、柱痕が確認できたものは、SP 05のみで、柱痕の直径は約25 cmである。

ST 01 ST 01は3～4区にかけて検出した木棺墓である。墓壇はやや歪んだ隅円長方形に近いもので、南北長2.7 m、東西長1.2 m、深さ30 cmである。この墓壇のほぼ中心に、長さ1.75 m、幅55 cmの木棺が置かれている。出土遺物は小片で、古墳時代後期の須恵器・土師器である。

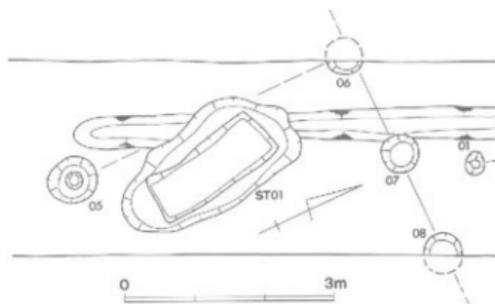
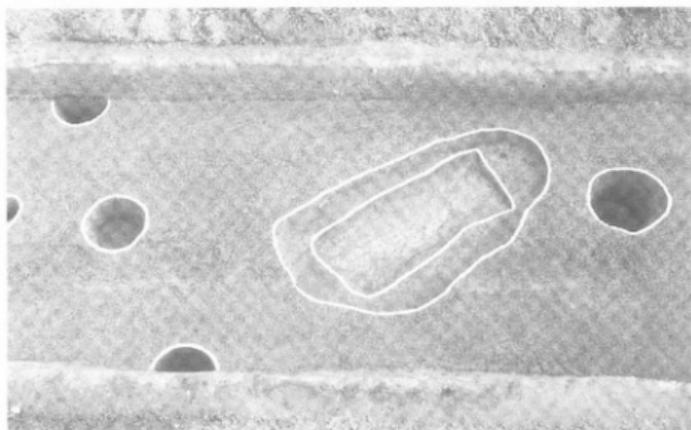
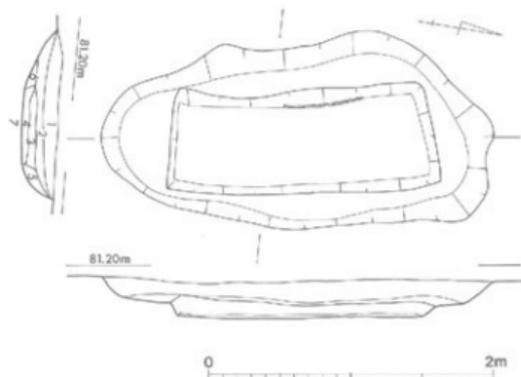


fig. 44 掘立柱建物と ST 01 平面図

fig. 45
SP 05 ~ 08
ST 01 (西から)fig. 46
ST 01 実測図
1. 暗灰色シルト混じり極細砂～細砂
2. 黄灰色シルト混じり極細砂
3. 灰色シルト混じり極細砂
4. 淡黄シルト質極細砂
5. 淡灰色シルト混じり極細砂～細砂
6. 淡黄灰色シルト混じり極細砂

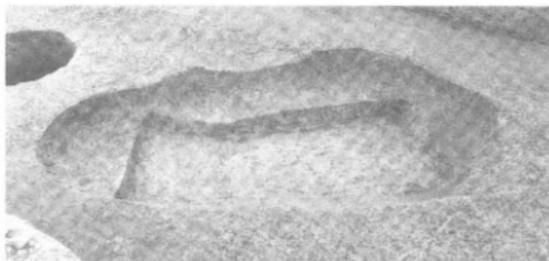


fig. 47 ST 01 (北東から)

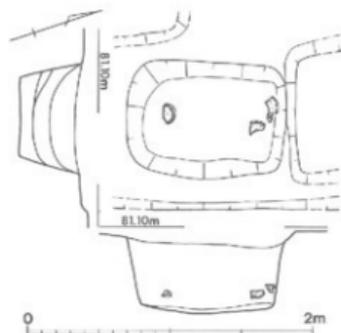


fig. 48 SK 01 実測図

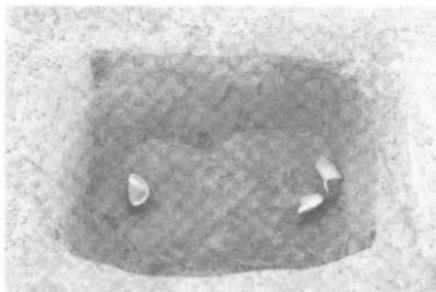


fig. 49 SK 01 (西から)

SK 01 SK 01は5区で検出した土坑で、長辺1.15 m、短辺85 cmである。平面形はほぼ長方形で、深さ45 cmである。土坑の壁面が、ほぼ垂直に立ち上がるのが特徴的で、土坑底からやや浮いた状態で、須恵器坏身・壺などが出土している。

SX 03 SX 03は2～3区にかけて検出した落ち込みで、幅約10 m、最大深さ25 cmである。埋土は礫を多く含む暗褐色砂質土が中心で、遺物包含層と類似する。出土遺物には、須恵器坏身の完形品を含む須恵器・土師器・製塩土器などがあり、量的には今回の調査地区のうちでは最も多い。

平安時代 平安時代後期の遺構は、調査地区の全域に分布するが、密度は高くない。

SP 01～04 4～5区にかけて検出したピットで、いずれも直径25 cm前後のものである。これらのピットは、磁北からやや東に振っているものの、一直線に並んでおり、掘立柱建物の一部を構成するものと考えられる。ピットの柱間は、2.4 m前後である。

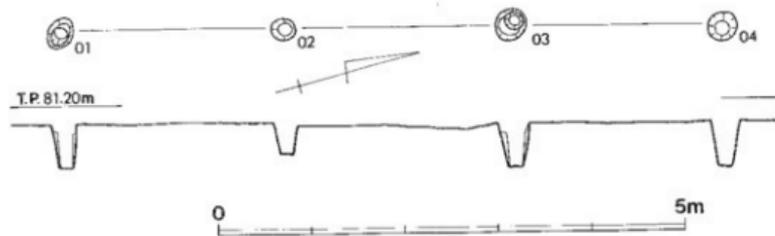


fig. 50 掘立柱建物実測図

出土遺物

出土遺物には、古墳時代後期初頭の須恵器・土師器・製塩土器と平安時代後期の須恵器・土師器がある。量的には、前者が圧倒的多数を占める。現状では、未整理であるが、多量の須恵器・土師器とともに、製塩土器が検出されている。

製塩土器はいずれも小片であるが、器高10cm、口径5cm前後の器壁の薄いものである。これまで内陸地で出土する製塩土器は、当地で製塩を行ったものではなく、海岸部で精製された塩をこの土器に入れて持ち運んできたものと言われており、当資料も同様の性格を有するものと考えられる。伴出した須恵器は、陶邑の田辺編年のTK 23～47型式に併行するものと考えられる。

3. まとめ

今回の調査では、調査区ほぼ全域にわたって、古墳時代後期初頭の集落が確認できた。これまでに明石川上流域で行われた発掘調査では、押部谷町押部に所在する押部遺跡において、古墳時代前期初頭から後期初頭にかけての集落が昭和59年～62年度の調査で確認されており、これに次ぐ古墳時代後期初頭の集落の発見例となった。

なかでも、方形竪穴住居や掘立柱建物の確認は、集落の中心地と考えられ、建物と墓地(木棺墓)が近接して営まれていることも、当時の集落形態を知るうえで重要な資料と言える。

一方、平安時代後期の遺構では、掘立柱建物の一部を検出できたに留まるが、集落の存在は確実である。昭和61年度の西盛南遺跡の発掘調査では、対岸に位置する段丘上で鎌倉時代前半の溝状遺構が検出されており、さらに東に隣接している押部谷町福住の福住遺跡でも平安時代後半の集落の一部が確認されており、当該期の集落が点々と分布することが明らかとなった。

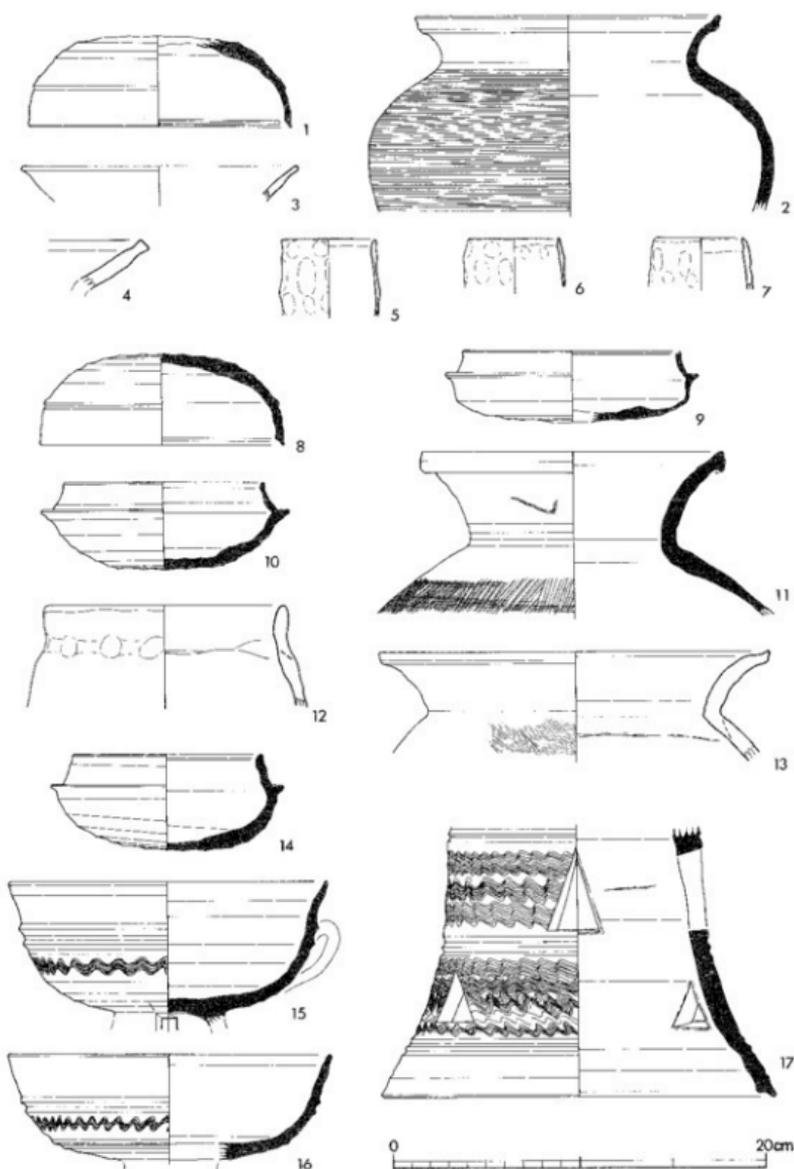


fig. 51 出土遺物実測図 1~7 SB 01

8~13 SK 01 14~17 SX 03

かただ 4. 堅田遺跡

1. はじめに

昭和63年6月に西神中央線取付道路建設に伴い、工事の影響を受ける箇所について試掘調査を実施した。調査の結果、第1地点において奈良、平安時代の遺物、遺構が確認され、第2地点においては弥生、古墳時代の遺物が確認されたため、両地点において発掘調査を実施した。

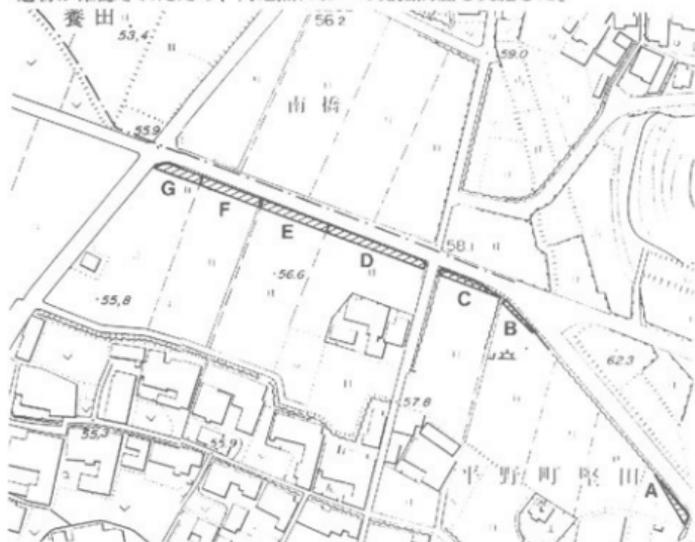


fig. 52 調査地位置図 1:2500



fig. 53 調査地遠景（東から）

2. 調査の概要
- 第1地点 当該地は昭和40年代に圃場整備事業が実施されていたため、現耕土下の埋蔵文化財に影響を及ぼしていると予想されたが、調査の結果、縄文時代から平安時代に至る遺構、遺物を比較的良好な状況で検出することができた。
- 第1遺構面
- 遺物の出土量は少ないが、流路1・2・4は、縄文時代以降の遺物を含まないことから、当該時期の流路であると考えられる。
- 流路1 B区で検出した南西から北東に流れる幅約7m、深さ1mの流路である。埋土は23層に分層でき、埋土の大部分は砂礫層で占められる。暗褐色砂礫層（7層）上面より、縄文時代後期前葉の粗製深鉢、削器が出土し、暗褐色砂礫層（18層）中より宮流式（縄文時代後期末葉）の土器片が少量出土している。
- 流路2 C区東端で検出した南西から北東に流れる流路で、幅約3m、深さ約40cmを測る。埋土は12層の堆積からなり、暗褐色砂質土層（10層）から、1個体と考えられる宮流式の土器片が出土している。
- 流路3 C区中央で検出した南西から北東に流れる流路で、幅約1.8m、深さ60cmを測る。埋土は5層に分層でき、最上層の暗褐色砂礫層より、弥生時代中期の土器片が出土している。
- 流路4 E区西端で検出した流路で、南から北へ流れるものと思われる。この流路付近は南西から北東に流れる流路などが数条あり、明確な流路の形状などはわからない。



fig. 54 自然流路（西から）

縄文土器 今回の調査で出土した縄文土器は、そのほとんどが流路からの出土である。流路1からは後期前葉の粗製深鉢および宮滝式の深鉢片が出土している。流路2からは、接合しないが1個体になると思われる宮滝式の深鉢が出土している。流路4では後期末から晩期初頭の深鉢の口縁部が出土している。

弥生土器 今回の調査で出土した弥生土器は、すべて流路3から出土している。いずれも、畿内第Ⅲ・Ⅳ様式のものである。またⅢ様式の壺形土器の口縁部が表採されている。

石器 今回の調査で出土した石器・剥片類は、石鏃3点、削器1点、使用痕のある剥片1点である。流路1から出土した削器以外はすべて中世の包含層より出土している。

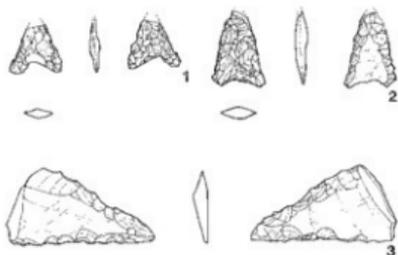
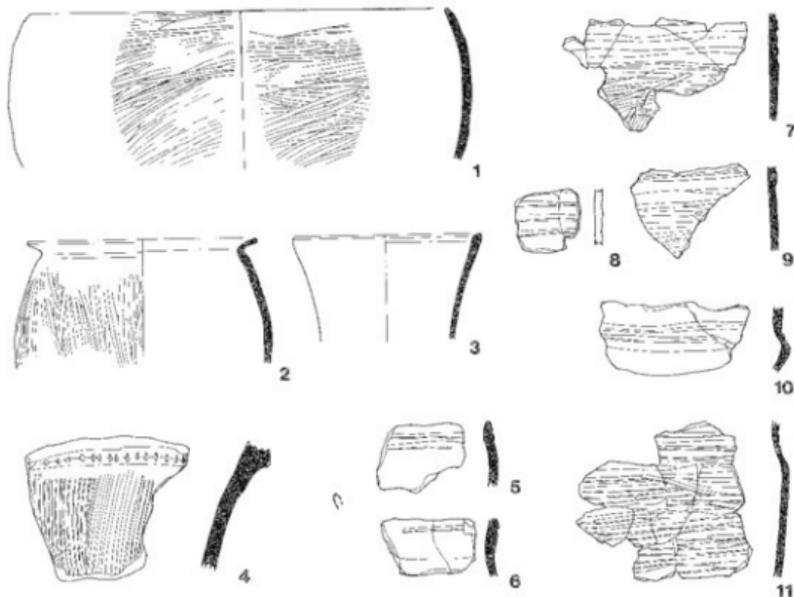


fig. 56 石器実測図 (S=%)

fig. 56 縄文・弥生土器実測図 (2・3は $\frac{1}{4}$ 、その他は $\frac{1}{2}$)

第2遺構面 古墳時代の遺構は、掘立柱建物3棟(SB01～03)、土坑、用途不明遺構(SX01)等である。調査対象地の制約により建物の規模は不明である。

E区 幅約10m、深さ約50cmの遺構で、土層の堆積状況より、2層に分層される。上層は黒灰色粘質土を主体とし、6世紀後半代の土器を包含する。最上層である黒灰色粘質土層中からは土器片の密な堆積がみられた。器種には、土師器甕の他に、須恵器坏蓋・坏身・甕・提瓶等がある。特に、提瓶は成形段階にできる穴をふさいだ痕跡が胴部両面にあり、製作技法上特殊な例である。また、出土した須恵器のほとんどが焼け歪んでおり、甕に坏身が熔着したものと甕体内で還元が良好に行われていないものもみられる。

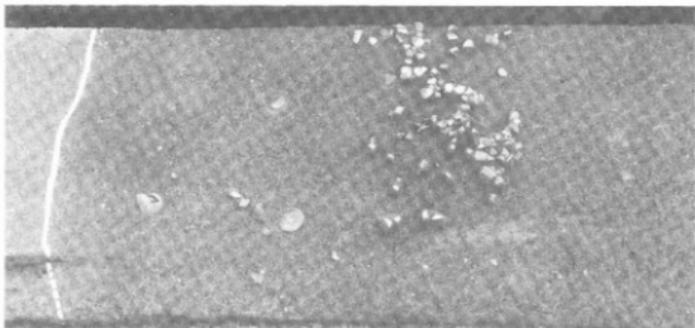


fig. 57 SX 01 (北から)

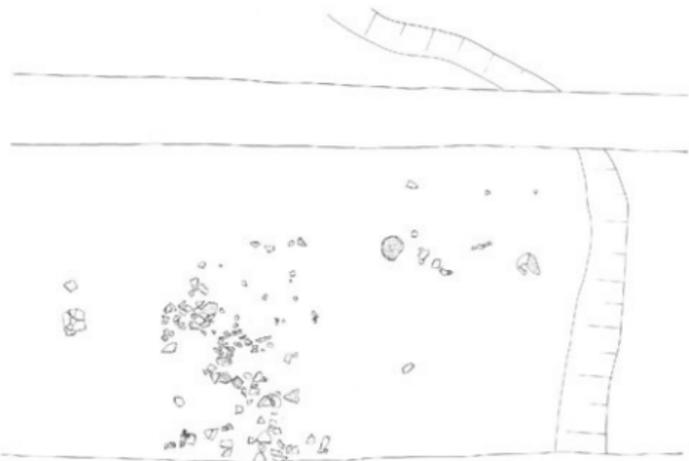


fig. 58 SX 01 平面図 (S=1/40)

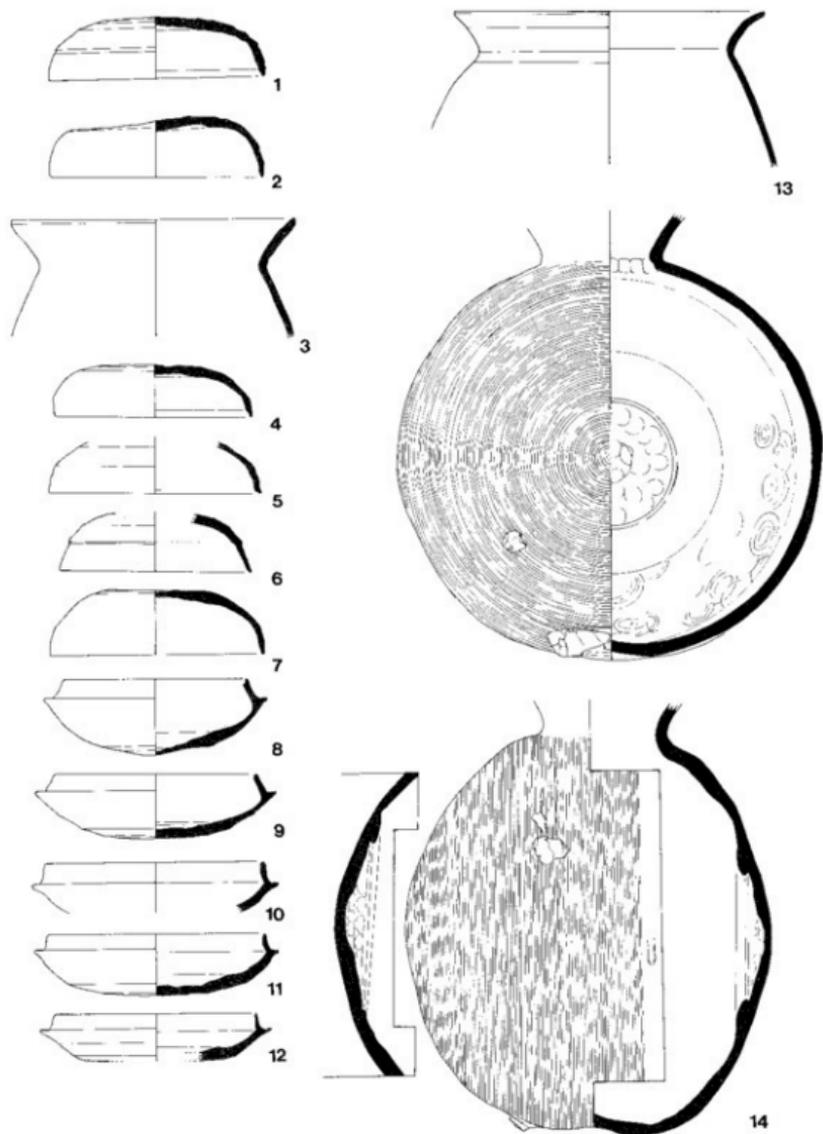


fig. 59 SX 01 出土遺物実測図 (S=1/4)

下層は遺物を含まない間層をはさんだ砂礫層であり、土師器甕、須恵器坏蓋2点が重なって出土した。甕は胴部以下は失われているが、坏蓋は2点ともに完形である。これらの土器は、上層で検出された遺物との大きな時期差は認められない。

下層包含層を除去した段階で柱穴を4基検出したが、柱穴の配置に規則性は認められず、埋土から遺物は出土しなかった。当遺構が住居である可能性があるが、間層が流路の自然堆積により形成されており、当流路によって平面プランが影響を受けている可能性があることや、周壁溝の存在が確認できなかったことから遺構の性格を明らかにできない。

F区 F区において掘立柱建物3棟を検出した。

- SB 01 3間×1間以上の建物で、柱間は約140cmである。柱痕の状況より直径15～20cmの柱が復元できる。また、柱の沈下が認められるものもある。
- SB 02 4間×2間以上の建物で、柱間は約150cmである。柱が約40cm沈下していた柱痕を確認した。
- SB 03 1間以上×3間以上の建物で、柱間は約150cmであるが、調査対象地の制約により建物の規模は不明である。

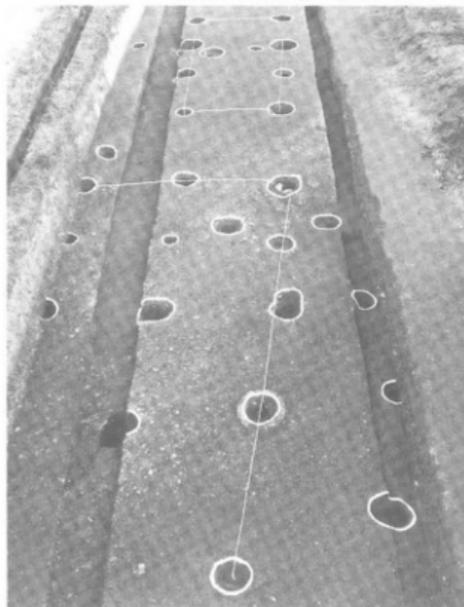


fig. 60 SB 01・02 (西から)

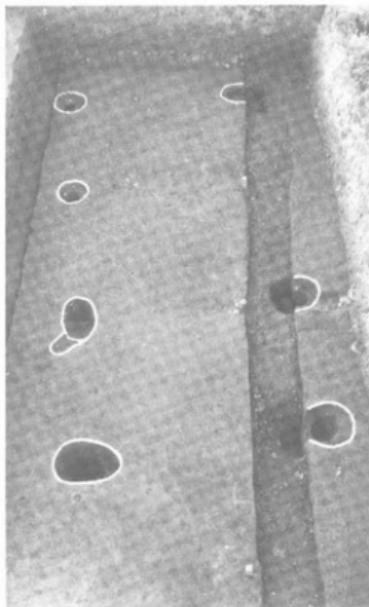


fig. 61 SB 03 (東から)

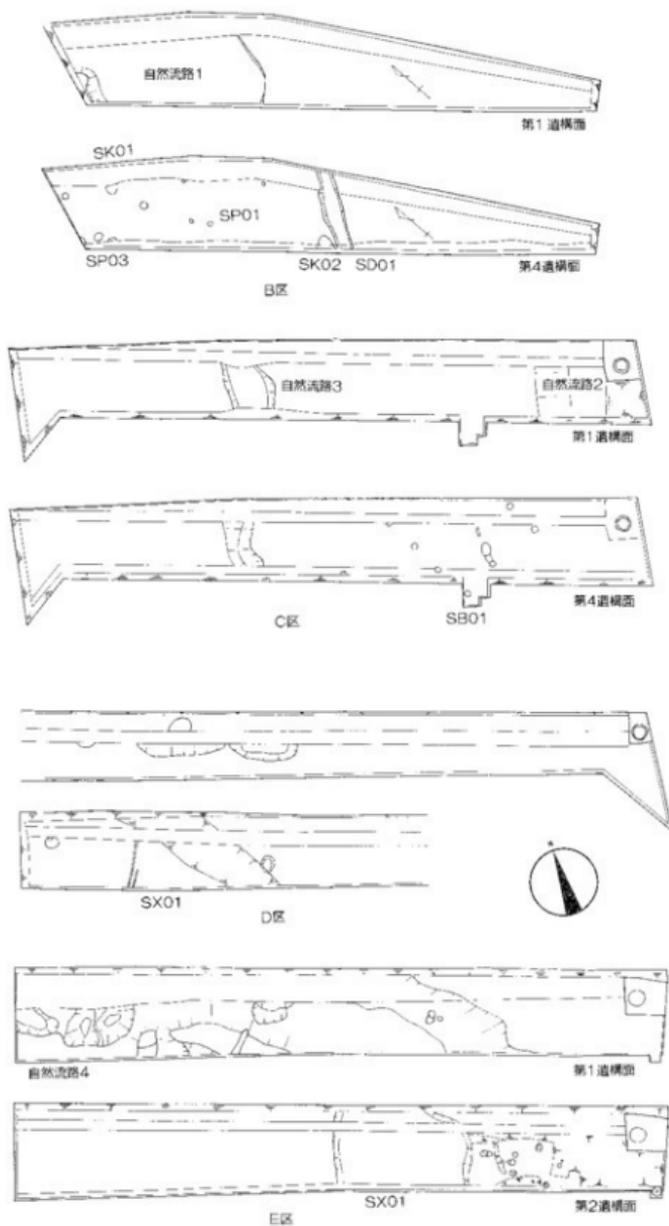


fig. 62
B~E区
遺構平面図
(S=1/125)

第3遺構面 奈良時代の遺物は調査区全域から出土しているが、遺構面が確認できたのはG区である。

G区 ほぼ南北方向に流れる幅約80cm、深さ80cmの溝状遺構である。溝の肩部及び底から10cm程度上で土師器甕2点、皿1点、須恵器甕1点が出土した。溝の肩部で出土した須恵器甕の破片が、溝内の破片と接合することから、当地で投棄されたものと考えられる。遺物はいずれも奈良時代後半のものである。

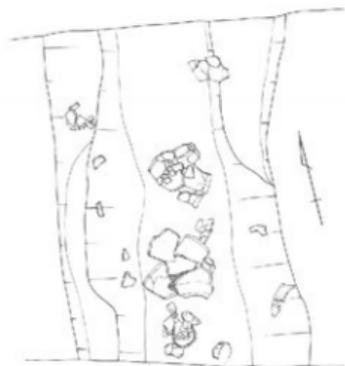


fig. 63 SD 01 平面図 (S=1/20)

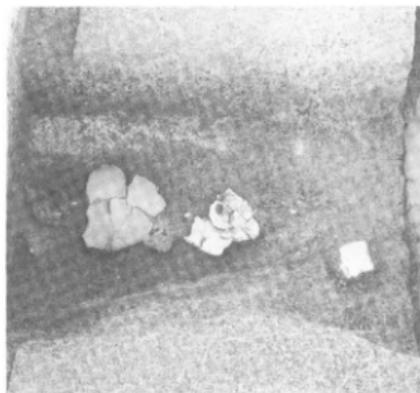


fig. 64 SD 01 下層土器出土状況 (東から)

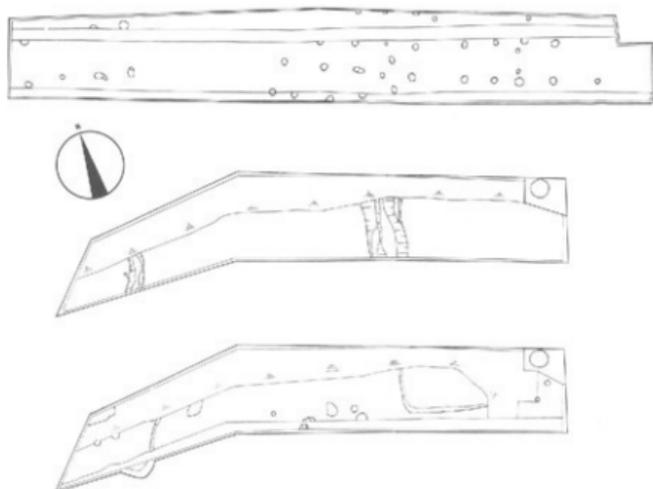


fig. 65 F・G区遺構平面図 (S=1/125)

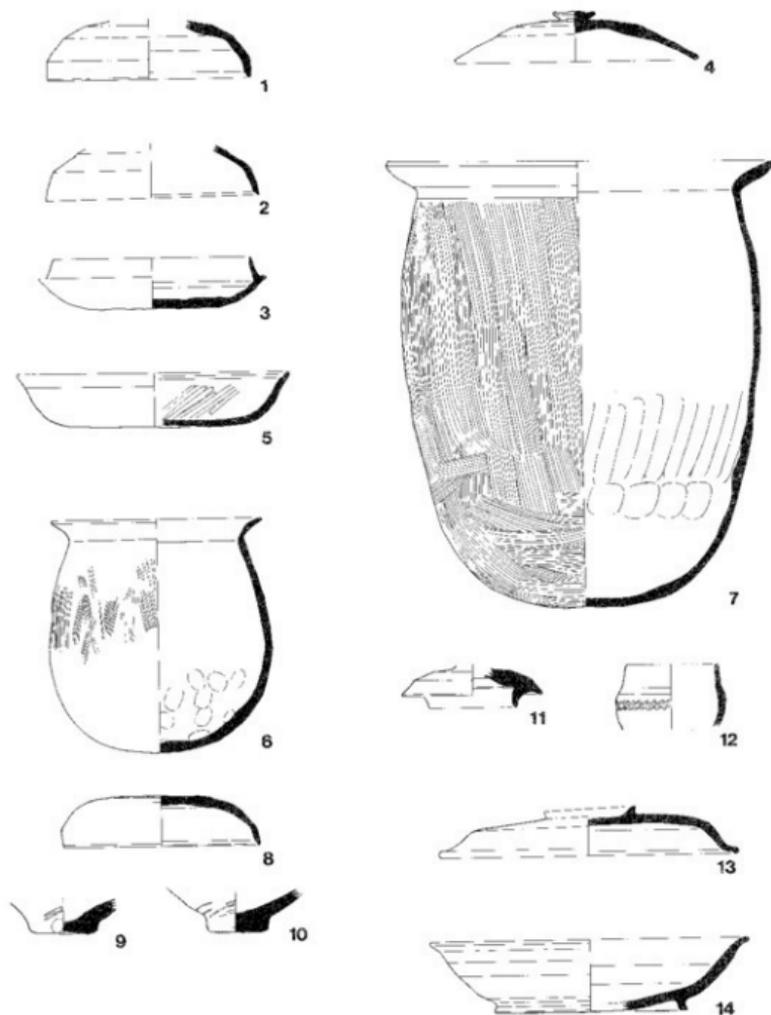


fig. 66 出土遺物実測図 (S=1/4) 1~3 : E区包含層 5~7 : G区 SD 01 8~14 : 第2調査地点 流土内 SP 01~05 当区において柱穴を5基検出したが、建物の配置を明らかにできなかった。SD 01の西側に近接する柱穴の柱痕部分から須恵器坏蓋が出土した。出土状況より柱を抜き取った後、土器を埋めたと考えられる。他の柱穴から遺物は出土しなかった。

- 第4遺構面** 12世紀後半から13世紀前半代の遺構面はB、C、D、E区で検出された。
- B区** B区において溝状遺構、土坑、柱穴等の遺構が検出された。柱穴の検出状況から、建物の配置及び規模等については明らかにできなかったが、他の遺構とはほぼ同一時期であると考えられる。
- 当区西側から東側に向けて緩やかに黄色粘土の地山面の標高が高まり、SD 01 付近から東側は、圃場整備以前の耕作により削平を受けているため、遺構は残存していない。
- SD 01 B区で検出された溝状遺構で、幅70～100cm、深さ約10cm、ほぼ南北方向に流れる。
- SK 01 直径約60cm、深さ約15cmの円形の土坑である。埋土より多量の焼土、炭が検出されたが、遺物は出土しなかった。
- SK 02 幅50cm、長さ80cm以上の土坑である。切り合い関係からSD 01より新しい時期のものである。埋土は2層に分層でき、上層の暗茶褐色粘質土層から、12世紀後半代の須恵器境、土師器皿等の土器や焼土、炭が出土した。下層から遺物は出土しなかった。
- SP 01 掘形径約30cm、柱痕径約20cmの柱穴である。掘形埋土及び柱痕埋土より須恵器境が出土しているが、両者に明確な時期差は認められない。
- SP 03 掘形径約30cm、柱痕径約15cmの柱穴である。南東に溝状に延びる浅い落ちこみを伴い、掘形と同一の埋土を持つ。柱痕部より出土した遺物は、土師器片の他に木質が錆に取り込まれて残存している鉄製品が出土している。両端が欠損しており形状は不明であるが、断面がV字形であるため、刀子または鎌の一部である可能性がある。
- C区** 土坑、掘立柱建物等が検出された。当遺構面は西側へ緩やかに傾斜し当区の中央部付近で1段低くなる。
- SB 01 3間以上×3間以上のプランを持つ掘立柱建物である。SK 04は建物に伴う可能性があるが、柱穴を掘削する以前に存在したSK 03と建物の関係は不明である。
- SX 01 長さ約30cm、幅約40cm、深さ約20cmの不整円形の落ち込みである。焼土塊、炭が少量出土したが遺物は検出されなかった。
- D区** 当区の遺構面はわずかに西側へ傾斜するが、ほぼ水平である。土坑、溝等の遺構が検出された。
- SK 01～03 土坑を3基検出したが、埋土から遺物は出土しなかった。
- SX 01 調査区西側において検出した用途不明遺構である。幅約20cm、深さ約15cmの溝状の遺構を伴う。圃場整備以前の溝により影響を受けており、遺構の規模、性格は不明である。

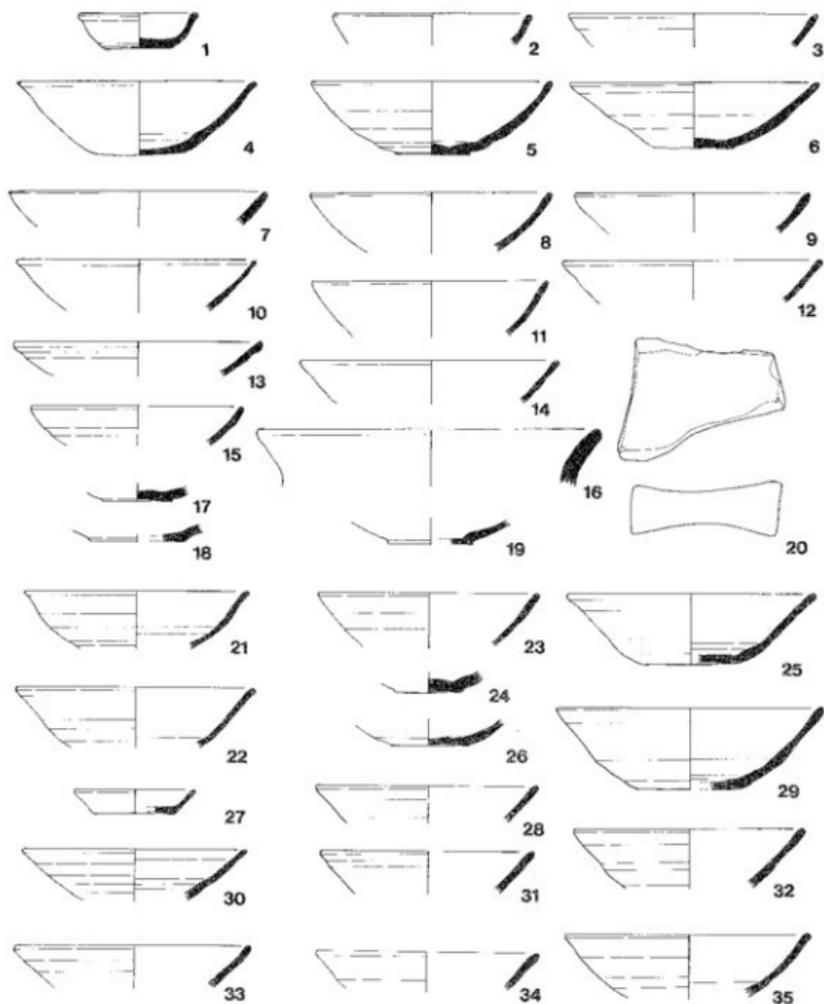


fig. 67 B区出土遺物実測図 (S=1/4)

1~20 SK 02
25 SP 0521・22 SP 01
26~35 包含層

23・24 SP 02

E区

E区の東側は、パイプライン設置時にかなり地下に影響を及ぼしているため遺構面の残存状況は悪い。検出された遺構は柱穴及び不整形の土坑である。柱穴及び土坑から遺物は出土しなかった。



fig. 68 C区全景(東から)

3. まとめ

従来、堅田遺跡は古墳時代より始まる遺跡として知られていた。しかし、今回の調査では、縄文時代の遺物が少量ながら出土した。これらの遺物のほとんどがB区あるいはC区東端から出土しており、遺物の残存状態は良好である。また、石器は数量的には少ないが、石鏃以外に削器、使用痕のある石器などの生活に密着したものが出土している。以上のことから、今回の調査地では確認できなかった縄文時代後期の集落が、調査区の南東方向の傾斜変換点付近に存在する可能性が高いと考えられる。近接する養田遺跡においても滋賀里Ⅲ式の土器が出土しており、当地区が縄文時代後期から晩期にかけて、人々の生活の場であったことが想定される。

古墳時代後期の総柱の掘立柱建物の存在は、住居を検出することはできなかったが、堅田地区における古墳時代の集落の位置を示すものであり、変形または焙着した須恵器片の存在は、生産地に関係した集落であることを示すものかも知れない。調査面積の制約により、古墳時代における当遺跡の性格を明らかにできなかったが、須恵器の生産地の問題を含め、今後の課題となるであろう。

5. おおはた大畑遺跡

1. はじめに

宮前・大畑地区は、昭和44年度にすでに圃場整備事業が完了しているが、工事の際、多数の土器が出土したとされていた。このたび、あらたにパイプラインが施設されることになり、当該地に遺跡が残存している可能性があるため、昭和61年度から試掘調査を開始した。調査地は宮前地区と大畑地区にまたがって実施したが、圃場整備事業名が宮前地区とされていることから宮前遺跡として調査を実施した。今回報告を行う地区は宇大畑に属しており遺跡名を大畑遺跡とした方が妥当との見地から、本報告では大畑遺跡として報告するものである。

大畑遺跡は明石川に合流する薬師谷川左岸の扇状地上に立地している。

大畑・宮前地区集落の散在する背後の丘陵上には、西神55地点遺跡（古墳時代）や西神56-57地点遺跡（弥生時代中期）・西神59地点遺跡（弥生時代中期）等が存在しており、丘陵下の大畑・宮前地区にはこの時期の遺跡の存在が予想された。

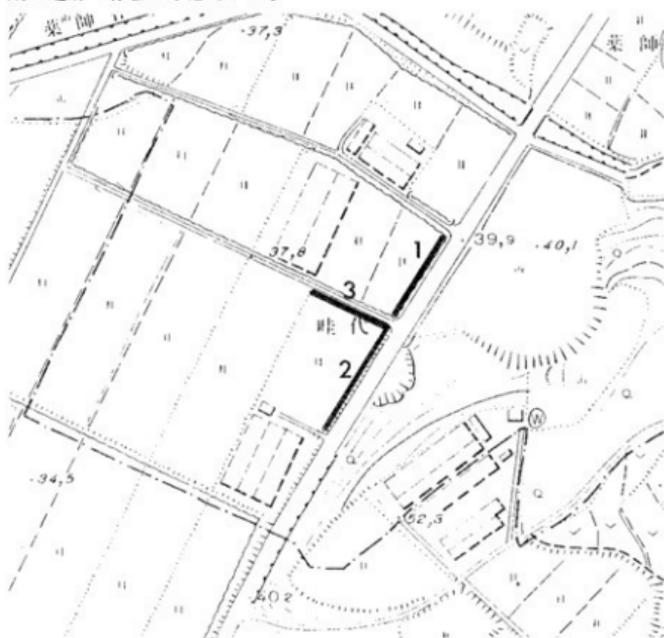


fig. 69 調査地位置図 1 : 2500

fig. 70 調査地全景
(東から)



2. 調査の概要

調査は春日神社の北西に広がる2か所の圃場で行った。

1 トレンチ

幅1 m、長さ33 mのトレンチを設定し層序に基づいて調査を行った。

上層

直径約0.8 mの円形の土坑が検出された。その数は12基である。出土遺物には須恵器や土師器があるがいずれも細片である。おそらく中世のものと思われる。

下層

下層からは遺構が検出されなかったが、中世の遺構面を形成する灰褐色シルト層とこの層を切り込んでいる砂礫層に、多量の土器が含まれていた。これらの層は薬師谷川の洪水によって堆積したものと考えられ、1 m以上の厚さがあると思われる。中に含まれていた土器は弥生時代後期から古墳時代初頭のもので、堆積層の形成が短期間に成されたものと考えられる。



fig. 71 1 トレンチ全景 (南から)



fig. 72 1 トレンチ遺物出土状況 (南から)



fig. 73 2トレンチ遺物出土状況（北から）

2 トレンチ 幅1 m、長さ50 mのトレンチを設定して調査を実施した。
 ほぼ全域が圃場整備工事による削平をうけ、中世の遺構は検出されなかった。南の一部で灰褐色シルト層が残存しており、土層中から土器が出土している。

3 トレンチ 幅1 m、長さ33 mのトレンチを設定して調査を実施した。
 ほぼ全域が圃場整備工事による削平をうけ、遺構・遺物ともに検出されなかった。

3. まとめ 今回の調査において中世の遺構を検出した。また、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての土器が多量に出土した。この下層出土遺物を含む堆積層は、もともとが水成層であり、薬師谷川の氾濫による堆積と土壌化によって形成されたと考えられる。出土した土器は土器の状態や出土状況からみて、かなりの距離を流されてきたとは考えられず、一括投棄されたか何らかの理由でそこにおきざりにされたものが埋没したものと考えられる。このような見地から本地区が集落内部か何れにしろ生活区域内と考えるのが妥当と思われる。

下層出土遺物の器種は甕・壺・高坏・器台などがその大半を占めている。なお土器型式はある程度の時期幅をもっており、2～3型式に細分が可能である。

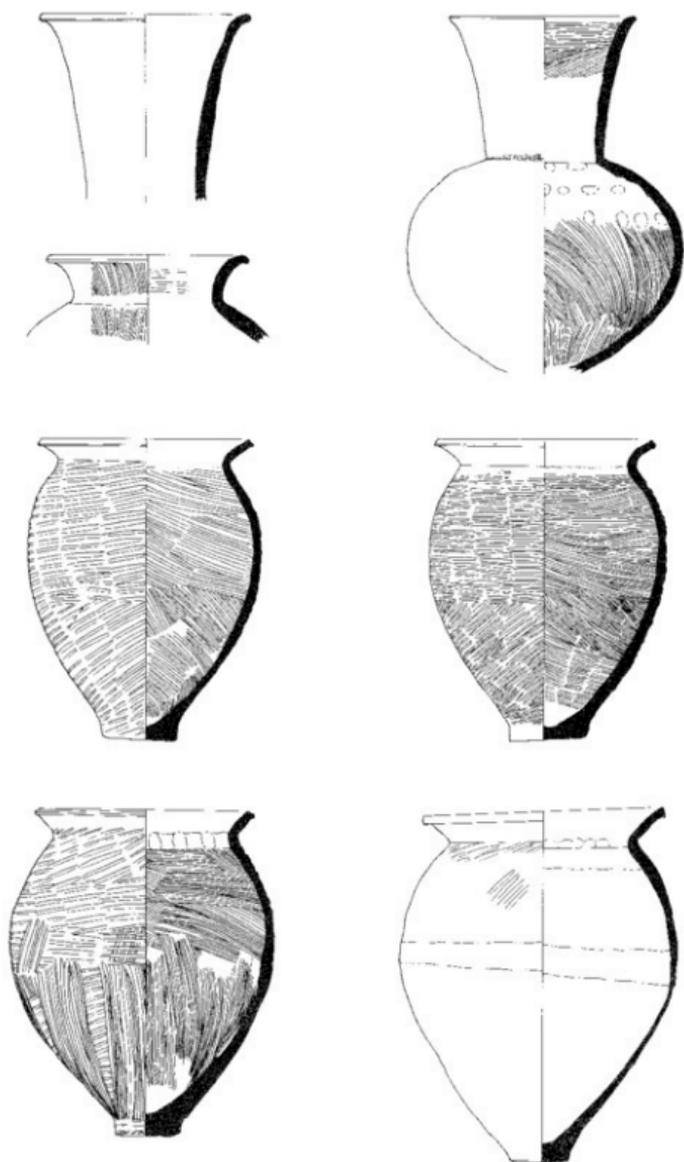


fig. 74
 渣物実測図(1)
 (S=1/4)

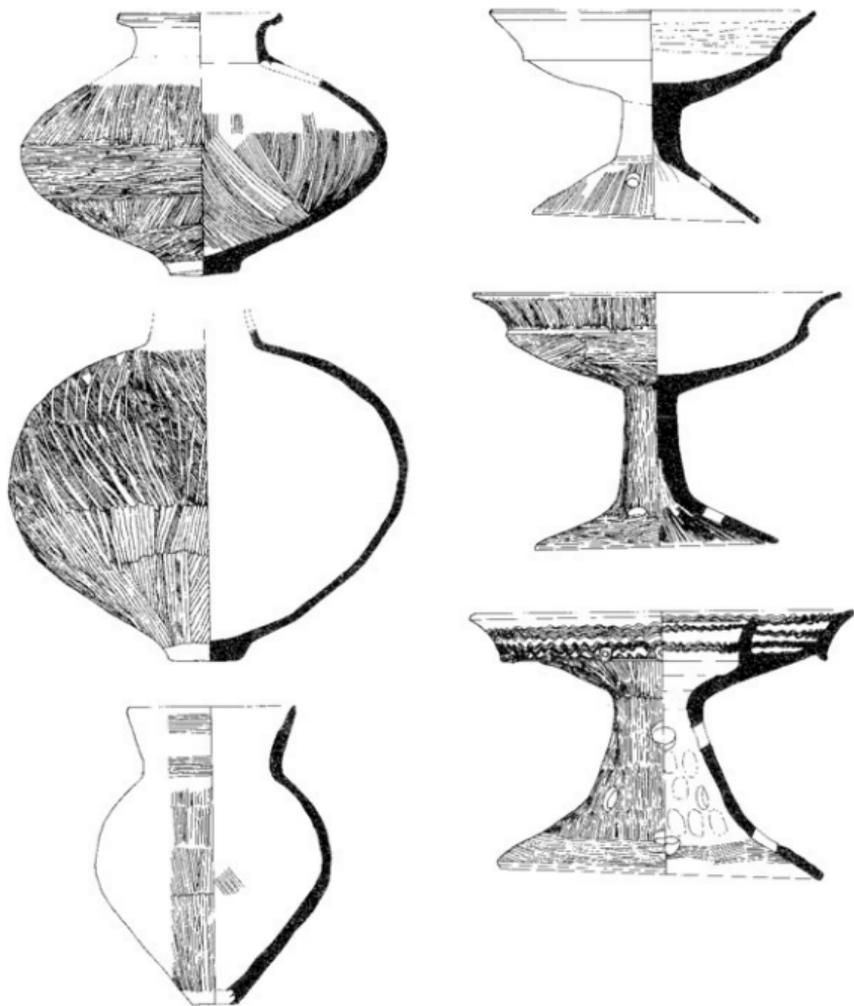


fig. 75 遺物実測図2) (S=1/4)

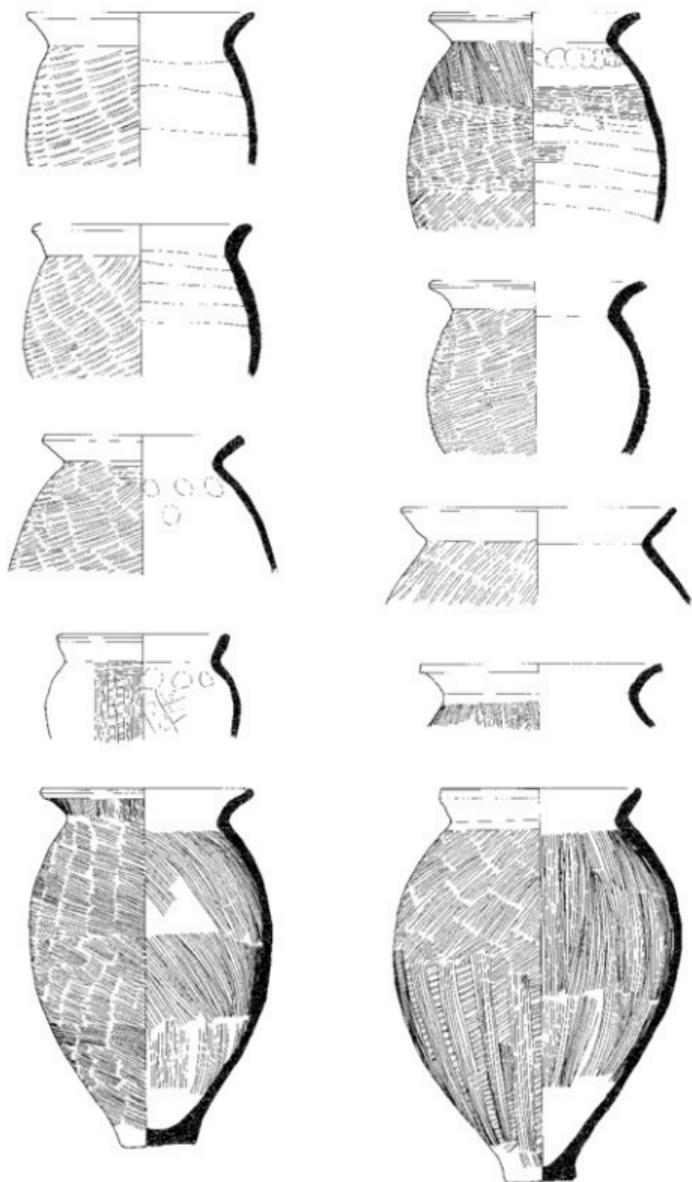


fig. 76
 遺物実測図3
 (S=1/4)

6. ^{いんじ}印路遺跡

1. はじめに 当遺跡は、明石川中流域右岸の沖積地に存在する。福地川を隔てて北側には西戸田遺跡（弥生時代前期・古墳時代後期）、さらに北方には常本遺跡（弥生時代前期・後期）、黒田遺跡（古墳時代）などが存在する。明石川をはさんだ南方には、玉津田中遺跡（弥生時代・古墳時代・中世）や、居住遺跡（弥生時代・古墳時代・中世）が広がり、西方丘陵上には、中村群集墳・印路群集墳などが分布する。

2. 調査の概要 試掘調査の成果に基づいて、設計変更後も埋蔵文化財を保存できない排水路敷およびパイプライン敷部分について、トレンチ調査を実施した。

調査区は、便宜上、現水田畦畔、水路などで分割設定し、1～15トレンチとした。

1 トレンチ 幅約2m、長さ約30mの東西方向のトレンチである。基本層序は、現代耕土（20cm）、淡黄灰色粘性砂質土（60cm）、黄褐色粘性砂質土（10cm）、暗茶褐色粘性砂質土（25cm）、暗黄褐色砂、灰色礫混砂である。

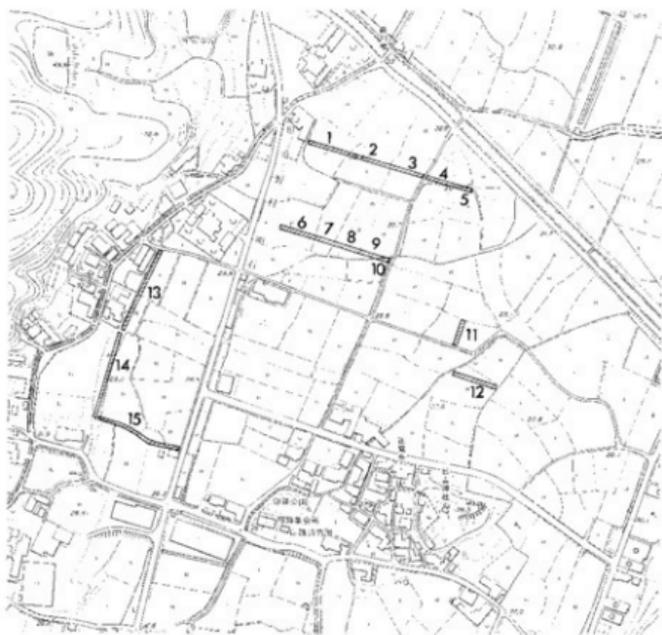


fig. 77 調査地位位置図 1:5000

検出した遺構には、古墳時代後期の竪穴住居・溝・ピットなどがある。

- SB 01 後述のSB 02に切られている竪穴住居で、一辺4mの方形住居と考えられる。東壁はSB 02によって、西壁はSD 03に切られているため残りが悪く、ピットは確認できなかった。古墳時代後期の須恵器片、土師器片が出土している。
- SB 02 トレンチの西半で検出した一辺5mの方形の竪穴住居と推定される。柱穴と考えられるピットを2基検出した。周壁溝は東壁のみで確認した。また、西半では炭化物の散布が認められる。遺物としては、暗茶褐色の埋土から古墳時代後期の須恵器坏身、土師器甕等が出土した。
- SD 02 トレンチ西端で検出した幅約80cm、深さ約20cmの溝である。遺物は古墳時代後期の須恵器坏蓋が出土した。
- SD 03 トレンチに直交する幅約1m、深さ約40cmの溝である。埋土上層より古墳時代後期の須恵器坏身・坏蓋・高坏、土師器片が出土した。



fig. 78
1 トレンチ
SB 01・02 全景
(南西から)

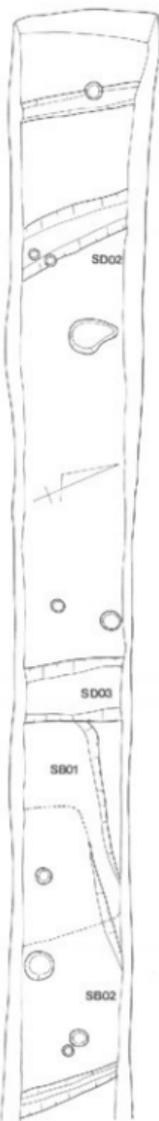


fig. 79 1 トレンチ
遺構配置図 (S=1/100)



fig. 80 1トレンチ SD 03 遺物出土状況 (南東から)



fig. 81 3トレンチ全景 (西から)

2 トレンチ 1 トレンチの東側に接する幅約 2 m、長さ約 38 m の東西方向に延びるトレンチである。遺物包含層より古墳時代後期の須恵器、土師器が多く出土したが、明確な遺構の検出には至らなかった。

3 トレンチ 2 トレンチの東側に接する幅約 2 m、長さ約 28 m の東西方向に延びるトレンチである。基本層序は、耕土・黄褐色土・灰褐色砂・黄褐色細砂である。

上層より、古墳時代後期の須恵器、土師器をはじめとし、中世の遺物も出土したが、遺構は検出されなかった。黄色砂の堆積が著しく、洪水の影響を受けているものと考えられる。

4 トレンチ 幅 1.5 m、長さ 20 m のトレンチである。東半部の礫層上面で古墳時代後期の須恵器坏片・捉瓶片が出土した。遺構は確認されなかった。

5 トレンチ 用水路をはさんで 4 トレンチの東側に位置する幅 1.5 m、長さ約 14 m のトレンチである。遺構はなく、遺物も若干出土したにとどまった。

6 トレンチ 幅約 2 m、長さ約 22 m のトレンチである。基本層序は、現代耕土 (25 cm)、礫層 (25 cm)、淡灰黄色粘性砂質土 (35 cm)、灰色粘性砂質土 (15 cm)、暗褐色砂質土 (15 cm)、灰褐色粗砂 (30 cm)、黒褐色粘性砂質土 (弥生土器包含) である。

トレンチ西端で、調査区に直交する溝を 3 条検出した。それぞれ、幅約 60 ~ 80 cm、深さ 30 cm 前後で、遺物は出土しなかった。検出面より判断して、古墳時代以降のものと考えられる。

7 トレンチ 6 トレンチの東に接する、幅 1.5 m、長さ約 18 m のトレンチで、基本層序は 6 トレンチと同様である。

古墳時代後期の遺構面が存在するが、明確な遺構を確認することはでき

なかった。また、弥生時代の遺物包含層も存在するが、遺構は確認されなかった。

トレンチの東半で、谷部に砂の厚い堆積がみられた。遺物は含まないが、古墳時代の面を切り込んで形成されていることから、当該期以降に埋没したものと考えられる。

8 トレンチ 幅約 1.5 m、長さ 20 m のトレンチである。基本層序は 7 トレンチと同様であるが、最下層は暗青灰色粘性細砂～暗灰色砂となる。

SX 01 暗茶褐色土・黒褐色土を埋土とする遺構である。調査区内での幅は 5 m、深さ約 60 cm の遺構である。

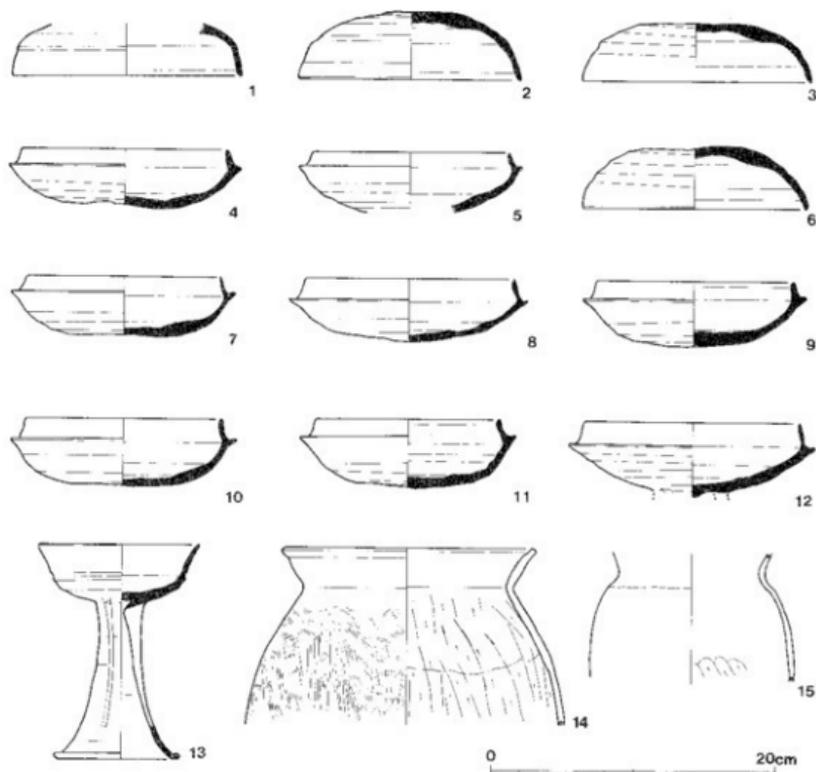


fig. 82 出土遺物実測図

1、4、5、14、15: 1トレンチ SB 01 2、3: 1トレンチ SD 02 6、9、12: 1トレンチ SD 03
7: 1トレンチ 8: 2トレンチ 10: 7トレンチ 11: 8トレンチ

弥生時代前期の甕・壺・高坏・蓋・紡錘車、サヌカイト片などが出土している。土器は小破片が多く、甕のヘラ描沈線文が5条までに限られることや、壺に削り出し突帯がみられることから、畿内第Ⅰ様式中段階以降に位置づけられる資料と言える。

SD 07 調査区を斜めに横切る幅1.4 m、深さ40 mの溝である。遺物は出土していない。古墳時代と考えられる面から切り込んでおり、当該期の遺構と想定される。

fig. 83 8トレンチ
SX 01 遺物出土状況
(S=1/50)



fig. 84 8トレンチ SX 01 全景 (東から)



fig. 85 8トレンチ SX 01 弥生土器出土状況
(北東から)

9トレンチ 幅1.5 m、長さ約8 mのトレンチである。基本層序は8トレンチと同様である。黒褐色粘性砂質土より、弥生時代前期の土器が出土したが、遺構は確認できなかった。

- 10トレンチ 幅1.5 m、長さ5 mのトレンチである。基本層序は9トレンチと同様であるが、湧水が激しく、工事影響レベルの礫層上面で掘削を終了した。
- 11トレンチ 幅2 m、長さ約25 mの南北方向に延びるトレンチである。淡黄褐色系の粘性砂質土が1 m堆積し、暗灰色粘土、青灰色粘土となり、遺構は検出されなかった。上層より中世の須恵器・土師器が少量出土した。
- 12トレンチ 東西方向の幅1.5 m、長さ約40 mのトレンチである。中世の鋳片等が出土したが、遺物量は少量である。11・12トレンチの遺物の出土状態は、二次堆積の可能性が強い。

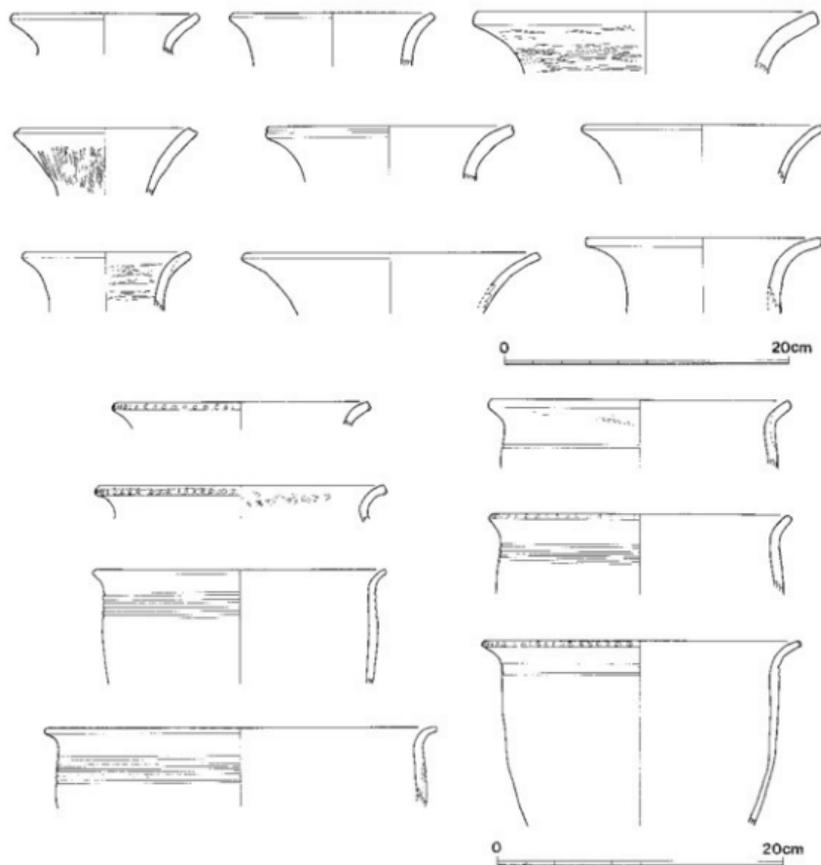


fig. 86 8トレンチ SX 01 出土遺物実測図



fig. 87 8トレンチ SX 01
出土遺物拓影 (S=¼)

13トレンチ 幅2 m前後、長さ70 mのトレンチである。青灰色細砂あるいは淡黄色粘土を基盤層としており、直上に遺物包含層の黄灰色砂質土が認められる。遺構は確認できていない。

出土遺物は12世紀後半～13世紀前半のもので、出土量は少量である。

14トレンチ 幅約2 m、長さ70 mのトレンチである。トレンチがちょうど丘陵末端部にはさまれた谷部を横断する形となっており、トレンチ中央部で現地表面からの深さ約1.8 mである。谷部を最初に埋積した暗灰色粘質土および遺物包含層である灰色～暗灰色粘質土には、8世紀後半・13世紀前半

の須恵器・土師器を含んでいることから、当該期に埋没が始まったと考えられる。トレンチ北端部では、直径約80cmのピットを2基検出している。谷部の埋没状況も考えあわせると、さらに西北の上位部に集落が立地するものと考えられる。



fig. 88 14トレンチ全景（北から）

15トレンチ

東西方向に延びるトレンチである。黄褐色砂礫を基盤層として、直上に遺物包含層である厚さ約15cmの灰色砂質土が認められる。遺構は確認できなかった。

出土遺物には、6世紀後半の須恵器・土師器、12世紀前半～13世紀の須恵器・土師器がある。

3. まとめ

7～9トレンチでの弥生時代前期中段階の土器の出土は、明石川流域における弥生時代の始まりを考える上で、資料的価値は高い。近接する時期に営まれた玉津田中遺跡をはじめとする他遺跡との関連の中で、重要な資料となる。

古墳時代後期の竪穴住居の検出は、今回の調査範囲では西北部に限られているが、7・8トレンチでも、同時期の遺物がほぼ完全な形で出土しており、今年度の調査範囲西半で当該期の集落が形成されていたと想定できる。あわせて、西方丘陵上に存在する印路群集墳の造営主体を考える上で、貴重な資料である。

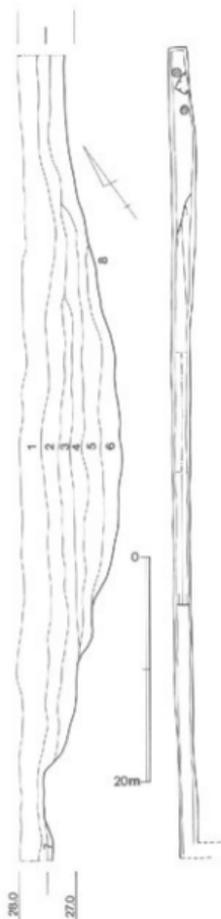


fig. 89 14トレンチ
平面・断面図

1. 床土・盛土
2. 淡青灰色シルト混じり細砂～細礫
3. 灰色シルト質粘細砂～細砂
4. 灰色シルト質細砂～粘礫
5. 灰色～暗灰色シルト質粘細砂～小礫
6. 暗灰色シルト質粘細砂～粘礫
7. 灰色シルト混じり細砂～粘礫
8. 黄灰色細砂～小礫

7. ^{いすみ}居住遺跡 第8次調査

1. はじめに

居住遺跡は、明石川の左岸に位置する遺跡で、河岸段丘および自然堤防上に立地する。今回の調査地点は、現地表で標高13mの自然堤防上にあたる。

居住遺跡では、これまでに7回の発掘調査が実施されており、弥生時代前期から中世にかけての遺構や遺物が確認されている。

今回の調査は、倉庫建設に伴うもので、敷地の周囲に建てられる擁壁部分と事務棟・倉庫棟の基礎部分について実施した。

2. 調査の概要

調査は、まず擁壁部分のトレンチ調査(1~5トレンチ)から始め、事務棟の基礎部分のグリッド調査9箇所、倉庫棟の基礎部分のグリッド調査22箇所の順に、便宜的に調査区を分割して行った。

擁壁部分のトレンチ調査は、東から擁壁の屈折点でトレンチ名を呼び替え、事務棟および倉庫棟の基礎部分のグリッド調査については、南西隅をA-1区として、東へアラビア数字で、北へはアルファベットで各区を呼称している。

基本層序は、耕土、床土、旧耕土、淡灰色粘性砂質土、茶灰色粘性砂質土、灰黄色シルト質粘土、暗茶褐色シルト質中砂、黒灰色粘土で、遺構面は3面確認できた。それぞれの遺構面の時期は、第1遺構面が平安時代後半から鎌倉時代、第2遺構面が弥生時代後期から古墳時代後期、第3遺構面が弥生時代前期である。



fig. 90 調査地位位置図 1 : 5000

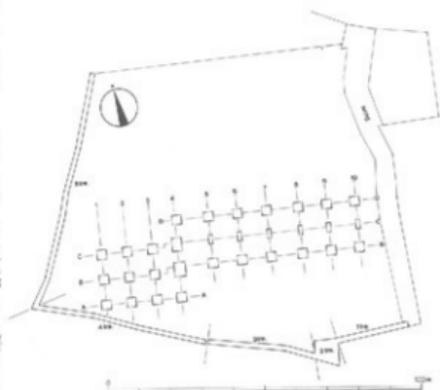


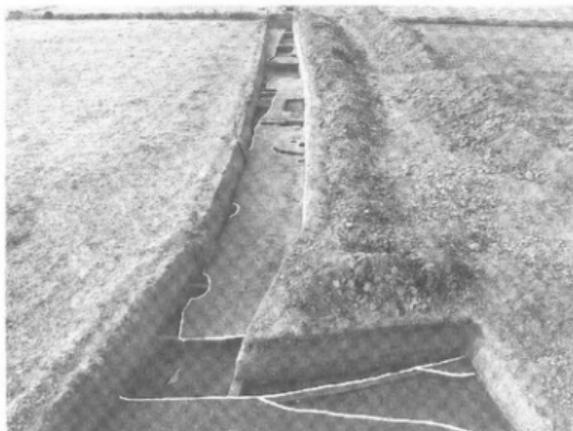
fig. 91 調査地区設定図

第1遺構面 第1遺構面では、溝状遺構約40条、土坑5基、ピット102基、不整形な落ち込み9基が、各トレンチおよび各区で確認できた。
(平安時代～鎌倉時代)

fig. 92 第1遺構面
遺構配置図

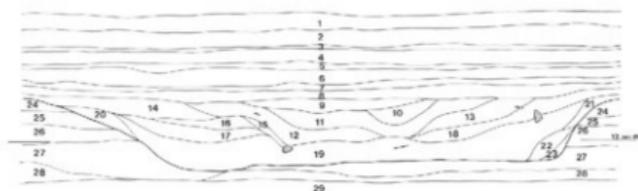


fig. 93 3トレンチ第1遺構面
全景（東から）



SD 03 3トレンチの中央よりやや西よりで検出した幅3.5 m、深さ60 cmの溝状遺構である。埋土の主体は灰色系のシルト層で、中層から下層にかけて、少量の須恵器・土師器とともに多量の木製品・自然木・種子・貝などが出土している。

木製品には、鋤・下駄・箸・曲物などのほか、用途不明のものがある。鋤は全長約120 cm、最大幅約15 cmで、裏向きの状態で出土した。下駄は、全長約20 cmの連歯のもので、片足分しか出土していない。用途不明木製品の中には、木筒状のものが含まれるが、墨書等は観察できない。

fig. 94 3トレンチ
SD 03 実測図

1. 緑土
2. 淡黄灰色粘性砂質土
3. 淡黄褐色粘性砂質土
4. 淡黄灰色粘性砂質土
5. 淡黄褐色粘性砂質土
6. 淡黄灰色粘性砂質土
7. 黄灰色粘性砂質土
8. 灰色粘性砂質土
9. 灰色粘性砂質土
10. 淡灰色粘性砂質土
- 11~13. 灰色粘質土
14. 淡灰色粘性砂質土
15. 黄褐色粘質土
- 16~19. 灰色粘質土
19. 黄褐色粘質土
- 20~21. 灰色粘性砂質土
22. 黄褐色粘質土
23. 黄褐色粘質土
24. 灰色粘性砂質土
25. 黄褐色粘質土
26. 黄褐色粘質土
27. 淡黄褐色粘性砂質土
28. 黄褐色粘質土
29. 黄褐色粘質土

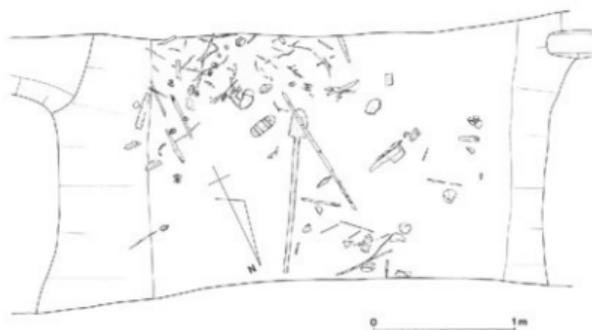
fig. 95 3トレンチ SD 03 全景
(北西から)

fig. 96 3 トレンチ SD 01
遺物出土状況 (東から)

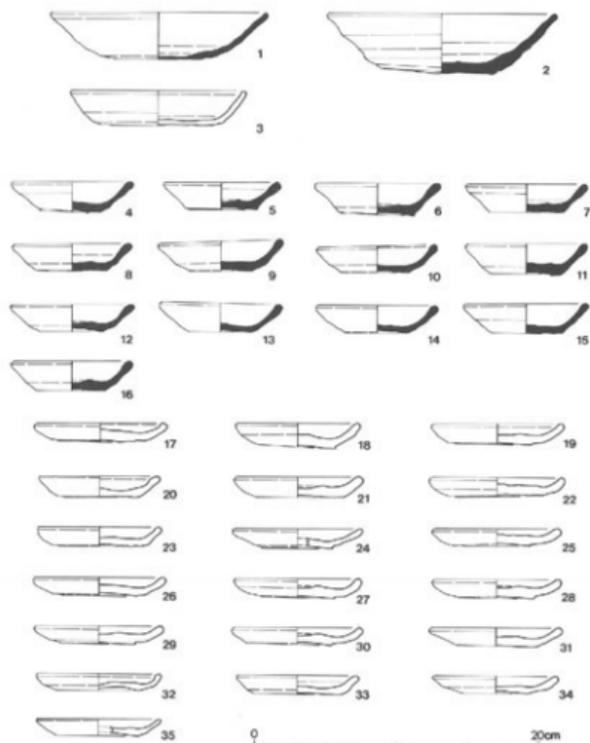


fig. 97 出土遺物実測図
1~3 SD 03
4~35 SD 16

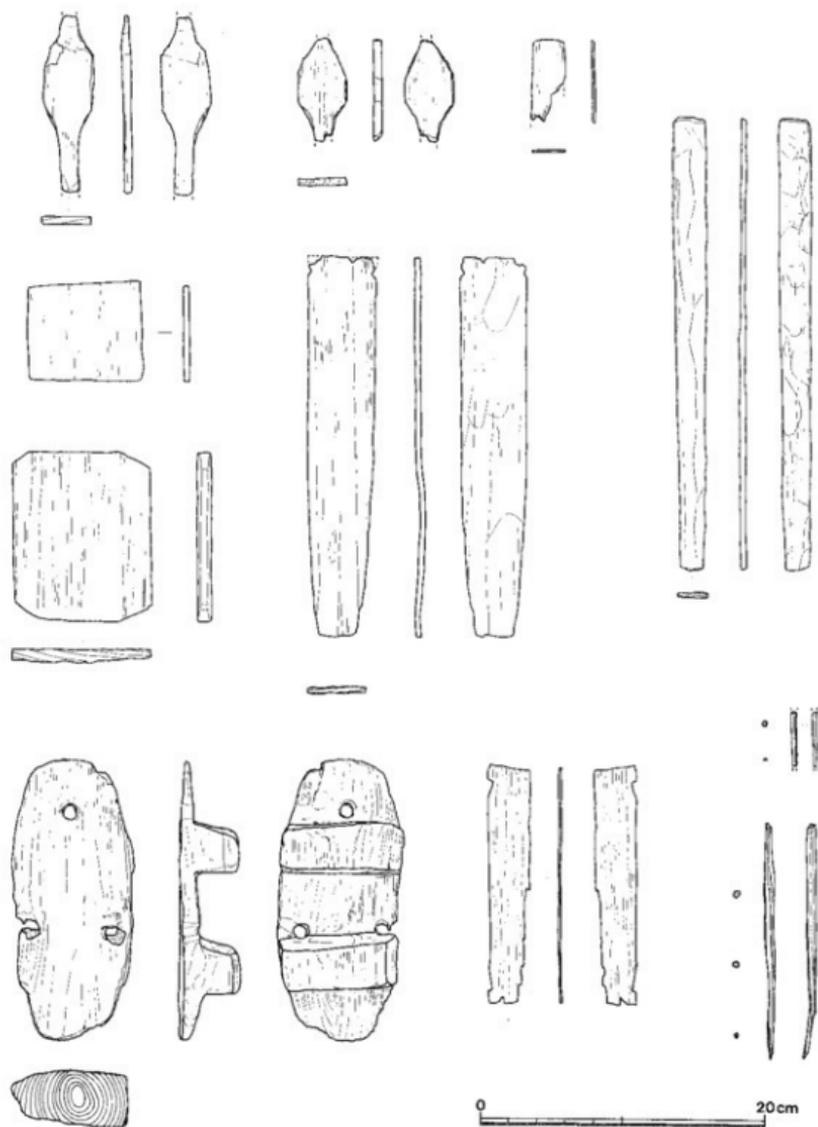


fig. 98 SD 03 出土木製品実測図

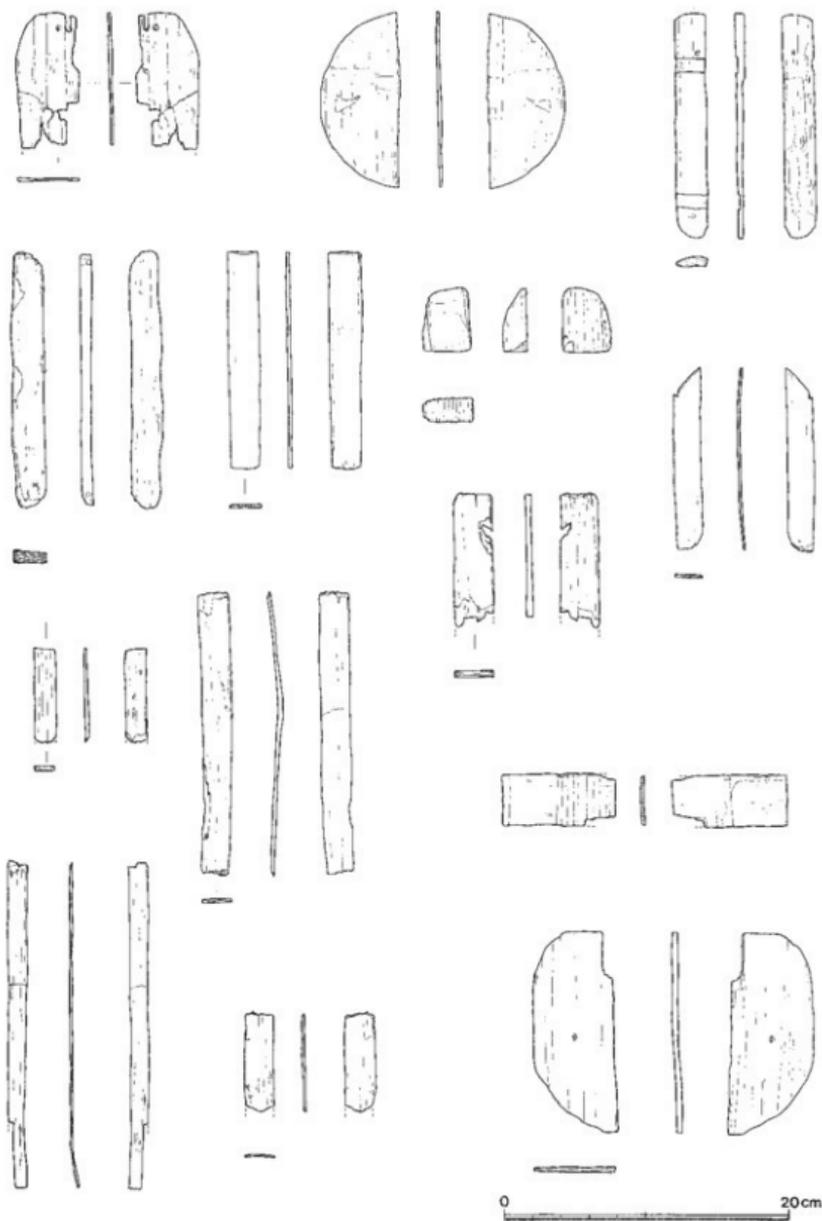


fig. 99 SD 03 出土木製品実測図

- SD 11 4トレンチ2区で検出した幅50cm、深さ15cmの溝状遺構である。埋土は灰色系のシルト層が主体となっている。出土遺物には、土師器小皿・須恵器小皿などがみられる。
- SD 16 4トレンチ3区で検出した幅3m、深さ15cmの溝状遺構である。埋土は灰色系のシルト層が主体である。トレンチ南端の西肩部分で須恵器小皿13枚、土師器小皿21枚が重なった状態で検出された。
- SD 21 4トレンチ5区で検出した幅4.6m、深さ60cmの溝状遺構である。埋土は灰色系のシルト層が主体である。出土遺物は、概して少なく、須恵器・土師器の小片のほか、植物遺体が若干見られた。
- SD 17 5トレンチ3区で検出した溝状遺構で、幅40cm、深さ12cmの南北方向のものに、幅25cm、深さ10cmの東西方向のものがとりつく。出土遺物には、須恵器小皿・埴・鉢、土師器皿などがある。
- SD 59 幅2m、深さ80cmのほぼ南北方向の溝状遺構である。須恵器の椀が出土している。
- SD 61 幅2m、深さ80cmのほぼ南北方向の溝状遺構である。須恵器の椀や土師器が出土している。
- SD 62 幅2m、深さ80cmのほぼ南北方向の溝状遺構である。須恵器の椀や甕のほか、白磁瓶が出土している。



fig. 100 4トレンチ全景(西から)

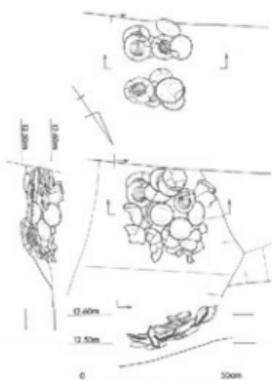


fig. 101 4トレンチSD 16
遺物出土状況実測図



fig. 102 4トレンチSD 16西屑 須恵器・土師器検出状況(東から)

fig. 103
5トレンチ
SD 17
平面図

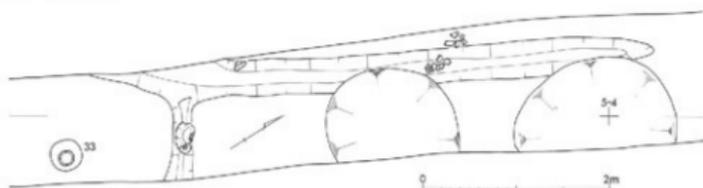


fig. 104 SD 17出土遺物
実測図



SB 01 (- 3区で検出した据立柱建物である。北側は調査範囲外のため、規模については明らかでなく、SP 54・55・56・57の柱穴から1×1間を確認できたにとどまる。柱間は2m前後である。また、ピットの断ち割り調査の結果、SP 54・56では、柱の掘形内中層に礎盤が確認できた。北側を除く3方向については、柱間にあわせて調査区の拡張を行ったが、柱穴は確認できなかった。

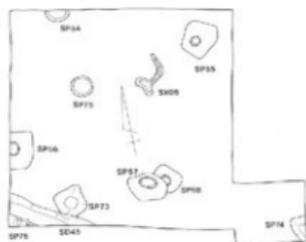


fig. 105 C-3区 SB 01 実測図



fig. 106
A・B・C-1・2・3区
第1遺構面全景(北から)

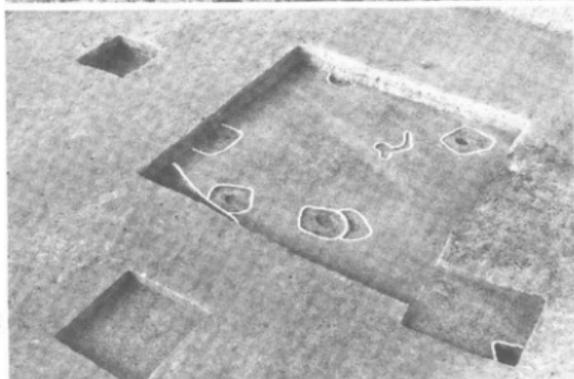


fig. 107 C-3区・拡張区
(南東から)

SP 48 C-2区で検出した長径40 cm以上、短径32 cm、深さ10 cmのピットである。埋土は灰色シルト質細砂で、底からやや浮いた状態で、土師器小皿を5枚検出した。

SX 08 C-4区で検出した長さ4.4 m、幅1.6 m、深さ70 cmの隅円方形の土坑である。多量の須恵器壺と土師器皿が出土している。埋土の状態から上層と下層に分けられる。上層は旧床土直下で検出したわずかな落ち込みで、その落ち込みの中に炭が全面に広がっている。上層の出土遺物の一括資料はこの炭層に覆われるように出土した。下層の出土遺物は、底面に接して出土し、土器の他、獣骨片や植物遺体などがある。

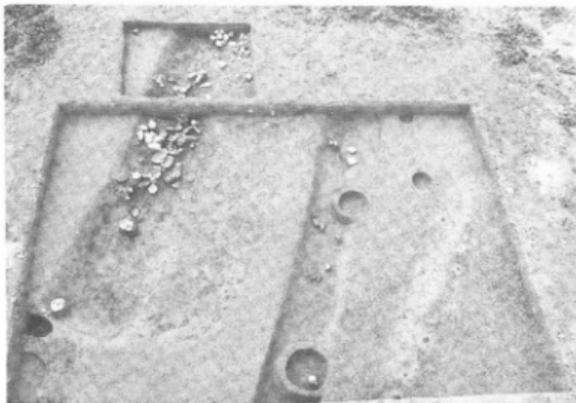


fig. 108 C-4区全景 (SX 08 上層) (東から)

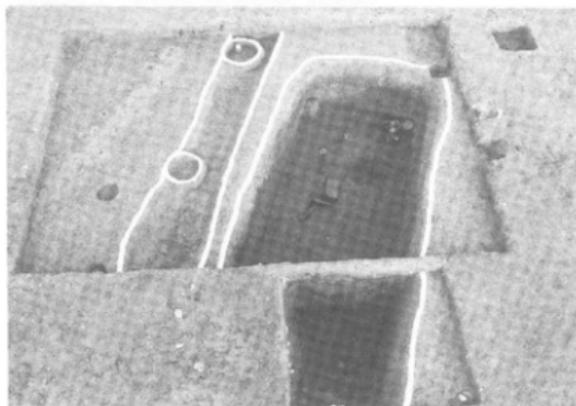


fig. 109 C-4区 (SX 08 下層) 遺物検出状況 (南から)

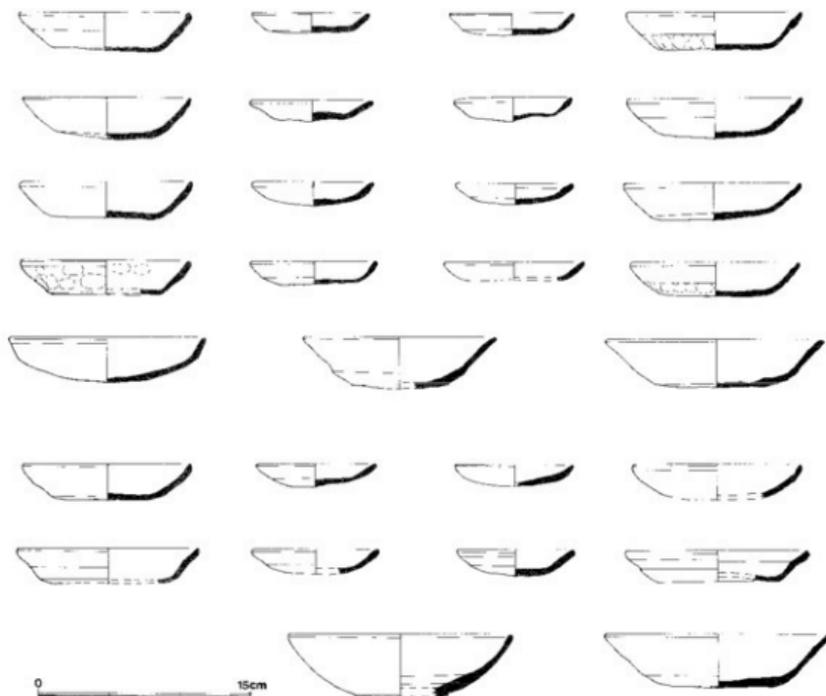


fig. 110 SX 08 出土遺物実測図

埋土の堆積状態は、下層がヘド口状で、木の葉など植物遺体の混入が認められることから自然堆積と考えられ、中間層では2～3層の暗黒褐色シルトのブロックを多量に含むことから人為的な埋没と考えられる。

第2遺構面 第2遺構面では、溝状遺構2条が確認された程度で、遺構の頻度は極めて低い。

～古墳時代後期) 4トレンチ3区で検出した南北方向の溝状遺構である。幅1.1 m、深さ30 cmで、断面形はV字形である。出土遺物はなく、時期については明確にできない。

SD 28 4トレンチ5区で検出した東西方向の溝状遺構である。最大幅1.8 m、深さ20 cmで、断面形は鈍いU字形である。埋土は灰色系のシルト質細砂が主体となっている。出土遺物には、弥生時代後期の土器片と古墳時代後期の坏身片がある。

SD 31 5 トレンチ 2 区で検出した溝状遺構で、東西方向に走る。最大幅 70 cm、深さ 15 cm である。埋土は灰色系の細砂が主体となっている。出土遺物はなく、時期については明確にできない。



fig. 111 第2遺構面 遺構配置図

第3遺構面 第3遺構面は、黒褐色粘土が基盤層となっており、厚さ約 50 cm の灰色（弥生時代前期）系の極細砂～細砂で構成される洪水砂によって埋没している。遺構は、調査区の西半部に集中しており、溝状遺構を 5 条確認している。このうち、3 条の溝状遺構は、北西から東北方向へ緩やかに弧を描いて、ほぼ平行に走っている。この 3 条については、埋土が灰色系の極細砂～粗砂で構成され、同時期に営まれていたと考えられる。便宜的に下記のとおり、外列・中列・内列と呼称しておく。遺物は、SD 29 の南肩と SD 24 から壺形土器が出土し、SD 53 の溝底から木葉文を施した壺形土器片が出土した。

外列 —— 5 トレンチ 1 区 SD 30・B-1 区 SD 53

3 トレンチ 7 区 SD 20・A-2 区 SD 53

中列 —— 5 トレンチ 1 区 SD 29・A-1 区 SD 50

4 トレンチ 1 区 SD 24

内列 —— 5 トレンチ 0 区 SD 32・33

A-1 区 SD 51・4 トレンチ 1 区 SD 25

また、他の溝状遺構の埋土は、先の 3 条と異なり、灰褐色の極細砂混じりシルトである。出土遺物はなく、時期については明確にできない。

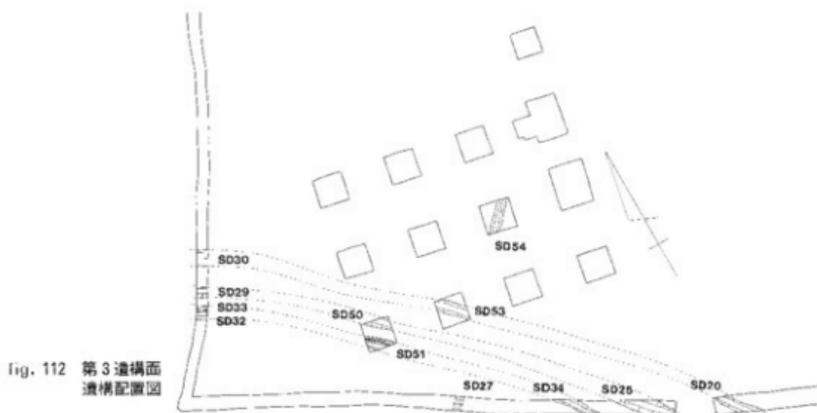
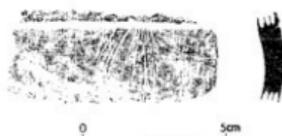
fig. 112 第3遺構面
遺構配置図

fig. 113 弥生時代前期の遺物拓影

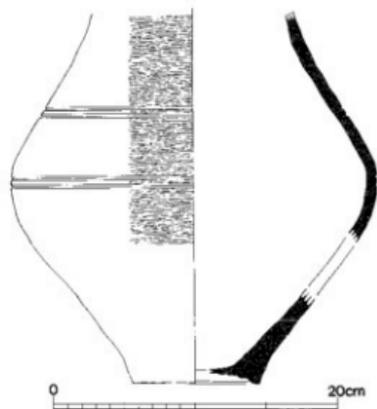


fig. 114 弥生時代前期の遺物支測図

3. まとめ

今回の調査では、3時期の遺構面を確認した。

まず、弥生時代前期の第3遺構面では、西南に隣接する自然堤防を取り囲むように巡る3条の溝状遺構が確認できた。これらの溝状遺構の内側にあたる自然堤防上には、弥生時代前期の集落が立地しているものと考えられる。また、出土遺物の中で、木葉文が施された壺形土器があるが、北側に位置する玉津田中遺跡でも出土例が知られるが、神戸市内では10例に満たないものである。

弥生時代後期から古墳時代後期の第2遺構面では、溝状遺構を確認したが、出土遺物も少なく、多くを語ることはできない。

平安時代後半から鎌倉時代にかけての第1遺構面では、条里方向に乗った数多くの溝状遺構と掘立柱建物と考えられるピットを数多く確認した。遺物では、SD 16、SX 08などで良好な一括資料が得られたほかに、SD 03から木製品が出土するなど、重要な資料が得られた。

8. 出合^{であい}遺跡 第26次調査

1. はじめに

出合遺跡は日本住宅公団（当時）が、宅地造成を玉津町出合に計画し、それに伴って昭和52年～同59年にかけて行われた発掘調査により、その内容が具体的に知られるようになった遺跡である。

その後、この宅地造成地と県道明石～野村線を結ぶ県道明石～国包線の建設が計画され、昭和61年2月に行った道路予定地の試掘調査では、北半部で鎌倉時代と弥生時代後期～古墳時代前期の遺構面が検出された。南半部はその土層より水田地帯と推定されたが、畦畔等は確認されなかった。

昭和61年11月より道路建設予定地の北側から調査を開始し、平安時代～鎌倉時代の掘立柱建物、土坑、溝、鎌倉時代以降の土坑、溝、ピット、弥生時代後期の周溝、掘立柱建物、弥生時代後期～古墳時代初頭の溝、ピットと土器群、さらに下層から弥生時代中期後半の河道が検出された。

昭和62年10月からの調査は、前調査区と県道野村～明石線間に残っていた部分の調査で、弥生時代後期の溝、平安時代～鎌倉時代の溝、ピットが検出された。



fig. 115
調査地位置図
1 : 5000

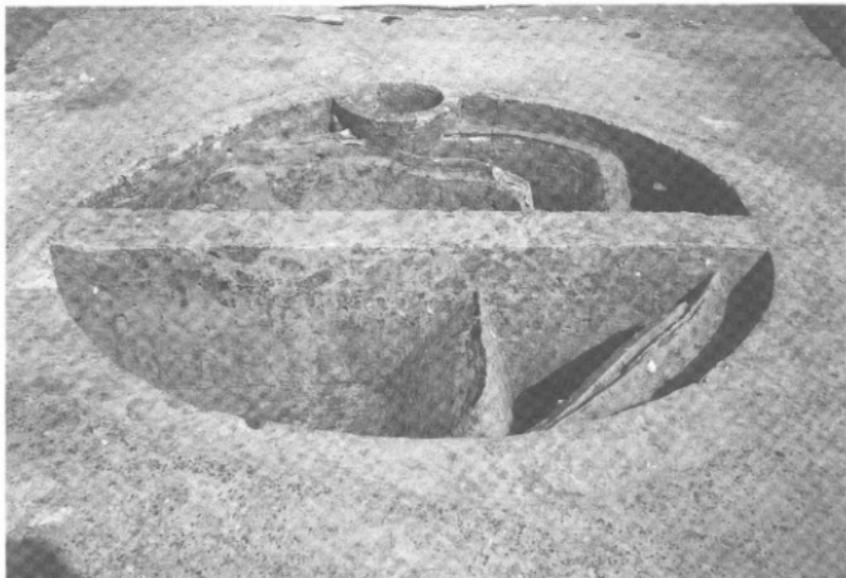


fig. 116 土坑検出状況（南から）



fig. 117 水田遺構検出状況（北から）

2. 調査の概要 今回の調査は県道野村～明石線との接点から南へ約200m地点が北端となる、南北約60m、幅14mの範囲である。

層序 調査地の基本層序は15層よりなっており、現在まで、第8層上面、第9層上面、第13層及び第14層上面で遺構が確認されている。第8、9層は、中世以降の土坑、第13層は水田、第14層は弥生時代の遺構である。このうち第9層上面で確認された土坑は、第8層上面で検出した土坑と形態が酷似しており、ほぼ同時期のものと考えられる。この2層で検出された土坑は、直径1mから1.8mの平面円形のもので、坑壁上端付近には、細長く削いた竹様ものが坑壁にはり付いて1周ないし半周して残存していた。

水田 水田遺構は、弥生時代のサヌカイト製石鎌や、5世紀～13世紀の須恵器・土師器等を含む第9層の下約35cmで検出されたもので、第9層と水田面との間に堆積した土層からは、遺物はまったく検出されていない。

水田は、北端も東西端および土層観察の結果から、調査地北端から約10m～14mの範囲にはなく、それより南方にひろがっているものと思われる。

畔で囲まれた1区画の水田が完全に検出できたものはないが、調査地中央部で出土した畔から推定復元すると、東西約10m、南北約16mの規模になる。水田遺構部分の北端と南端のレベル差は、20数cmである。畦畔は、幅60cm前後のもの、幅40cmのものに分けられるが、矢板等を打ち込んだものは全くない。

調査地南コーナー部分は、東西方向の水路となっていた。中央に中島状のものが残っていた。水路北側の畔状のたかまりおよび中島部分が、水田内にある畦畔とはほぼ同質の黒灰色～暗灰色粘質土であったことは、人の手が加えられていることを示すものと考えられる。また、検出範囲では水を操作するような施設はなかった。

この水田面の直下にある第14層には弥生時代中期の遺構があると思われるが、現在調査中である。

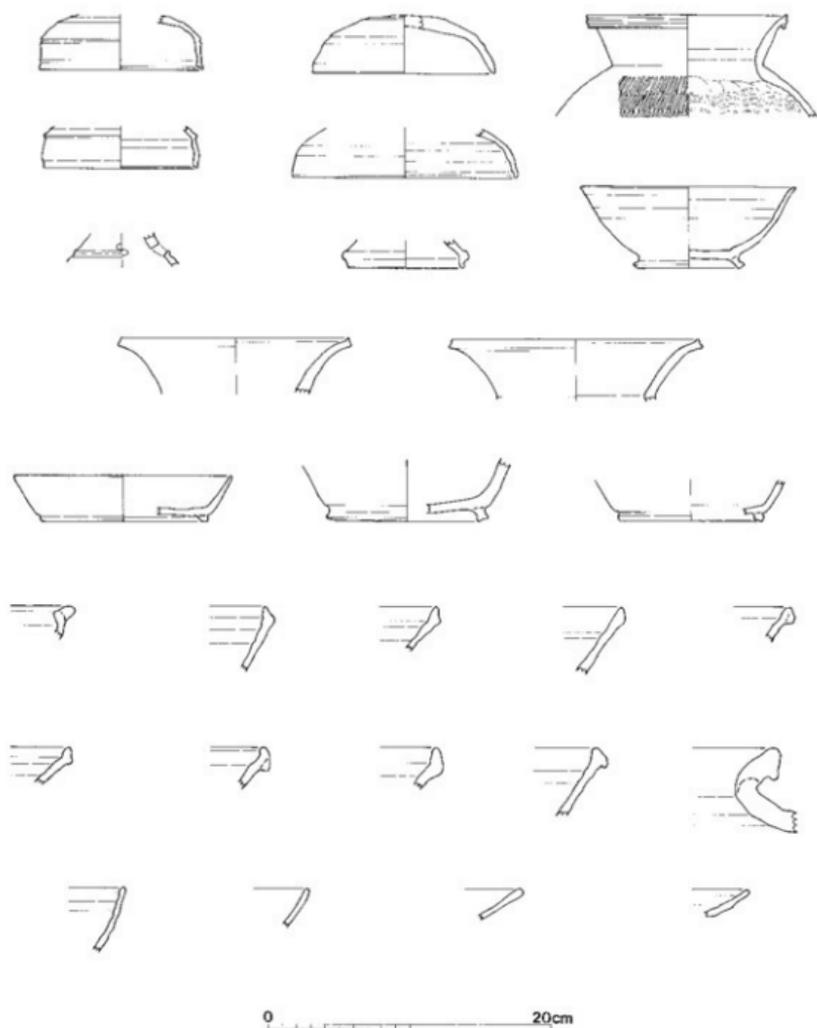


fig. 118 出土遺物実測図

よしだみなみ 9. 吉田南遺跡 第17次調査

1. はじめに 当遺跡は、神戸市西区森友1丁目から明石市北王子町にかけて所在しており、明石川下流右岸にひろがる標高約7mの沖積地に立地している。
- 昭和51年、玉津環境センター建設に先立つ試掘調査で遺跡の存在が明らかになり、その後の本格的な発掘調査が実施された。調査の結果、掘立柱建物約80棟、竪穴住居約100棟のほか、木橋・棚・井戸など多くの遺構・遺物が検出された。
- また、弥生時代から鎌倉時代にかけての弥生土器・須恵器・土師器・木製品が多量に出土したほか、金属製品・石製品等も出土した。
- 今回の調査は、玉津環境センターの脱水機棟増設工事に伴うもので、工事により、破損を受ける約200㎡を対象として調査を実施した。
2. 調査の概要 北側の154㎡を北地区、西側の48㎡を西地区、南東側の4か所を南地区と呼称する。

まず、重機により、盛土・旧表土を除去した後、人力により掘り下げた。調査の結果、弥生時代～古墳時代にかけての竪穴住居が22棟、古墳時代の掘立柱建物が1棟、弥生時代～古墳時代の土坑22基・溝9条・ピット多数が検出された。弥生時代後期～古墳時代後期の土器・石器・鉄器等がコンテナ約30箱分出土している。



fig. 119 調査地位位置図 1 : 2500

北地区 現地表下約 50 cm において、第 1 遺構面が検出され、この層の下約 60 cm で第 2 遺構面が検出され、約 80 cm で第 3 遺構面が、約 90 cm で第 4 遺構面が確認された。

第 1 遺構面 古墳時代後期の竪穴住居 6 棟、土坑 4 基、ピット多数を検出した。遺構の重複関係より、2 時期に大別され、新しいものは 6 世紀後半～末頃、古いものが 6 世紀前半～中頃のものと考えられる。新しい時期の遺構としては、ピットを 55 基検出している。古い時期の遺構としては、SB 01～04・SB 08・09 および SX 01・02、SK 02・03 が挙げられる。

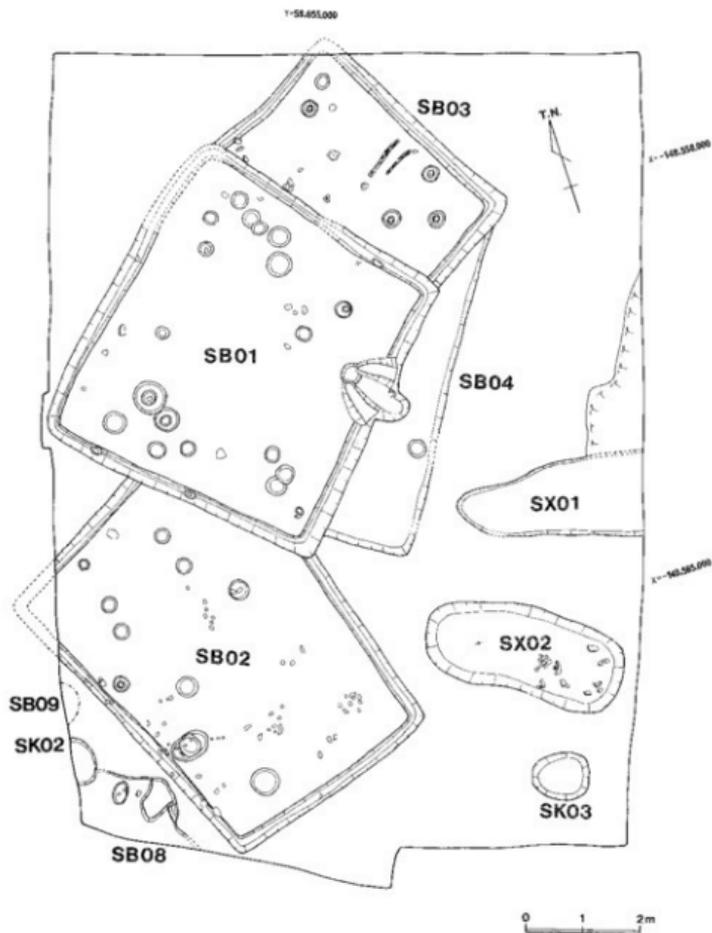


fig. 120
北地区
第 1 遺構面
平面図



fig. 121
北地区第1遺構面
全景（南から）

SB 01 5.4 × 5.3 m、深さ20 cmの方形の竪穴住居で、幅20 ~ 30 cm、深さ10 cmの周壁溝が巡らされており、南西壁のほぼ中央にカマドを付設している。床面はほぼ平坦で、主柱穴は4本と考えられる。

遺物は、南隅の床面直上で、須恵器坏身が出土し、北隅の床面直上で、土師器の小型丸底壺が、住居の中央よりやや東側よりの床面直上で、土師器高坏が出土している。

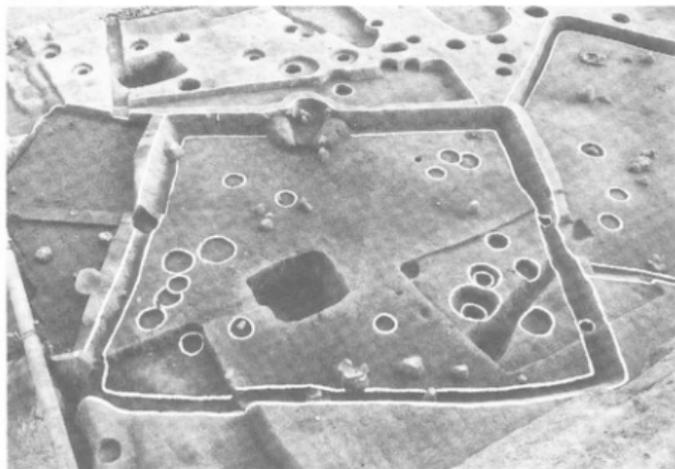


fig. 122
SB 01 全景（西から）

SB 02 北東側をSB 01に切られており、南北6.6 m、東西4.5 m、深さ20 cmの長方形の竪穴住居で、幅20 cm、深さ10 cmの周壁溝が巡らされている。西壁のやや南よりで長径70 cm×短径45 cm、深さ10 cmの地床炉を検出した。床面はほぼ平坦で、柱穴は数箇所確認されたが、支柱穴については不明である。遺物は、西側の床面直上で、須恵器壺・坏、土師器高坏・甕等が出土している。

SB 03 西側をSB 01に切られており、南北4.7 m、東西5.4 m、深さ30 cmの方形の竪穴住居で、幅20～30 cm、深さ10 cmの周壁溝が巡らされている。床面はほぼ平坦で、支柱穴は4本と考えられる。

遺物は、北側の床面直上で、土師器高坏・小型丸底壺等が出土している。また、西隅及び東壁において、少量の炭化材を検出している。

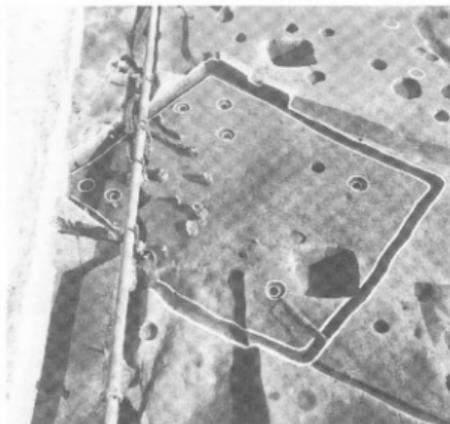


fig. 123 SB 03 全景 (西から)

SB 04 北側をSB 01・03に切られており、全体の規模は不明であるが、現存している部分の大きさは、6.0×1.5 m、深さ20 cmである。恐らく、方形あるいは長方形の竪穴住居と考えられる。現存している東壁および南壁で周壁溝は検出されなかった。床面はほぼ平坦で、柱穴は1か所で確認されたが、支柱穴については不明である。

SB 08・09 竪穴住居のカマドの部分のみ検出した。SB 08では凝灰岩製の砥石を、SB 09では須恵器高坏などが焼土・炭など共に出土した。

SX 01 SB 01・04の東側で検出された楕円形の土坑状遺構で、東西3.3 m以上、南北1.4 m、深さ20 cmである。埋土内より、須恵器・土師器の他、少量の焼土・炭が検出されている。

SX 02 SX 01の南側で検出された楕円形の土坑状遺構で、東西3.5 m、南北1.5 m、深さ20 cmである。埋土内より、須恵器・土師器の他、少量の焼土・炭が検出されている。

SK 03 SX 02の南側で検出された楕円形の土坑で、東西1.0 m、南北80 cm、深さ20 cmである。埋土内より、須恵器・土師器が出土している。

第2遺構面 古墳時代前期～中期の竪穴住居7棟、土坑7基、溝1条、ピット数基を検出した。遺構の重複関係より、2時期に大別され、新しいものは5世紀後半～末頃に、古いものは4世紀後半～5世紀中頃のものと考えられる。

新しい時期の遺構は、土坑5基 (SK 01・12・13・14・15)、ピット18基である。古い時期の遺構は、SB 14・15・16・17・18・20・21 および SK 16・17、SD 02 である。

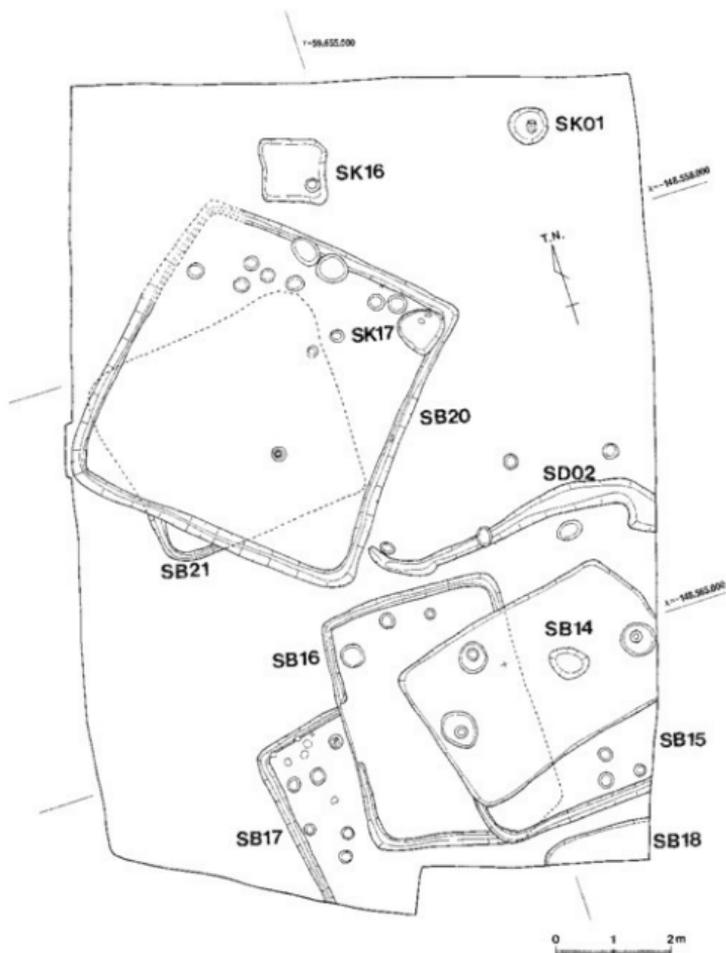


fig. 124 北地区第2遺構面平面図